

里前遺跡（第2次）発掘調査報告

～三重県津市野田所在～

2005（平成17）年3月

三重県埋蔵文化財センター



SZ55出土繪画土器



SE68出土漆椀



墨書土器

序

三重県の県都、津市は西に布引山系、東に伊勢湾を臨み、安濃川・岩田川をはじめとする河川がつくりあげた豊かな場所にあります。古くは安濃津という東日本にひらく良港としての悠久の歴史をもっています。

現在の私たちの生活は、これら先人たちの苦労や工夫の上に成り立っています。今では人知れず大地の下に埋もれている埋蔵文化財は、人々がその時代を生きた証であり、その一つ一つが私たちに地域の歴史像を伝えてくれる貴重な文化遺産であります。

さて、里前遺跡では、中勢道路建設事業に伴ない発掘調査が行われ、鎌倉時代の多数の墨書き土器が出土した著名な遺跡です。今回報告いたします第2次調査では古くは弥生時代からこの地で人々の生活が行われていたことや、鎌倉時代や室町時代の集落の跡がみつかり多数の遺物が出土しました。これまでの発掘調査により得られた情報をつなぎ合わせることによって、かつてこの地にあった集落の様子が克明にわかつてまいりました。この報告書が後世に地域の歴史を伝えるとともに、地域の文化的環境育成のため、より多くの方面で活用されることを切望いたします。

最後になりますが、この発掘調査や報告書作成に多大なご尽力をいたしました地元の方々をはじめとする関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例　　言

- 1 本書は、三重県津市野田字里前に所在する里前（さとまえ）遺跡の第2次発掘調査報告書である。
- 2 調査は下記の体制で実施した。

調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター

調査第一課 技師 水谷豊（A・B・C地区）
主事 宮田勝功（D地区）
研修員 萩良樹 川合圭子 清水実華

発掘作業委託 （財）三重県農業開発公社
- 3 本書の編集は竹田憲治が、執筆は水谷豊と酒井巳紀子が、遺物の写真撮影は田中久生が担当した。なお、文責は目次と文末にも表記した。
- 4 本書が対象とした調査面積は1,300m²（内下層140m²）である。
- 5 本書が対象とした現地調査期間は、平成12年6月12日から平成12年12月28日である。
- 6 本書に用いた地図・遺構図の方位は、国土調査法第VI系座標の座標北を用いた。磁北は6度40分西偏している（平成7年、国土地理院）。
- 7 本書では、下記の遺構表示略記号を用いた。

SD：溝・流路 SE：井戸 SK：土坑 SX：墓 SZ：不明遺構
- 8 本書で表記する色調は、小山・竹原編『新版標準土色帖』（9版、1989年）に準拠した。
- 9 発掘調査及び本書の作成に際しては、地元津市教育委員会のほか下記の方々にご指導・ご協力をいただいた（敬称略）。

青木哲哉（立命館大学）、亀山隆（亀山市教育委員会）、濱辺一機（四日市市教育委員会）、藤澤良祐（愛知学院大学）、松井一明（袋井市教育委員会）
- 10 本書が扱う発掘調査の原因事業は、県営ほ場整備事業（津中部地区）である。
- 11 発掘調査の経費は三重県農林水産工商部と三重県教育委員会が負担した。
- 12 本書が扱う発掘調査の資料並びに出土遺物等は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

本文目次

I	前言	(水谷)	1
1	調査の契機		1
2	調査の経過		1
3	文化財保護法等にかかる諸通知		1
II	位置と歴史的環境	(水谷)	5
1	位置		5
2	歴史的環境		5
3	過去の調査成果		6
III	A地区の調査成果		7
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	7
2	検出した遺構	(水谷)	7
3	出土した遺物	(酒井)	7
IV	B地区の調査成果		16
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	16
2	検出した遺構	(水谷)	17
3	出土した遺物	(酒井)	20
V	C地区の調査成果		27
1	調査区の地形と基本層序	(水谷)	27
2	検出した遺構	(水谷)	27
3	出土した遺物	(酒井)	32
VI	D地区の調査成果		40
1	調査区の地形と基本層序		40
2	検出した遺構		40
3	出土した遺物		43
VII	範囲確認調査出土遺物		52
VIII	結語		72
1	遺構の変遷について		72
2	絵画土器について		75
3	鉄製煮沸具について		77
4	中世前期の墨書き土器について		78

挿 図 目 次

第1図 里前遺跡調査区位置図		2
・範囲確認坑配置図		
第2図 遺跡位置図		5
第3図 A地区遺構平面図		8
第4図 A地区土層断面図		9
第5図 SE54平面図・断面図①		10
第6図 SE54平面図・断面図②		11
第7図 SE54出土遺物実測図		12
第8図 SD51出土遺物実測図		13
第9図 SZ55出土遺物実測図①		14
第10図 SZ55出土遺物実測図②		15
第11図 SZ55③、包含層出土遺物実測図		16
第12図 B地区遺構平面図		17
第13図 B地区土層断面図		18
第14図 SK65平面図・断面図		19
第15図 SE68平面図・断面図		20
第16図 SD62・66・57・60①出土遺物実測図		22
第17図 SD60出土遺物実測図②		23
第18図 SD60③、SK56・65、SE68① 出土遺物実測図		24
第19図 SE68出土遺物実測図②		25
第20図 SZ58、Pit、包含層出土遺物実測図		26
第21図 C地区遺構平面図・土層断面図		28
第22図 SK91平面図・断面図		29
第23図 SD74・119平面図・断面図		29
第24図 SX73・84平面図・断面図		30
第25図 SE71・104・116平面図・断面図		31
第26図 SD74・107・110・88・92・95・86 ・76・78・75・114出土遺物実測図		33
第27図 SK111・115・91・70・109・113・72 ・106・98、SX84・73、SE71①・116		
出土遺物実測図		34
第28図 SE71出土遺物実測図②		35
第29図 下層遺構出土遺物実測図		36
第30図 Pit、包含層①出土遺物実測図		37
第31図 包含層出土遺物実測図②		38
第32図 D地区遺構平面図		39
第33図 D地区土層断面図		40
第34図 SD129平面図・断面図		41
第35図 SK128平面図・断面図		42
第36図 SX154・125・152平面図・断面図		42
第37図 SE126平面図・断面図		43
第38図 SD121出土遺物実測図①		44
第39図 SD121出土遺物実測図②		45
第40図 SD129出土遺物実測図①		46
第41図 SD129出土遺物実測図②		47
第42図 SK128出土遺物実測図		48
第43図 SD148・136・134・137・127、 SK139・135・150、SX125・152・154、 SE126、Pit出土遺物実測図		50
第44図 包含層出土遺物実測図		51
第45図 範囲確認調査出土遺物実測図		52
第46図 第I期遺構変遷図		73
第47図 第II期遺構変遷図 (範囲確認調査結果含む)		73
第48図 第III期遺構変遷図		74
第49図 第IV期遺構変遷図		74
第50図 絵画土器実測図・位置図・一覧表		76
第51図 鉄製煮沸具実測図 ・位置図・一覧表		78

表 目 次

第1表 範囲確認調査結果一覧表①		3
第2表 範囲確認調査結果一覧表②		4
第3表 遺構一覧表①		53
第4表 遺構一覧表②		54
第5表 出土遺物観察表①		55
第6表 出土遺物観察表②		56
第7表 出土遺物観察表③		57
第8表 出土遺物観察表④		58

第9表	出土遺物観察表⑤	59	第17表	出土遺物観察表⑬	67
第10表	出土遺物観察表⑥	60	第18表	出土遺物観察表⑭	68
第11表	出土遺物観察表⑦	61	第19表	出土遺物観察表⑮	69
第12表	出土遺物観察表⑧	62	第20表	出土遺物観察表⑯	70
第13表	出土遺物観察表⑨	63	第21表	出土木製品・石製品・鉄製品 観察表	71
第14表	出土遺物観察表⑩	64	第22表	里前遺跡墨書分類表	79
第15表	出土遺物観察表⑪	65	第23表	墨書分類表	79
第16表	出土遺物観察表⑫	66			

写真図版目次

卷頭	SZ55出土絵画土器・SE68出土漆椀 墨書土器		図版8	A・B地区出土遺物	92
図版1	A地区調査区全景	85	図版9	B地区出土遺物	93
	B地区調査区全景	85	図版10	B地区出土遺物	94
図版2	C地区下層調査区全景	86	図版11	B地区出土遺物	95
	SE71遺物出土状況	86	図版12	B・C地区出土遺物	96
図版3	D地区調査区全景	87	図版13	C地区出土遺物	97
	SX152遺物出土状況	87	図版14	C地区出土遺物	98
図版4	SE126遺物出土状況	88	図版15	D地区出土遺物	99
	SE126断面	88	図版16	D地区出土遺物	100
図版5	A地区出土遺物	89	図版17	D地区出土遺物	101
図版6	A地区出土遺物	90	図版18	D地区出土遺物	102
図版7	A地区出土遺物	91	図版19	D地区出土遺物	103
			図版20	D地区・範囲確認調査出土遺物	104

I 前 言

1 調査の契機

平成9年度以降行われている津中部地区県営ほ場整備事業に伴い、三重県埋蔵文化財センターでは随時範囲確認調査を行い、保護協議の上、現状保存困難な場所において発掘調査を実施している。平成11年度には277,350m²を対象に、替田遺跡・武ノ坪遺跡・惣作遺跡・里前遺跡の所在する地域において遺跡の範囲確認調査を実施した。

このうち里前遺跡では、51ヶ所の範囲確認坑のう

ち17カ所で遺構を確認した（第1図、第2表）。その結果、中世を中心とした集落の存在と、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が出土することから、周辺にその当時の遺構の広がる可能性も考えられた。

そこで三重県埋蔵文化財センターでは、事業者と埋蔵文化財保護のための協議を行い、平成12年度には現状保存が困難な1,300m²について、記録保存のための発掘調査を行うことになった。

2 調査の経過

(1) 調査経過概要

第2次調査は、里前遺跡の4地区（A～D地区）について行った。里前遺跡の調査は9月7日よりA地区から重機による表土掘削を行い、以下B～D地区の順に作業を行った。調査は12月28日に終了した。

詳細及び作業日誌（抄）については『惣作遺跡発掘調査報告』に述べたため、それを参照されたい。

(2) 発掘調査の方法

①小地区的設定

今回の調査では、各調査区内を4m四方の枠目で切ることによって小地区を設定した。西からアルファベット、北から数字をつけ、枠目の北西隅の交点をその地区的符号とした。なお、この小地区設定は各調査区ごとに行い、国土座標軸や第1次調査とは無関係である。

②掘削と遺構番号の付与

表土掘削は重機（バックホー）を用い、包含層お

よび遺構の掘削は人力で行った。

遺構番号は、溝や土坑などの遺構は全体の通し番号（第1次調査からの通し番号）を、ピットについては各グリッドごとに通し番号を付与した。なお、第1次調査からの遺構番号は第3・4表に掲載した。

③記録保存の方法

遺構図 発掘調査では、遺構検出時に1/40にて遺構検出状況などを記録した。その後、遺構掘削後に、平面図をA地区は平板測量により1/100で、B～D地区は手描きにより1/20で平面図を作成した。また、遺物出土状況図については個別に1/10の実測図を作成した。

遺構写真 遺構写真是モノクロとカラーリバーサルフィルムを用い、35mm、プロニー判を作成した。なお、遺構写真の一部は現場プレハブに保管中盗難にあったため、本書に掲載することができなかった。

3 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）にかかる諸通知は、「里前遺跡（第2次）他」として、以下により行っている。

・法に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項

（県教育長あて）

平成12年5月29日付け農基第320号

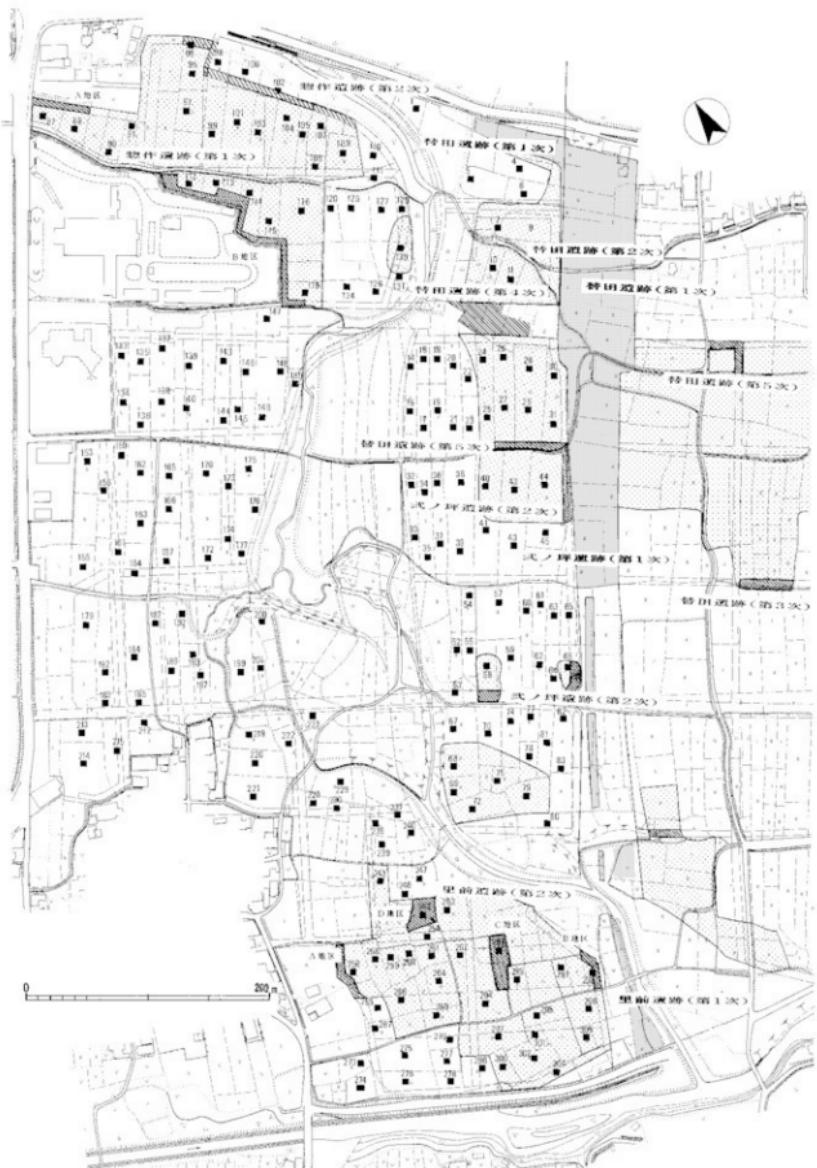
・法58条の2第1項（県教育長あて）

平成12年6月19日付け教理第86号

・遺失物法による文化財発見・届出通知（津警察署長あて）

・平成13年3月5日付け教生229-17号（県教育長通知）

（水谷）



第1図 里前遺跡調査区位置図・範囲確認坑配置図 (1:4,000) (■は範囲確認坑)

替田遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲		遺物包合層	遺構上層	遺構	遺物	備考
No.	(cm)					
1						
2						欠番
3						欠番
4						
5						
6						
7	77	ピット				欠番
8						
9						土師器
10	55	ピット				
11	46	ピット				土師器
12						欠番
13						

式ノ坪跡範囲確認調査結果一覧表

範囲		遺物包合層	遺構上層	遺構	遺物	備考
No.	(cm)					
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						自然流路
25						
26	40	80	清(下層)			砂生土器、土師器
27		30	清			土師器、須恵器
28	30					土師器、須恵器
29		30	清			自然流路上
30	40					砂生土器、土師器、須恵器
31						自然流路
32						
33						
34						
35						
36						
37						自然流路
38						
39						
40		40	泥			
41						
42						
43						
44						
45						
46~51欠番						
52						
53						欠番
54						
55						欠番
56						
57						
58		20	清			
59						
60						
61						
62						
63						
64						
65						
66		30	清			
67						
68		50	清、ピット			
69		45	清、ピット			
70						
71						欠番
72		50	清			欠番
73						
74						
75		30	清			自然流路
76						
77						

78	35	65	溝	土師器	
60					
51					
62					
53					
64					欠番
55					欠番
66					欠番

惣作遺跡範囲確認調査結果一覧表

範囲		遺物包合層	遺構上層	遺構	遺物	備考
No.	(cm)					
67	35	45	土坑	土師器	自然流路上	
58		30	溝	土師器	自然流路上	
59						自然流路
60						
61						
62						
63						
64						
65						
66						
67						
68						
69						
70						
71						
72						
73						
74						
75						
76						
77						

式ノ坪跡範囲確認調査結果一覧表

範囲		遺物包合層	遺構上層	遺構	遺物	備考
No.	(cm)					
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26	40	80	清(下層)			砂生土器、土師器
27		30	清			土師器、須恵器
28	30					土師器、須恵器
29		30	清			自然流路上
30	40					砂生土器、土師器、須恵器
31						自然流路
32						
33						
34						
35						
36						
37						自然流路
38						
39						
40		40	泥			
41						
42						
43						
44						
45						
46~51欠番						
52						
53						欠番
54						
55						欠番
56						
57						
58		20	清			
59						
60						
61						
62						
63						
64						
65						
66		30	清			
67						
68		50	清、ピット			
69		45	清、ピット			
70						
71						欠番
72		50	清			欠番
73						
74						
75		30	清			自然流路
76						
77						

上坪地区範囲確認調査結果一覧表

範囲		遺物包合層	遺構上層	遺構	遺物	備考
No.	(cm)					
63						
134						
135		30	溝			
136						
137		20	溝			
138						
139						
140						
141						
142						
143						
144						
145						
146						
147						
148						
149						山菜根

第1表 範囲確認調査結果一覧表①

150				欠番
151				欠番
152				欠番
153				欠番
154				欠番
155				欠番
156				欠番
157				欠番
158				欠番
159				欠番
160				欠番
161				欠番
162				欠番
163				欠番
164				欠番
165				欠番
166				欠番
167				欠番
168				欠番
169				欠番
170				欠番
171				欠番
172				欠番
173				欠番
174				欠番
175				欠番
176				欠番

浜堤内地区範囲確認調査結果一覧表

新規性	遺物告白層	遺物上蓋の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
177			山茶桜		
178					欠番
179					
180					
181					欠番
182					
183					
184					
185					
186					欠番
187					
188					欠番
189					
190					欠番
191					
192					欠番
193					
194					欠番
195					
196					欠番
197					
198					欠番
199					
200					
201					
202~212	欠番				
213					周囲
214					
215					
216					欠番
217					欠番
218					
219					
220					
221					
222					
223					欠番
224					欠番
225					欠番
226					欠番
227					欠番
228					
229					

豈田道跡・汎ノ洋道跡・笠作道跡・黒前道跡のうち、表土下で自然流路と思われる跡層を確認したものについては備考に「自然流路」とした。

里前遺跡範囲確認調査結果一覧表

新規性	遺物報告種	遺物上蓋の深さ(cm)	遺構	遺物	備考
230					自然流路
231					欠番
232					欠番
233					
234					欠番
235					欠番
236					
237					欠番
238					欠番
239					自然流路
240					自然流路
241					欠番
242					欠番
243		20	溝		
244					欠番
245					欠番
246					
247					自然流路
248					欠番
249					欠番
250					欠番
251		30	ビット		
252		30	ビット、土壙	土師器皿、山茶桜	
253		40	ビット		
254					
255					欠番 自然流路上
256		35	溝	土師器	
257		20	50	泥生土器等	
258		30		漆器	
259					
260					
261		30	溝	土闌器	
262		20	ビット、溝	土闌器	自然流路上 大帶
263					
264					
265					自然流路
266		20	50	井戸	山茶桜、土師器
267					
268					欠番
269					欠番
270					自然流路
271					欠番
272					欠番
273		25	45	溝	山茶桜、土師器
274					自然流路
275					自然流路
276					自然流路
277					自然流路
278					自然流路
279					欠番
280					
281					欠番
282					欠番
283					欠番
284					欠番
285					欠番
286					欠番
287		20	40	ビット、溝	山茶桜、土師器
288					
289					
290					
291					
292					
293		30	溝	土師器、拘器	
294		30	60	溝	拘器
295					自然流路
296					
297		30	50	ビット、溝	泥生土器、土師器
298					自然流路
299					欠番
300		35	50	溝	須恵器等、山茶桜、土師器
301					自然流路
302		40	50	溝	拘器
304					
305			30	ビット、土壙	

第2表 範囲確認調査結果一覧表②

II 位置と歴史的環境

1 位置

伊勢平野の西に連なる鈴鹿山脈の南部に位置する錫丈ヶ岳に源を発する安濃川は、下流域に南北約3km程の肥沃な沖積平野を形成し、津市島崎町付近で伊勢湾に注ぐ。その支流である三潤川は、殿村で安濃川と分流し、野田で岩田川と合流する。三潤川は、近世において津城と城下町の水害を防ぐために改修

が行われたと言う伝承があり^①、大雨時に安濃川から岩田川へ分流する事で被害を最小限に抑えようとしたと言う。

里前遺跡④は、岩田川と三潤川の合流する地点にあり、今回の調査区は、三潤川西岸に位置する。

2 歴史的環境

里前遺跡の近隣の遺跡について発掘調査例を中心
に弥生時代以降の遺跡について概観する。

安濃川流域の弥生時代を語る上でまずあげられる
のは納所遺跡^②であろう。安濃川下流域左岸の自然
堤防上に所在し、前期から後期に至る遺物が出土し
ており、この辺りの拠点的な集落として位置付けら

れている。安濃川右岸では納所遺跡にやや遅れて半
田丘陵上に上村遺跡^③が出現する^④。上村遺跡では後
期までの遺物が見られ、丘陵上の中心的な集落であ
る。この他、殿村遺跡^④や森山東遺跡^⑤・松ノ木遺
跡^⑥などでも前期の土器が出土している。森山東遺
跡では遠賀川系の土器が出土した水田跡が検出され、



第2図 遺跡位置図 (1:50,000) (国土地理院「津西部」「津東部」1:25,000より)

松ノ木遺跡では前期末に遡る可能性のある方形周溝墓が検出されている。

中期になると、安濃川流域の遺跡数は増加する。前半には、右岸では替田遺跡⁷・式ノ坪遺跡⁸、左岸には蔵田遺跡⁹等があげられる。替田遺跡・式ノ坪遺跡では竪穴住居が検出され、蔵田遺跡では掘立柱建物が検出されている。また蔵田遺跡では灌漑用の溝と井堰が確認されており、生産遺跡として注目される。替田遺跡・式ノ坪遺跡では、墓の可能性のある土坑が多数検出されており、同様のものが納所遺跡や亀井遺跡¹⁰でも見られる。同時期の墓制では納所遺跡や蔵田遺跡で方形周溝墓が確認されている。

これら沖積地に出現した遺跡は、中期後半になると遺構・遺物ともはっきりしなくなる。それと同時に長岡丘陵上に200棟以上の竪穴住居が確認された長遺跡¹¹や山麓遺跡¹²等が出現することは非常に興味深い。これらの遺跡は後期まで存続せずに短期間に姿を消すという特徴がある。

後期には丘陵上や裾部に遺跡が多く見られる。また、大城遺跡・前田遺跡・大ヶ瀬弥生墳丘墓¹³・高松弥生墳丘墓¹⁴・鎌切遺跡¹⁵など丘陵上に集団墓から脱却した墓が築かれるようになり、古墳時代に入ると安濃川流域では最古と考えられる坂本山古墳群¹⁶が出現する。低地部では弥生時代末～古墳時代初期の方形周溝墓が位田遺跡¹⁷で見つかっている。

5世紀になると首長墓と考えられる安濃川中流域には明合古墳、下流域には伊勢湾を見下ろすように全長85mの池ヶ谷古墳が築かれる。後期には殿村1号墳¹⁸・おこし古墳¹⁹・鎌切3号墳²⁰・御屋敷跡13号墳²¹のような全長30m程度の前方後円墳が分散して見られる。また長谷山東麓には総数500基を超える

長谷山古墳群があり、その一支部である平田古墳群²²が調査されている。替田遺跡では石剣が出土しており、注目される。

奈良・平安時代には、安濃川流域は安濃郡に含まれる。官道は、東海道が鷹鹿間で分岐し、伊勢・志摩国府を指向する伊勢道が通過していることが文献から確認できるが、そのルートや安濃郡に設置された「市村駅」については確認されていないものの、津市殿村・野田付近が有力な説としてあげられている。当時の遺跡としては、安濃町淨上寺南遺跡²³や淨土寺米買遺跡²⁴で奈良・平安時代の竪穴住居・掘立柱建物・井戸などの遺構や円面硯・縁釉陶器などが出土し、拠点的な集落と考えられている。替田遺跡や里前遺跡では石器が出土し、官人層の存在が指摘されている。

安濃川流域は近年まで条里制の方画地割が良好に残っていた地域で、N30°Eの条里プランの復元が提示され、発掘調査でもその方向に沿った遺構が確認されている。式ノ坪遺跡では平安時代前期と考えられる掘立柱建物が条里方向に沿って整然と並んで見つかっていることから、公的な施設の可能性を考えられている。神戸遺跡²⁵では平安時代中期の掘立柱建物が検出されているが、古墳時代以前からの地形に沿ったものと条里地割に沿ったものが確認され、過渡期と考えられる。安濃川左岸の位田遺跡では平安時代中期～後期の屋敷地や道路遺構が確認され、縁釉陶器や砾石などが出土し、公的な性格を有した在地富豪層の居館と考えられている。

平安時代末～鎌倉時代にかけて替田遺跡や蔵田遺跡など安濃川沿いでも遺構は検出されるが、やがて姿を消し、耕地化していくものと考えられる。

3 過去の調査成果

里前遺跡¹では、平成10年に一般国道23号中勢道路建設事業に伴って発掘調査が行われている。発掘調査では、鎌倉時代から江戸時代の井戸・溝・土坑・柱穴が多数見つかっており、多量の陶器や様々な種類の字や記号等を書いた墨書き土器（山皿、山茶碗）が多量に出土している。

遺跡の性格は、墨書き土器の分析から、年貢に関わる作業が行われていた事、多量の陶器から物資集配作業に関わる作業が行われていたと報告されている。

また、当時の海岸線沿いに栄えた安濃津との関連が注目されている。

（水谷）

III A地区の調査成果

1 調査区の地形と基本層序

調査区は調査前の標高約6.0mで、現況は水田である。浜境内集落が西接する。基本層序は耕作土直下で、第4図C-D土層断面図の大半が、流路(SD51)の埋土である灰白～褐色の粗砂であり、弥生時代末～古墳時代前期及び中世前期～近世までの遺物が出土している。SD51上には明確な造構は検出されず、検出した造構は近世以降まで存続していたものと考えられる。

調査区北半部東側(第4図E-F土層断面図)では、粗砂の堆積が見られず、第39層黒色粘土・第47層黄灰色粘土が見られ、これが基盤層である。この

基盤層は調査区東側に広がっており、範囲確認調査の際に井戸(266)、溝、ピットなどを確認しているため、中世前期の集落がA地区東側で営まれていたと思われる。

今回の調査区で確認した弥生時代末～古墳時代前期の造構については、範囲確認調査の際にも確認できていない。浜境内集落北側に当たる範囲確認坑213～216や219～222において地表面から約2.0m掘削を行ったが、造構・遺物とも確認できなかった。おそらくは、浜境内集落の下に当時の集落が展開しているものと思われる。

(水谷)

2 検出した造構

SE54 (第5～6図) 調査区の北東で確認した造構である。径約3.2mの円形を呈し、残存する深さは約2.2mで、第29層浅黄橙色粘質シルト上に作られている。検出面から1.4m(標高約4.2m)で板材が確認でき、上から結桶+曲物+結桶で作られている。上段の結桶はすでに崩壊していたが、内側に薄い板材や楔が見つかっていることから結桶と判断した。それぞれの間には石が置かれ、下段の結桶の底には拳大の石が入れられていた。浄水を得るためにものと思われる。下段の結桶は10枚の板材で作られている。出土遺物は少ないが、埋土中の最新の遺物は藤澤氏の編年第7型式の山茶椀である。

SD51 調査区のほぼ全体を流れる流路である。長さ34m以上、幅3m以上で、残存する深さは約23～50cmである。時期的には弥生時代末～古墳時代前期及び中世前期～近世までの遺物が散在しており、周辺にその時代の造構が存在するものと思われる。堆積も一樣ではないことから、数度の洪水によって形成された流路と考えられる。埋土中の最新の遺物

は、藤澤氏の編年登窓第4小期の天目茶椀である。

SZ55 調査区の南端で検出した造構である。当初一部が調査区外であったため若干の拡張を行った。幅3.2m以上×2.8m以上で、残存する深さは約40～70cmで、断面形は上部がU字形状を呈し、最下層で箱状になる。断面から掘り直しが確認できる。調査区に直行するため一部しか確認できておらず、一応性格不明の造構とした。第4図A-B土層断面図の第9～12層黒色粘質土から弥生時代末～古墳時代前期の遺物(絵画土器、S字状口縁台付甕、高杯等)が多量に出土している。環濠的となる可能性が考えられるが、調査区幅でしか確認されておらず、断定はできない。また、調査区南端以南すでに排水溝の埋設が終了していたが、南側において溝状の落ち込みとそれに伴うSZ55とほぼ同時期の土器を確認しており、2重の環濠であった可能性も考えられる。

埋土中の最新の遺物は、川崎氏の編年島抜Ⅲ期新相の高杯である。

(水谷)

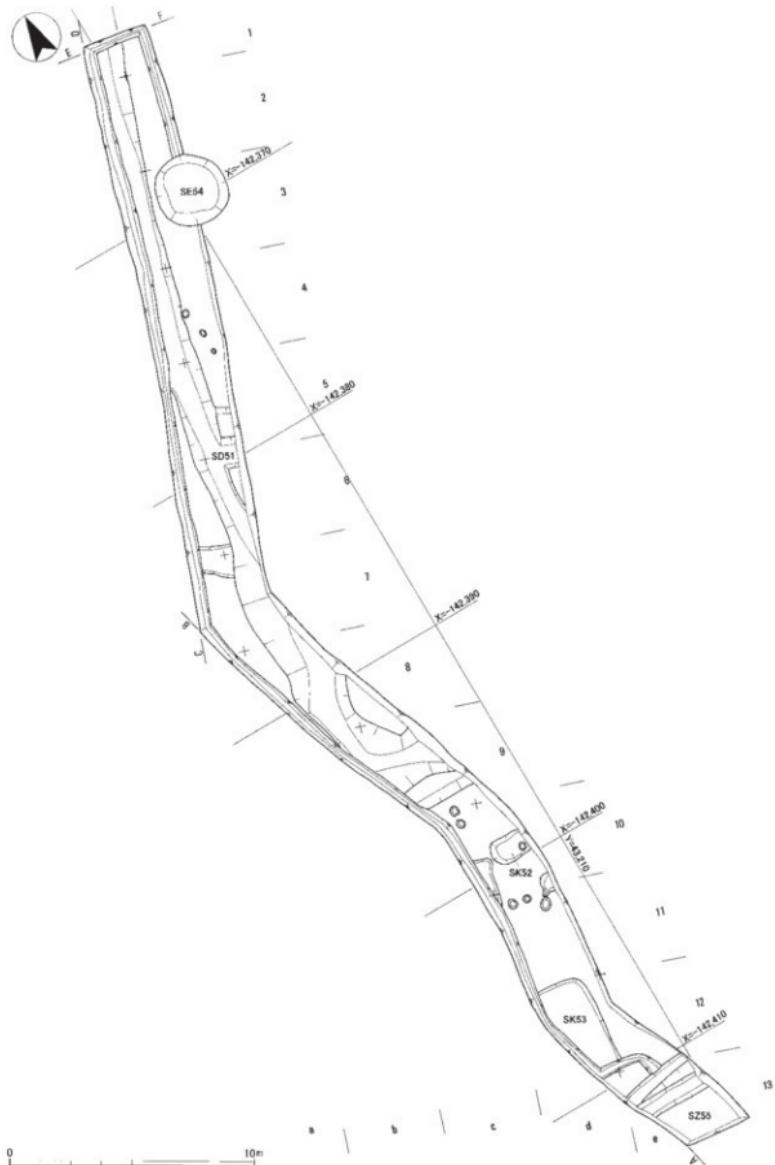
3 出土した遺物

SE54出土遺物 (第7図)

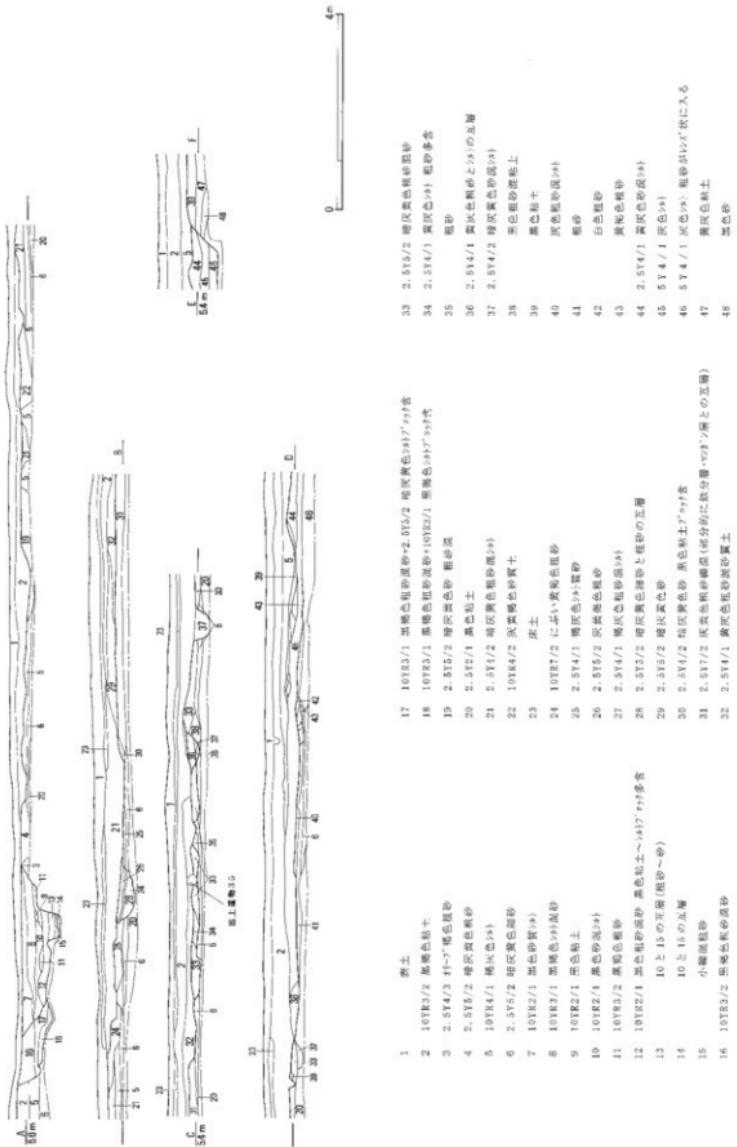
出土遺物は中世前期～後期のものがある。

1は南伊勢系の土師器皿で川崎氏の分類皿a、2

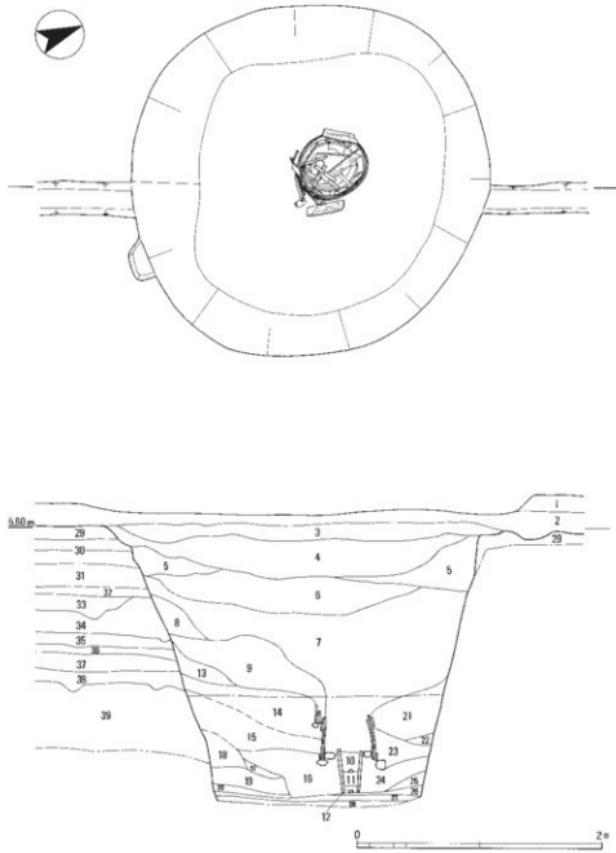
は山茶椀で、藤澤編年の第7型式である。底部外面



第3図 A地区遺構平面図 (1:200)

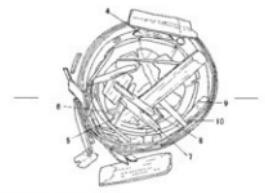


第4図 A地区土層断面図 (1:100)

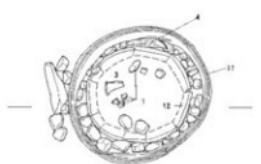


1 表土 SY5/3 固形-2 灰色砂质土	10 1 0 YR6 / 2 灰黄色粗砂+10G37/1 灰白色粘土上	25 1 0 Y 8 / 1 灰白色细砂
2 5 Y 6 / 3 黑-7 灰色粗砂	11 5 Y 8 / 4 淡黄色颗粒(混合含 2.0~5.0 mm)	26 1 0 Y 8 / 1 灰白色细砂
3 7. SYR6 / 4 にぶい褐色粗砂	12 N 4 / 灰色细砂+砾石	27 1 0 Y 8 / 1 灰白色细砂
+7. SYR8 / 4 浅黄褐色粘土#2#	13 1 0 YR6 / 2 灰黄色粗砂	28 7. SY6 / 1 灰色粗砂
4 7. SYR5 / 2 底褐色粗砂上	14 N 5 / 灰色粘土上	29 1 0 YR8 / 4 浅黄褐色粘质#2#
+7. SYR8 / 4 浅黄褐色粘土#2#	15 5 YR6 / 1 灰色粗砂	30 2. SY2 / 1 黑色粘土
+2. SY2 / 1 黑色粘土#2#	16 1 0 YR6 / 1 黄灰色粘质沙	31 1 0 YR8 / 6 黄褐色粘土
5 7. SYR5 / 2 4に黑色粘土が多く混じる	17 5 YR6 / 1 黄灰色粗砂	32 1 0 YR3 / 1 褐色粘土
6 6 YR5 / 2 底褐色粗砂	18 5 Y 4 / 1 灰色砂质#2#	33 2. 5Y7 / 6 明黄色粗砂#2#
+10G37/3 にぶい-黄褐色粘土#2#	19 7. SYR5 / 1 暗灰色粗质#2#	34 5 B 6 / 5 / 1 青灰色粘质#2#
7 1 0 Y 5 / 1 灰色粘质#2#10G37/1 暗灰褐色粘土#2#	20 5 YR8 / 1 灰白色砂质	35 2. SY6 / 1 黄灰色粘土
+2. SY2 / 1 黑色粘土#2#	21 7. SYR4 / 1 暗灰色粗质#2#	36 2. SY5 / 3 棕针-7 粘色粘土
8 1 0 YR6 / 6 明黄色粗砂	22 2. 5Y3 / 1 墓地灰色粘土	37 2. 5Y5 / 1 黄灰色粘土
9 1 0 Y 6 / 1 灰色粗砂+10G37/1 明绿色粘土#2#	23 5 YR6 / 1 暗灰色砂质	38 1 0 YR3 / 1 黄褐色粘土
+2. SY2 / 1 黑色粘土#2#	24 5 Y 4 / 1 灰色砂质土	39 5 Y 6 / 1 灰色粗砂

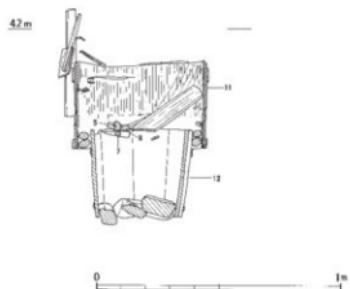
第5図 S E54平面図・断面図① (1:40)



上段桶崩落除去後



曲物除去後



第6図 S E54平面図・断面図② (1:20)

に墨書きがあり、記号を書いたのであろうか。3は青磁碗である。

4は曲物の底板で側面に径0.08~0.18cmの木釘孔が7ヶ所残る。5~10は模、11は曲物、12は結桶である。曲物は縦が三段で、内面には縦方向と斜め方向にケビキが入れられている。結桶は3段の縦痕を持ち、底部付近に径1.1~2.3cmの穿孔が6ヶ所残る。

SD51出土遺物（第8図）

出土遺物は弥生時代末～中世後期までのものがあるが、中世前期のものが最も多い。

①弥生時代末～古墳時代前期

13は有段口縁壺で、円形浮文と竹管文は同一工具で施文されている。14は壺である。15は有孔鉢、16は高杯脚部、17は器台脚部である。

②中世

18は土師器皿で、器壁が厚く、中北勢系である。19は山皿で第6型式、20~24は山茶椀で、20は第5~6型式、21は第7型式、22~24は第6型式である。24は底部に墨書きがあり、「上」であろうか。25~26は片口鉢で、25は藤澤編年第6型式、26は第5~6型式である。27は常滑製品の壺で中野氏の編年6型式に比定される。28~29は青磁で、28は盤で底部に釉が付着していない部分がある。30は瀬戸美濃産筒形香炉で藤澤氏の編年古瀬戸後Ⅲ期、31は藤澤編年登窯第4小期の天目茶椀であろう。32~34は軒丸瓦で、35~36は五輪塔の水輪、35は花崗岩、36は砂岩である。

SZ55出土遺物（第9~11図）

SZ55から出土した遺物は、概ね川崎編年の鳥貴II~III期の時期に入る。

①壺

38~44は広口壺である。41は、加飾広口壺で内外面に赤色顔料が塗布され、頸部貼付け凸帯にクシによる刺突が施されている。47~49は、複合口縁壺である。48は口縁部・頸部内面に赤色顔料が塗布され、口縁端部外面に棒状浮文、内面に棒状浮文である。49も口縁端部外面に棒状浮文、内面に刺突があり、同じくバレス壺であろう。50~51は直口壺、52は内縫口縁壺の口縁部、53は小型壺、54~55は壺の底部、56~60は小型壺である。

②甕

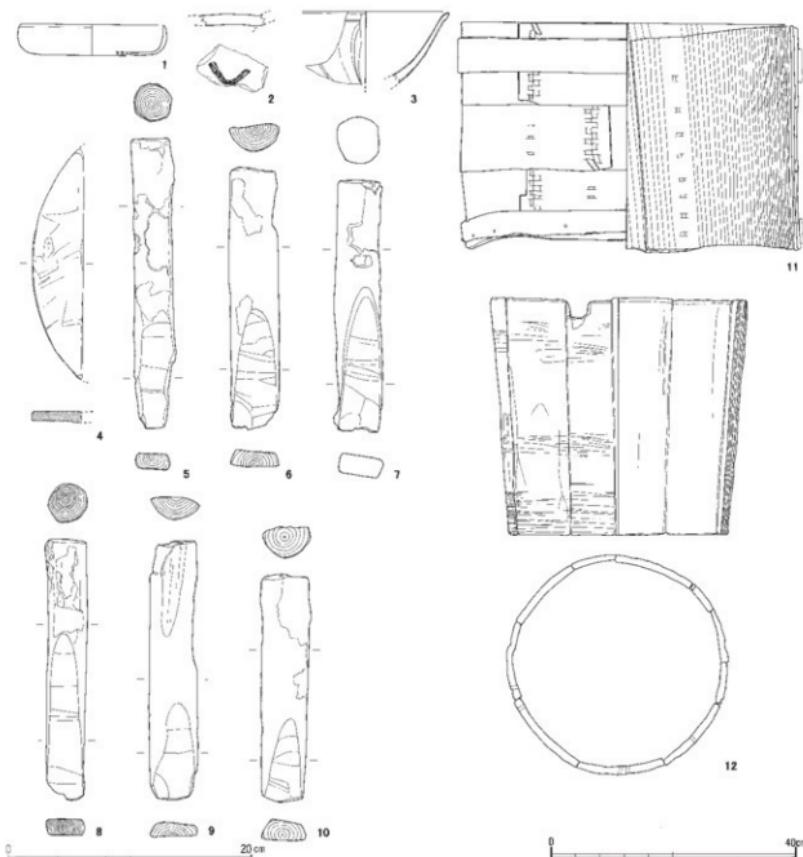
61～103は甕で、61～63はく字形、64～67は受口状、68～86はS字状の口縁をもつものである。S字状は、口縁部に刺突を残し受口状のような古い様相を示すものから口縁端部が上を向き外に向かって広がるような新しい様相を示すものまである。87～103は台付甕の脚台部で、脚窪内面に折り返しを持つもの（94・99・100・103）と持たないものがある。92・99は底部内外面に砂粒充填が観察できる。

③高杯

105～106は有棱高杯、107～109は楕状高杯、110～127は脚部である。112は器台の脚部か。119は外面に櫛摺直線文を施し、赤色顔料捺布、スヌ付着し、内面も赤色顔料が塗布されている。123は底部の裾が広がり、脚付土器か。126～127は屈折脚高杯である。

④その他

37は絵画土器で、器種・天地は不明である。表面



第7図 S E54出土遺物実測図 (1～10=1:4、11～12=1:8)

は「龍」を描き、裏面にも線刻があるよう見えるが明瞭ではない。

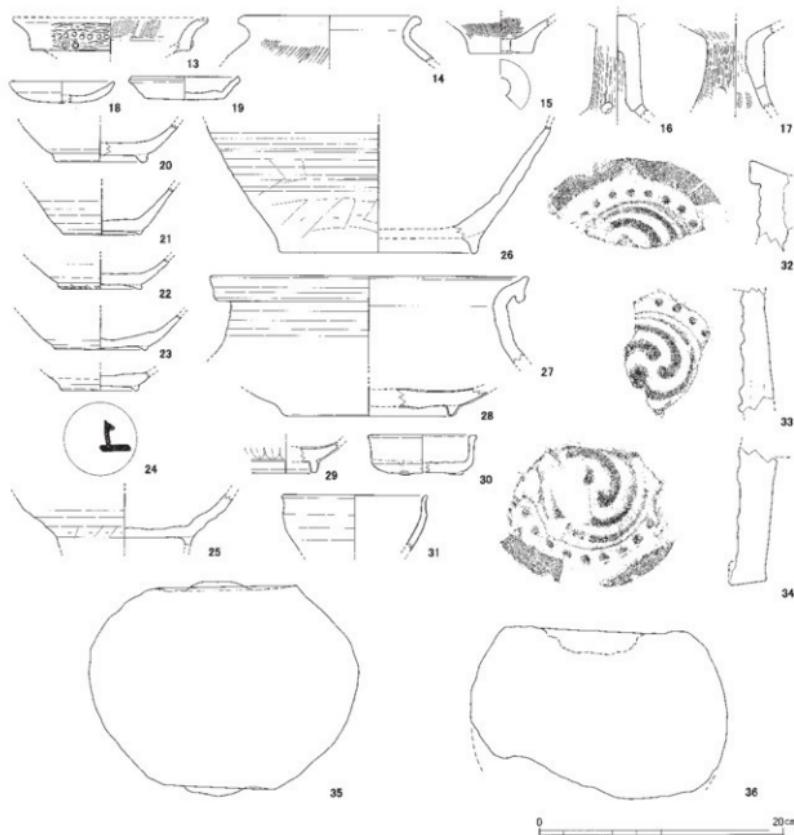
104は手焙形土器である。128～129は器台である。128は透かし孔が6方向で3段、横描横線5条が2段、下段は斜め方向にいれられている。130は有孔鉢の底部である。

131～134はミニチュア土器である。131～132は壺、133は鉢であろうか。134は高杯である。

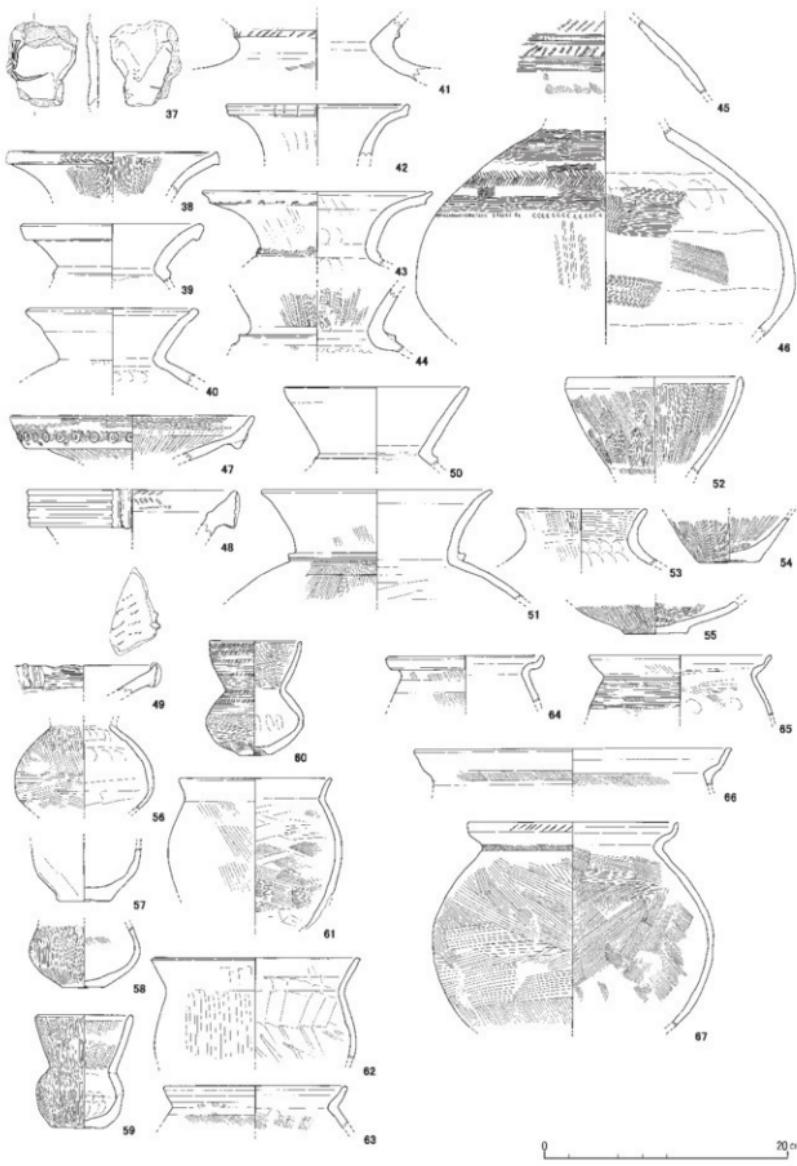
包含層出土遺物（第11図）

135は弥生時代中期の壺の底部、136は広口壺である。137は有段口縁壺で、内外面に赤色顔料が塗布され、口縁端部に板状工具による刺突がされている。138は小型壺、139～144はS字状口縁台付壺、145～148は高杯脚部である。149は壺蓋、150は第9型式の山皿、151は丸皿であろうか、削出高台で底部内面にススが付着している。

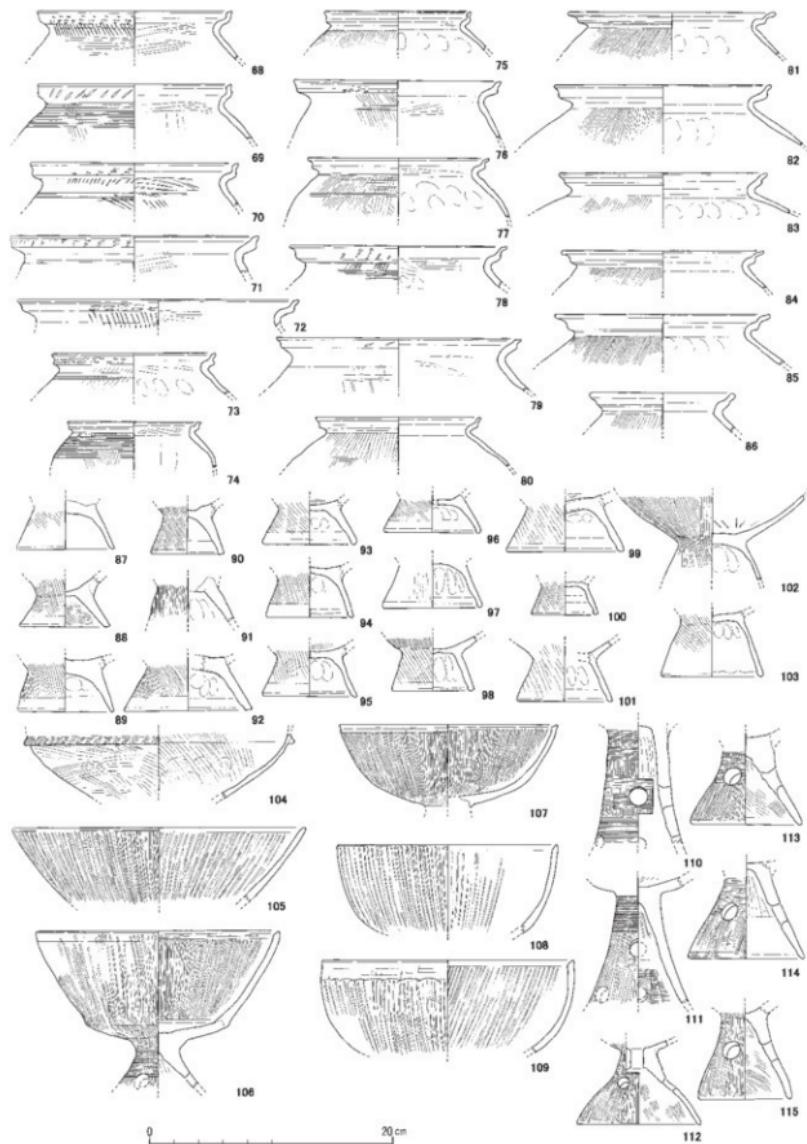
（酒井）



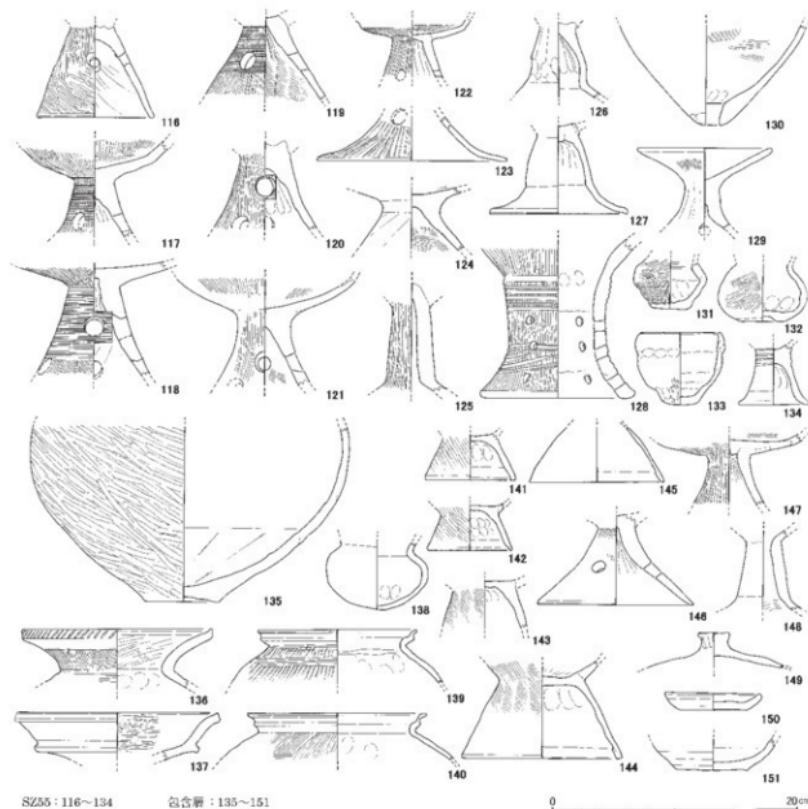
第8図 S D51出土遺物実測図（1：4）



第9図 S Z55出土遺物実測図① (1 : 4)



第10図 S-Z55出土遺物実測図② (1 : 4)



第11図 S Z 55③、包含層出土遺物実測図 (1 : 4)

IV B地区の調査成果

1 調査区の地形と基本層序

第1次調査の西側に位置する調査区である。調査区の標高は約5.0mで、現況は水田である。基本層序は、安定している調査区中央部で、第13団東壁第1層表土・耕作土、第2層灰黄色シルト質細砂となり、中世以降の遺構検出面となる。

調査区南部では、このシルトは見られず砂が堆積

し、若干のピット状の遺構が見られる程度である。調査区北部、第13団北壁では何度も氾濫があったのか入り乱れた土層堆積が見られる。流路に切られて深いところで遺構（SD66・67）が確認できることから、氾濫により消滅した遺構も存在するものと考えられる。

調査終了後、調査区北部から中央部にかけて重機による断ち割りを行い、試料2点について放射性炭素年代測定を行った。測定については、名古屋大学年代測定資料研究センターとデロン加速器年代測定実験室中村俊夫教授に協力していただいた。測定は、標高約3.3mに位置する第38層では4149年土41BP、標高約2.6mに位置する第40層では5411年土44BPという結果を得ている。

(水谷)

2 検出した遺構

B地区は、第1次調査の結果から多量の墨書き茶碗が出土することが予想されたが、ほとんど出土せず、中世後期～近世の陶器が多く出土した。

B地区で確認した遺構には、中世後期に属するものと近世に属するものがある。

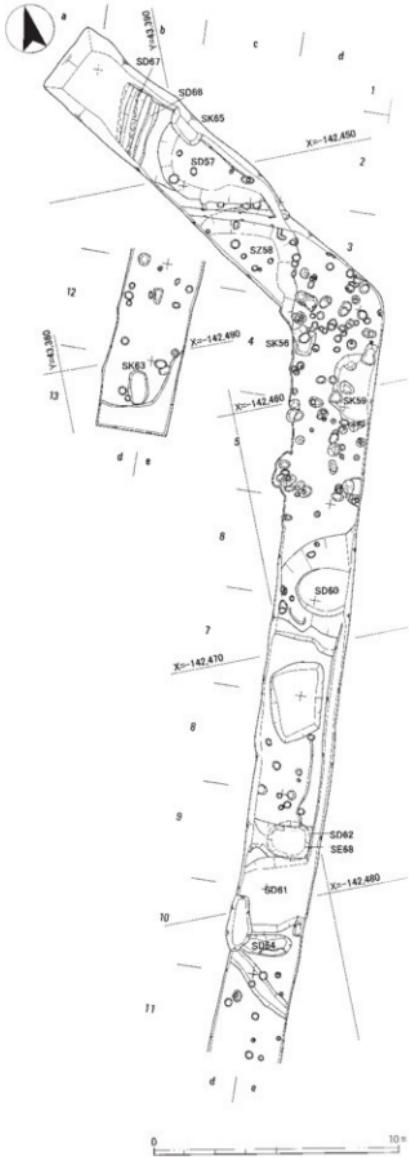
SD62 調査区南部で確認した遺構で、長さ2.4m以上、幅約1.1m以上、深さ約40cmである。SD61に切られ、SE68を切る。埋土中の遺物は、土師器皿1点のみである。

SD66 調査区北部で確認した遺構である。上部は自然流路と思われる氾濫に切られている。SD67と平行しており、同時期の遺構と考えられる。埋土中の最新の遺物は、伊藤氏の編年第4段階f型式の土師器皿である。

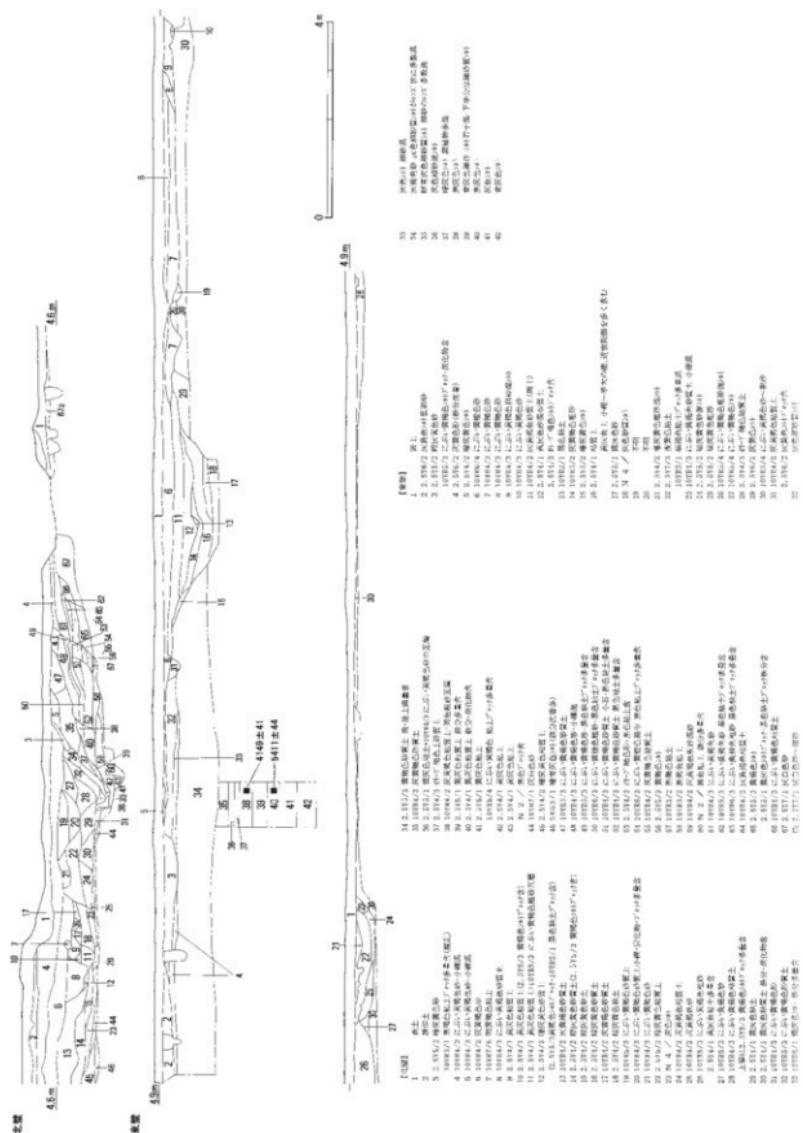
SD62とSD66は、ほぼ直行する溝であり、当時の地割に関連があると思われる。

SD57 調査区北側で確認した落ち込みである。南接するSZ58と同様のものと思われるが、接続はない。長さ約5m以上、幅約1.1m以上で、北側に向かって落ち込み、最も深いところでは検出面より約90cmである。自然に形成された落ち込みと思われるが、底で杭が打たれていたと考えられるピット状の落ち込みが数ヶ所確認でき、何かに利用されていた可能性も考えられる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登窯第3～4小期の丸碗（加工円板）である。

SD60 調査区のほぼ中央に位置する落ち込みである。長さ約2.3m以上、幅は最大で4.4m、深さ約1.0mである。東に向かって落ち込んでおり、1次調査区の落ち込み（L11・12落ち込み）に接続すると思われる。中世後期～近世の遺物が多量に廃棄さ



第12図 B地区遺構平面図 (1:200)



第13図 B地区土層断面図 (1 : 100)

れている状態で出土し、埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登窓第3～4小期の反皿・丸椀である。

SK65 調査区北部で一部を検出した遺構である。検出できた1辺は約1.2mで、深さ約20cmで緩やかに落ち込む。中央近くで犬形土製品（218）が出土し、最新の遺物は土師器皿である。

SK65（第14図） 調査区北部で南側の一部を確認した遺構である。長さ0.5m以上、幅は最大1.5m、深さは約40cmである。SD57を切っており、江戸時代中期と考えられる遺物が出土していることから、

SD57がこの頃には埋没していたと考えられる。遺構の南側では、石が集中して見られ、石に混じって遺物が出土している。遺物は、意図的に入れたものではないと思われる。埋土中の最新の遺物は藤澤編年登窓第3小期の輪禪皿である。

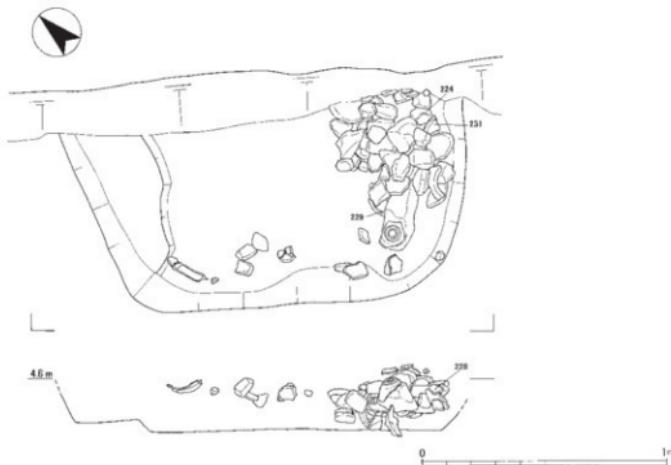
SE68（第15図） 調査区南部で検出した遺構である。約1.6m×1.5mの隅丸方形の遺構で、曲物の底は深さ標高約2.9mである。SD62に切られ、古い自然流路を切って掘削されているため井戸枠横の砂層からの湧水が激しく、詳細な土層観察は行えなかつた。

井戸枠は1辺約0.9mの方形を呈するものである。

四隅に隅柱を持ち、横桟を2段渡した後、縦板で補強している。木枠の東側・西側は、更に横桟と縦板の間に径1～2cm程度の細い竹を約1cm間隔で打って補強している。そして東側は、横桟の外側に縦板を入れて二重にして補強しており、西側も杭が2本ずつ打たれており補強の役目をしていたと考えられる。曲物は1段で、内側から土師器皿6枚（232～237）、漆椀（257）、曲物底板（258）がまとまって出土し、最新の遺物は伊藤編年第4段階併行期の羽釜である。

SZ58 調査区北側で確認した落ち込みである。SD57に南接し、南に向って落ち込む。長さ3.3m以上、幅4m以上、最も深いところで約50cmである。SD57と同様自然の落ち込みと思われ、杭が打たれていたと思われるピット状の落ち込みが確認できる。埋土中の最新の遺物は擂鉢である。

柱穴 調査区中央部を中心に検出した多数のピットは、遺構の切り合いなどから中世後期から近世にかけての遺構と考えられる。ほとんどが径0.4～0.6m、深さも50cmを超すようなものであり、掘立柱建物に伴うピットと考えられる。また、切り合いのあるものが多く見られることから、数回の建物の建替



第14図 SK65平面図・断面図（1:20）

が行われていたものと思われる。しかし、調査区は幅が狭く、SZ58やSD60などの近世の落ち込みによりビットなどの遺構が削平されていると考えられるため、掘立柱建物として確認できるものはなかった。

中世前期の遺構が明らかにならなかったことにより、中世前期にはB地区より西側に集落が展開し、中世後期以降になって川に近いB地区周辺に集落が移動してきたと考えられる。
(水谷)

3 出土した遺物

SD62出土遺物（第16図）

152は土師器皿で、川崎分類の皿cである。

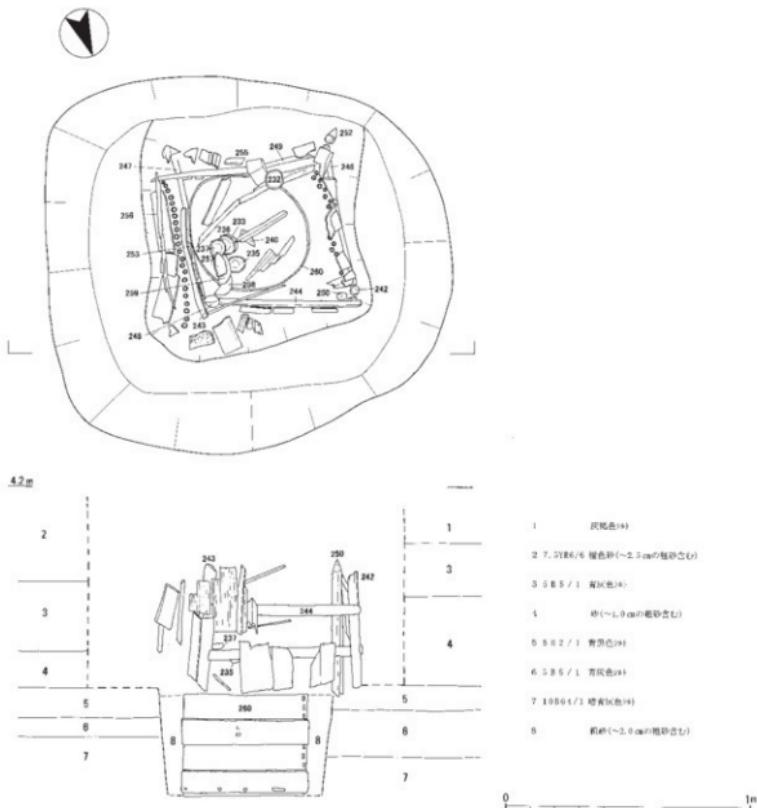
SD66出土遺物（第16図）

153は南伊勢系鍋で伊藤編年第4段階f型式、154は中北勢系羽釜で伊藤氏の編年II a段階である。

SD57出土遺物（第16図）

遺物は大きく分けて、土師器鍋第4段階の時期と近世の二時期のものがある。

155～162は土師器皿で、155～161は皿c、162は皿eである。163～164は南伊勢系鍋で、163は第4



段階 b 型式、164は第4段階 c 型式のものか。165は南伊勢系羽釜で第3段階併行期、166～171は中北勢系羽釜でII段階であろうか。170は体部下半が丸味を帯びずすほまり、ケズリ調整され、他の羽釜とは形状が異なっている。

172は山茶椀で藤澤編年第5型式、173～175は瀬戸美濃産志野丸皿で173は登窯第3小期、174～175は登窯第2小期、174は底部外面に墨書がある。176は白磁、177は瀬戸美濃産天目茶椀で藤澤氏の編年大窯第4段階前半、178は常滑製品の鉢、179は登窯第3～4小期の丸椀を加工円板に転用している。

SD60出土遺物（第16～18図）

遺物は大きく分けて、土師器端第4段階の時期を中心とする中世後期と陶器に見られる近世の二時期に分かれる。

①土師器

図示したものはすべて南伊勢系のものである。180は土師器皿で、181は鍋で第4段階 c 型式、182は羽釜で第4段階併行期である。

②陶器

183は瀬戸美濃産輪禪皿で登窯第2小期、184は瀬戸美濃産反皿で登窯第3～4小期である。185～189は瀬戸美濃産志野丸皿で、185～187・189は登窯第2小期、188は登窯第3小期である。190は瀬戸美濃産盤で登窯第2～3小期、191は瀬戸美濃産輪禪皿で登窯第3小期である。192は肥前系染付皿であろう。193は天目茶椀で大窯第2段階、194は瀬戸美濃産丸椀で登窯第3～4小期、195は鉄軸笠原鉢で登窯第3～4小期、196は小壺で藤澤編年古瀬戸後期Ⅲ～IV期古、197は壺で、198は瀬戸美濃産徳利で登窯第2小期、内面にススが付着している。199は常滑製品壺の底部であろう。

200～201は片口鉢で第6型式、202～212は常滑製品である。202・203・206・209は外面にススが付着している。205・207は内面が磨耗している。

213は加工円板で、常滑製品の壺の体部を転用している。214は軒丸瓦、215は丸瓦、216は磨製石斧である。

SK56出土遺物（第18図）

217は土師器皿で皿 c 、218は犬形土製品で前足を欠いている。

SK65出土遺物（第18図）

219～221は中北勢系羽釜で、219はII段階、220はII a 段階、221はII b 段階であろう。222～223は山茶椀第5型式、224は瀬戸美濃産輪禪皿で登窯第3小期、225は瀬戸美濃産丸皿で登窯第2小期、226～228は天目茶椀で、226は登窯第1～2小期、227は登窯第4小期、228は登窯第2小期のものである。

229は瀬戸美濃産筒形香炉で登窯第2～3小期、外面に重ね焼き痕が残る。230は常滑製品壺で中野編年6型式、231は常滑製品の鉢であろう。

SE68出土遺物（第18～19図）

①土師器・陶器

232～237は土師器皿で皿 a 、232は内面から外面へ焼成後穿孔を施し、237は外面にススが付着している。238は南伊勢系羽釜で第4段階併行期、239は山茶椀で第8～9型式、底部外面に墨書があり「大」であろうか。240は東濃産大畠大洞窯の山茶椀で第8～9型式、241は瓦質土器の脚部である。

②木製品

242～243は井戸枠杭で、横桟と重なる箇所を242は1ヶ所、243は3ヶ所を平らに削っている。244～249は井戸枠横桟で、244～246は両端に穿孔があるが、247は片側のみの穿孔である。250～252は杭である。253～256は井戸枠縦板で、257は塗椀である。258～259は曲物底板で、259は3ヶ所穿孔されている。260は曲物である。縫が2段で下段に10ヶ所穿孔があり、内面には斜め方向にケビキが入れられている。

SZ58出土遺物（第20図）

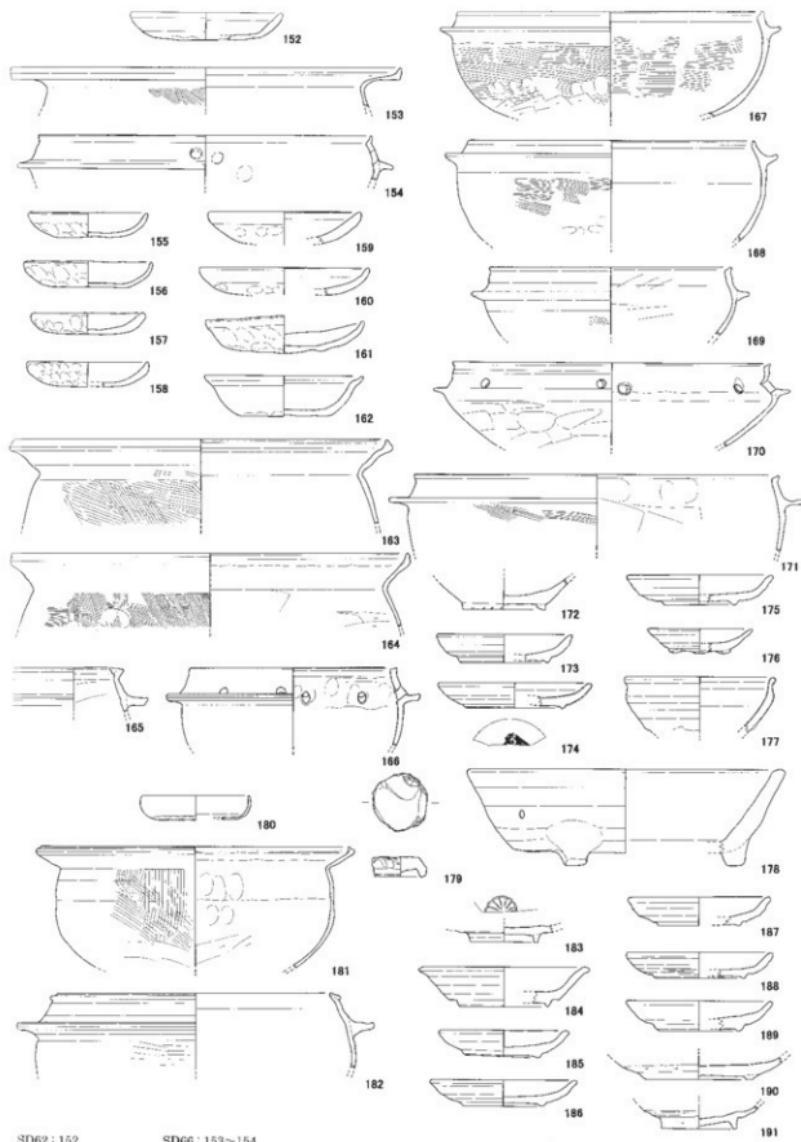
261は土師器皿で小皿 c 、262は口縁部が外反し、鉄鍋を模倣したものであろうか。263は中北勢系羽釜でII a 段階のものであろうか。264は山茶椀で第6型式、底部外面に墨書があり、265は擂鉢である。

Pit出土遺物（第20図）

266は須恵器高杯、267～272は土師器皿で皿 a 、267・271・272は器壁が厚く中北勢系であろう。273～274は中北勢系羽釜でIII段階であろうか。

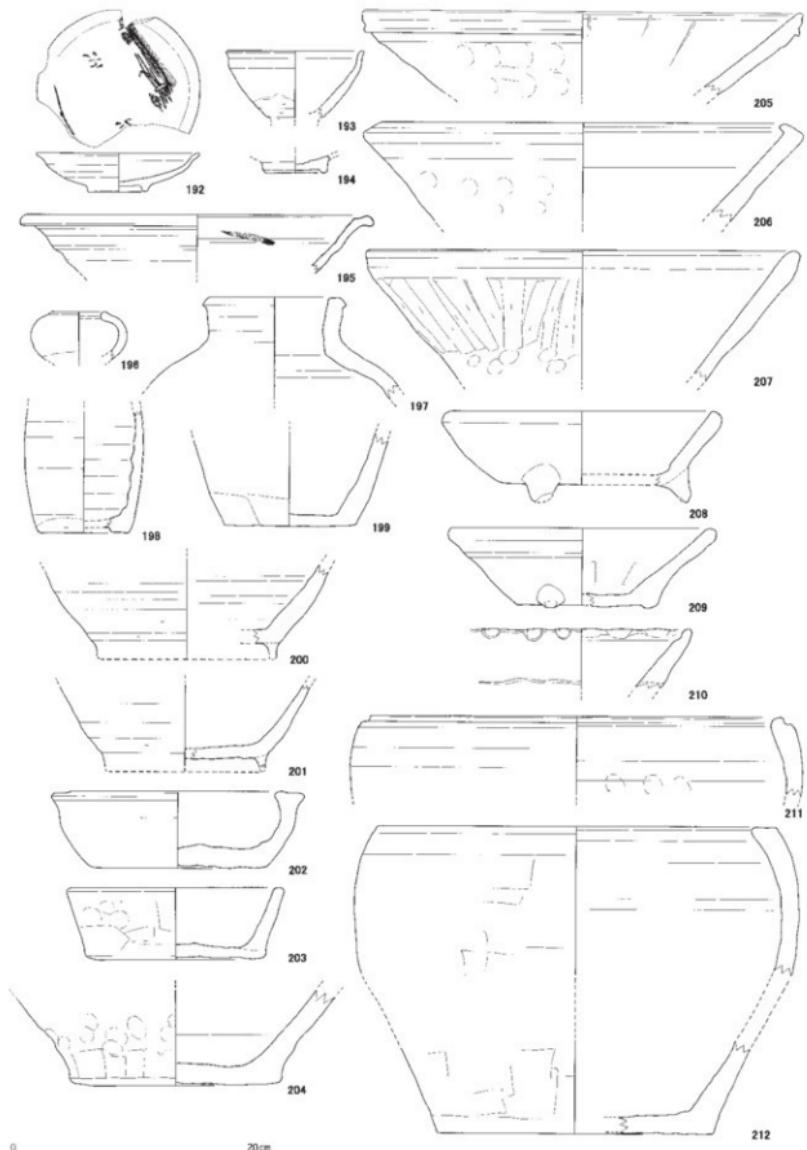
包含層出土遺物（第20図）

275は広口壺、276は直口壺で島賈II期、277は高杯で内外面に赤色顔料が塗布され4ヶ所の穿孔が残る。278はI～17併行期の須恵器杯身であろう。

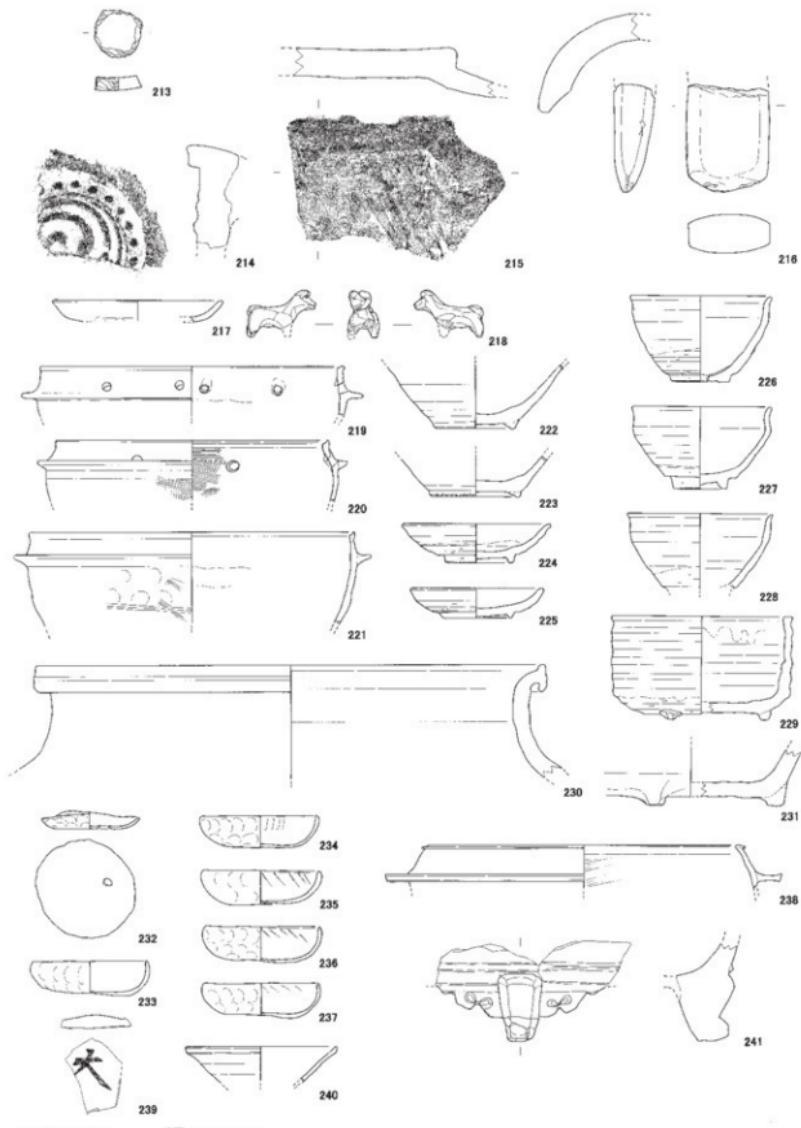


SD62: 152
SD57: 153~179
SD66: 153~154
SD60: 180~191

第16図 S D62・66・57・60①出土遺物実測図 (1:4)



第17図 S D60出土遺物実測図② (1 : 4)



SD60 : 213~216

SK65: 219~231

SK56: 217~218

SE68: 232~241

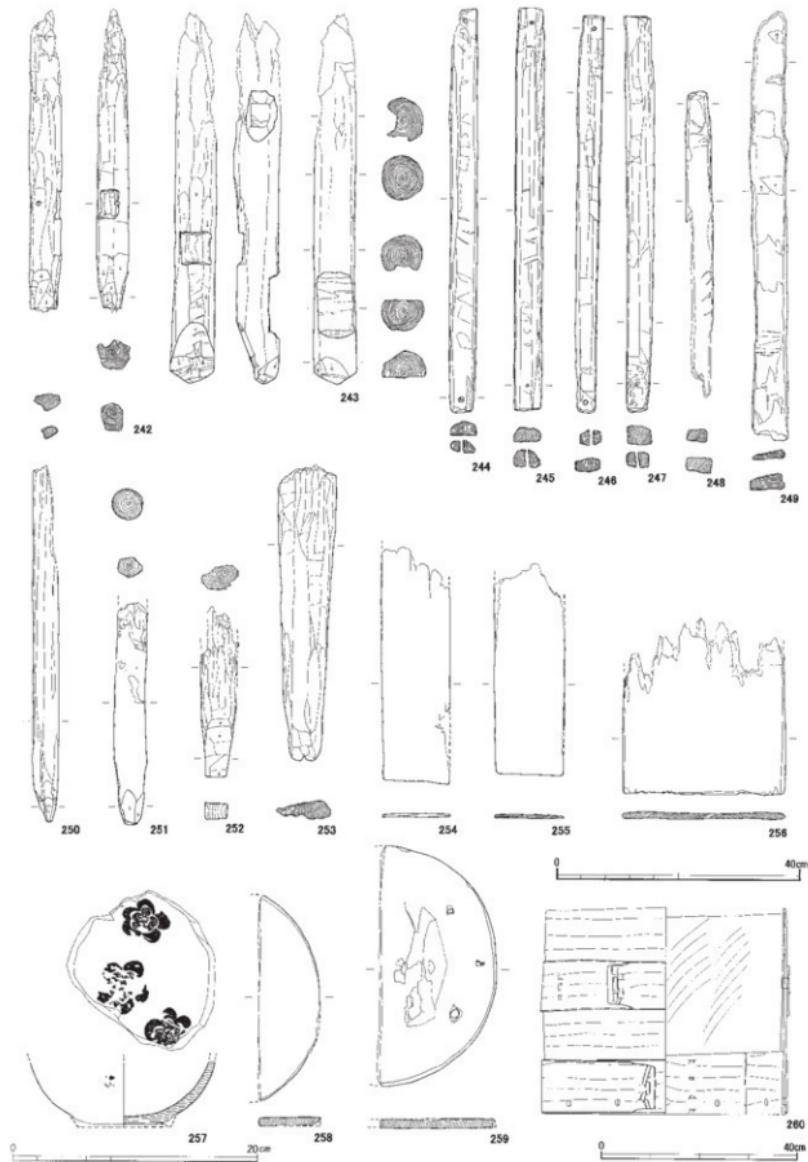
第18回 SD60

S K56 • 65, S

30

200

第18図 S D60③、S K56・65、S E68①出土遺物実測図（1：4）



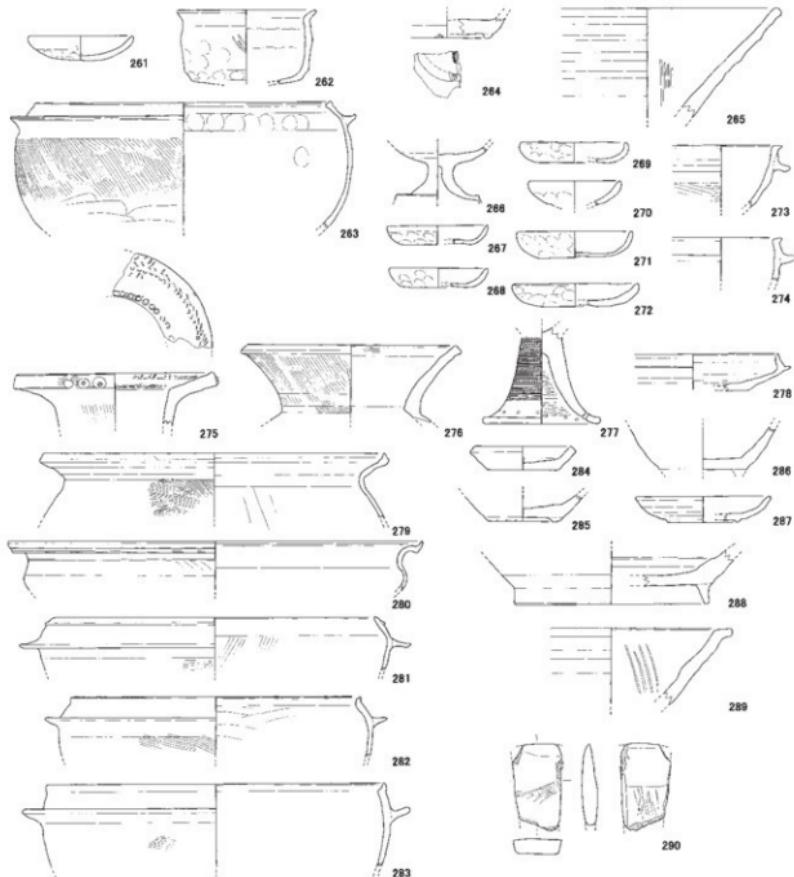
第19図 S E 68出土遺物実測図② (257~259=1:4、260=1:10、他は1:8)

279～280は南伊勢系鍋で、279は第4段階d型式、280は第5段階である。281は南伊勢系羽釜で第4段階併行期、282～283は中北勢系羽釜で、282はII a段階、283はII b段階である。

284は山皿で第8型式、285～286は山茶椀で、285

は第6型式、286は第7型式である。287は瀬戸美濃産志野丸皿で登窯第2小期、288は鉢で第5型式、289は信楽産描鉢で山田編年II b型式、290は砥石である。

(酒井)



SZ58: 261～265

Pit: 266～274

包含層: 275～290



第20図 S-Z58、Pit、包含層出土遺物実測図 (1:4)

V C地区の調査成果

1 調査区の地形と基本層序

C地区は周辺より1mほど小高く、北端では標高6.0m、中央に向って緩やかに上がり中央付近では約6.4m、中央付近から南に向って傾斜し調査区南端では約5.6mとなる。現況は畠地である。表土・耕作土下で調査区北部では黄褐色～褐色の粗砂混砂となり、遺構検出面となる。

調査区北部では、第21図で上層・下層と表記したが、本来、弥生時代末～古墳時代前期と中世以降の検出面とが同一面で確認できたと思われる。しかし、

はっきりと捉えることができなかつたため再度重機により20cm程掘削を行い、(下層)弥生時代末～古墳時代前期の溝及び上層で確認できなかつたビットを検出した。

調査区南部では耕作土下で黄褐色粘質土となり、これが遺構検出面である。耕作による削平のため南に向かって低くなり、徐々に灰白色の粘質土となる。この層は周辺の低いところでも確認でき、範囲確認坑294では、溝を検出している。(水谷)

2 検出した遺構

C地区は弥生時代末～古墳時代前期の遺構、中世前期～近世の遺構を検出している。弥生時代末～古墳時代前期の遺構及び中世の遺構は井戸などの深いものを除き調査区北部に集中して見られ、南部には見られない。南部は緩やかに低くなっていく地形であり、本来は遺構が存在したもの、削平されていく可能性が考えられる。

SD74・119（第23図） SD74は上層で確認した遺構で、長さ4.5m以上、幅約0.9m、深さ約20cm（標高約6.2m）である。南端がやや屈曲して丸く收まるように検出した。壺（291）がほぼ完形で出土している。

SD119は、下層で検出した遺構である。長さ8.5m、幅約0.7m、深さ約20cm（標高約5.8m）である。溝の南東端が途切れ、北西端が屈曲するように検出した。遺物は多く出土し、最新の遺物は鳥抜Ⅲ期併行の高杯である。

SD119を北東周溝、SD74を南東周溝とする1辺約7.0m程度の方形周溝墓となる可能性がある。

下層検出の溝 SD117・118・120・165は下層で検出した溝である。このうち、SD118は南端が屈曲しており、SD74・119同様削平された方形周溝墓の周溝の可能性がある。SD118は南北方向の溝が幅約1.0m、深さ約25cmで、東西方向は東端で長さ約3.0m、深さ15cmとなる。

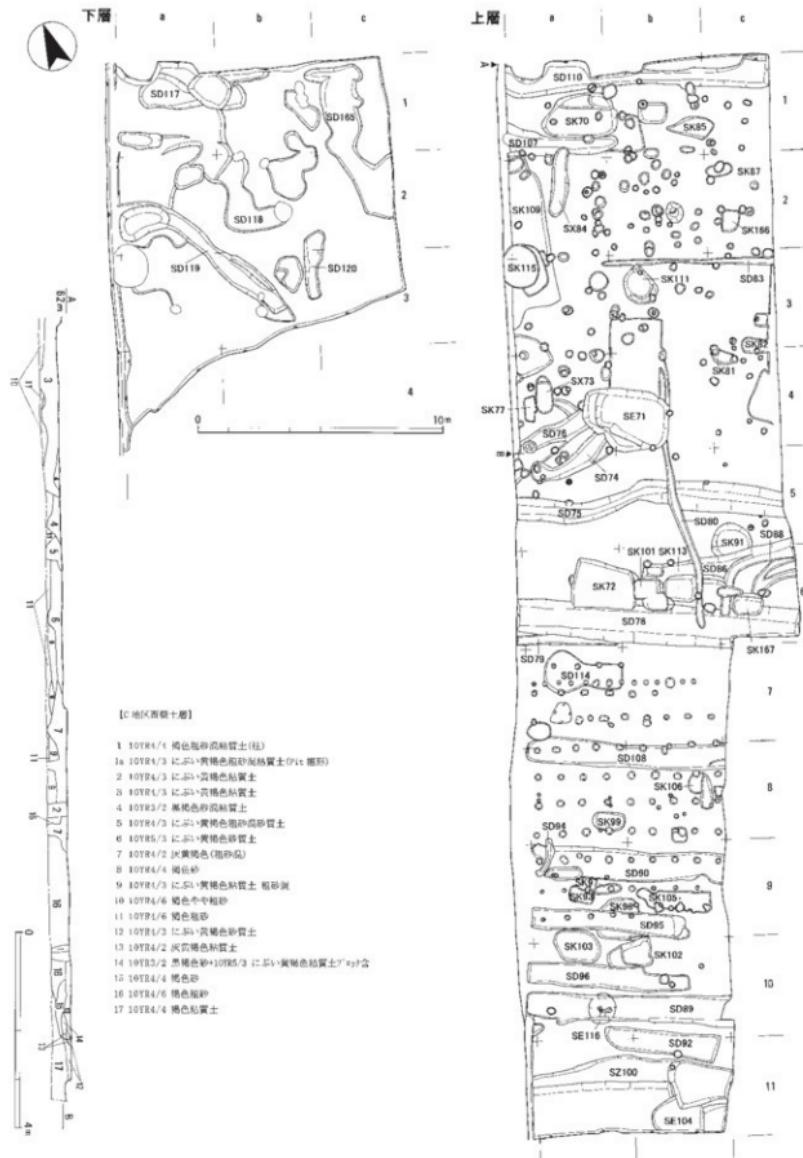
SD78 調査区中央で検出した遺構である。長さ11.5m以上、幅約1.4m、深さ約50～80cmで東に向って緩やかに低くなっている。土取りの土坑かと思われるSK72やSK101・167に切られる。現況の畦畔と一致しており、地割に関連する溝と考えられる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年登案第3～4小期の組である。

SD75 調査区中央部で検出した遺構である。中央から西側はやや蛇行するように検出され、長さ11.5m以上、幅約0.7m、深さ約30cmである。SD80より東側は直線的で底部が一段低く掘削されており、幅約1.0m、深さ約50cmとなる。いずれも東に向って徐々に低くなっている。埋土中の最新の遺物は、常滑製品の壺である。

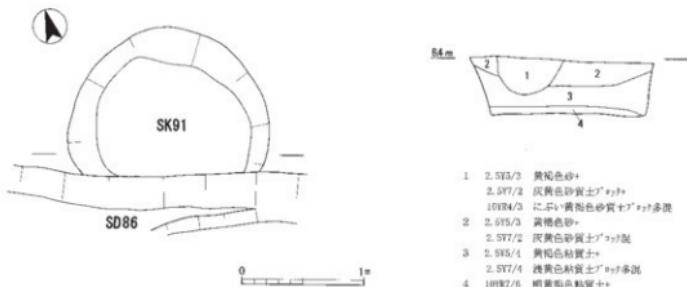
SD75以南ではビットを検出しておらず、集落の南限を画する溝である可能性がある。

その他の溝 SD78より南で検出した溝状の遺構はいずれも近世と考えられる遺構である。このうちSD108は深さ約20cm、SD95は深さ約60cm、SD89は深さ約20cmであり、その他のSD114・90・96は5～10cmの産み程度のものである。SD78～108は約3.3m、SD108～95は約4.8m、SD95～89は約2.0mの距離を開けて平行に並んでいる。

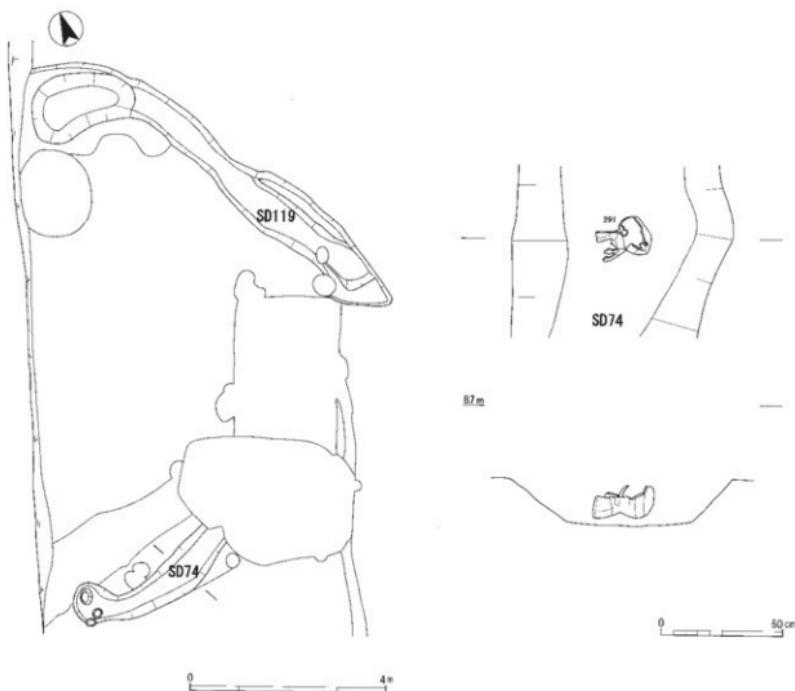
SK91（第22図） 調査区中央部で検出した遺構である。SD86に南側を切られる約1.7×1.3mの楕円



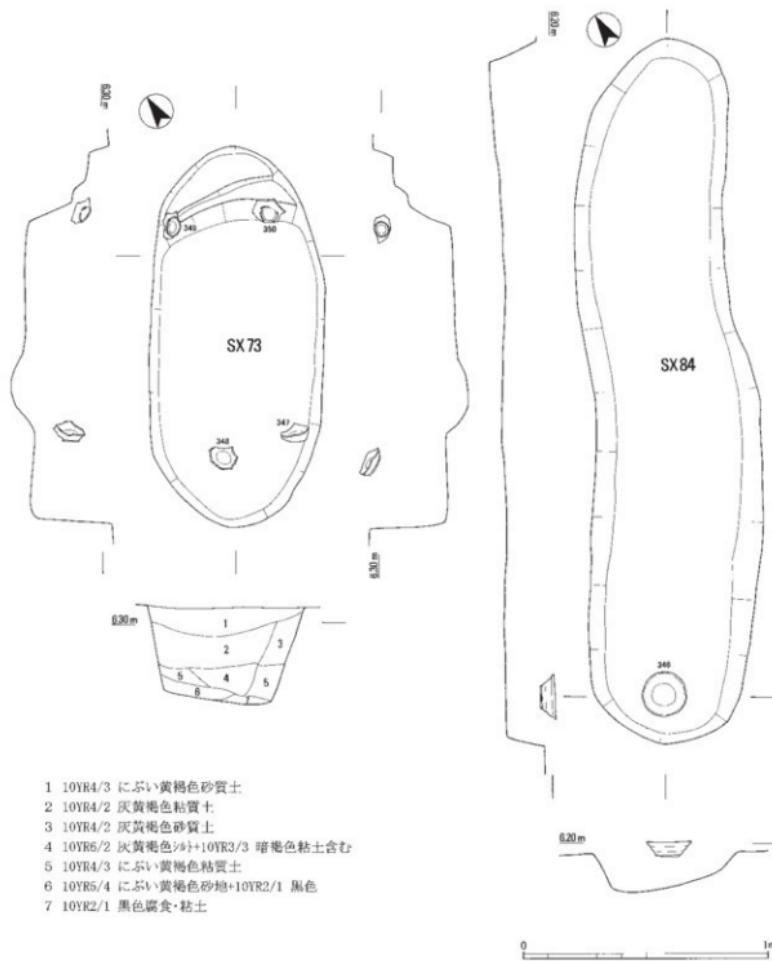
第21図 C地区遺構平面図(1:200)・土層断面図(1:100)



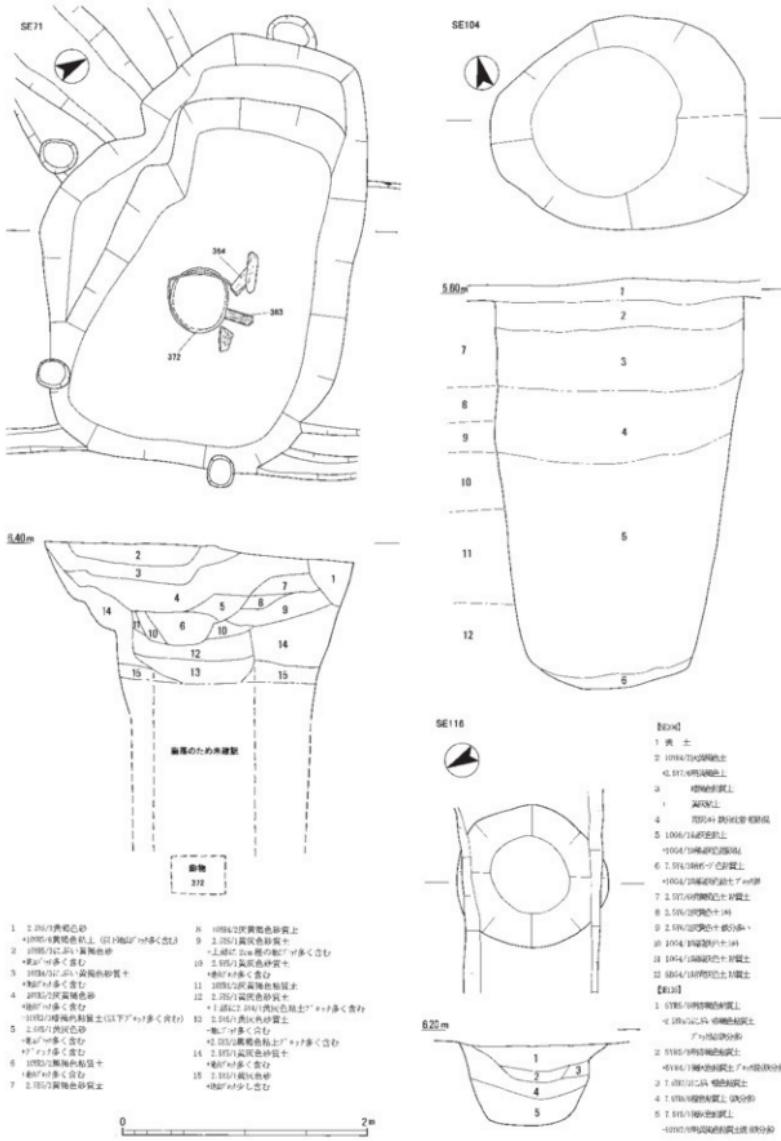
第22図 SK91平面図・断面図 (1:40)



第23図 SD74・119平面図・断面図 (1:100、1:20)



第24図 SX73・84平面図・断面図 (1:20)



第25図 S E 71・104・116平面図・断面図 (1:40)

形を呈する遺構である。井戸の可能性も考えられたが、深さは約50cmで他の井戸よりも浅く、底が平らで井戸枠などの出土も痕跡の確認もできないことから、井戸ではないと考えた。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶椀である。

SX73（第24図） 調査区中央西寄りで確認した遺構である。約1.6m×約0.7mの楕円形で深さは40cmである。北側が2段のテラス状になっており、四隅に山茶椀が1点ずつ、計4点出土している。土層観察では箱状のものが埋設されていた可能性を考えられ、中世墓と思われる。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶椀である。

SX84（第24図） 長さ約2.9m、幅約0.7mの溝状の土坑で、深さは約20cmである。完形の山茶椀が正位に据えられたような状態で出土していることから中世墓と思われる。埋土中の遺物は、藤澤編年第5型式の山茶椀1点のみである。

SE71（第25図） 調査区中央で検出した3.5m×2.5mの隅丸方形の井戸である。西側と北側にテラスを持つことから当初2基の井戸が切り合っているものと考えたが、最終的には1基の井戸と判断した。埋土崩落のため詳細な土層観察はできなかったが、底部（標高約3.8m）で井戸枠と曲物1段と支柱と思われる杭や横樋と思われる板材が出土しており、本來は隅柱横桟式の井戸枠であったと思われる。埋土は多量のブロック土を含むことから人為的に埋められたものと考えられる。埋土からは藤澤編年第5

～6型式の山茶椀片が多く含まれており、中世前半に埋められたものと考えられる。

SE116（第25図） 調査区南部で検出した井戸である。径約1.0mの円形を呈し、深さ約70cmで、SD89に切られる。井戸枠などは出土しなかったが、井戸の可能性がある遺構である。

SE104（第25図） 調査区南端で検出した井戸である。約2.2m×1.8mの楕円形を呈する。埋土が粘土質の斑土で非常に掘削しにくうことから、重機により断ち割りを行った。検出面から約3.2m下（標高2.4m）で底を確認したが、埋土の崩落により詳細な観察を行うことができなかった。底まで大きなブロックを含む斑土となっており、人為的に短期間に埋められたものと考えられる。遺物は常滑製品甕片が1点出土したのみで、時期は不明である。井戸枠などは確認できなかったが、素振りの井戸と考えられる。

柱穴 調査区北部では多くのビットを確認したが掘立柱建物としてまとめられるものはなかった。しかし他の遺構の状況や出土遺物などから、検出したビットは中世に属すると思われる。

小穴群 調査区南部で確認した。南北約1.0m、東西約0.8m間隔で並ぶ。作物の痕跡と考えられるが建物の可能性も否定できないため搅乱として図示した。いずれも近世の溝を切っており、近世以降のものである。
(水谷)

3 出土した遺物

溝出土遺物（第26図）

291～293はSD74から出土した。291は内縁口縁壺で川崎編年の鳥貫II期頃、292は壺の底部で弥生時代中期、293は高杯の脚部である。

294～295はSD107から出土した。294は壺の底部、295は手形壺上器で突巻上にキザミが施される。

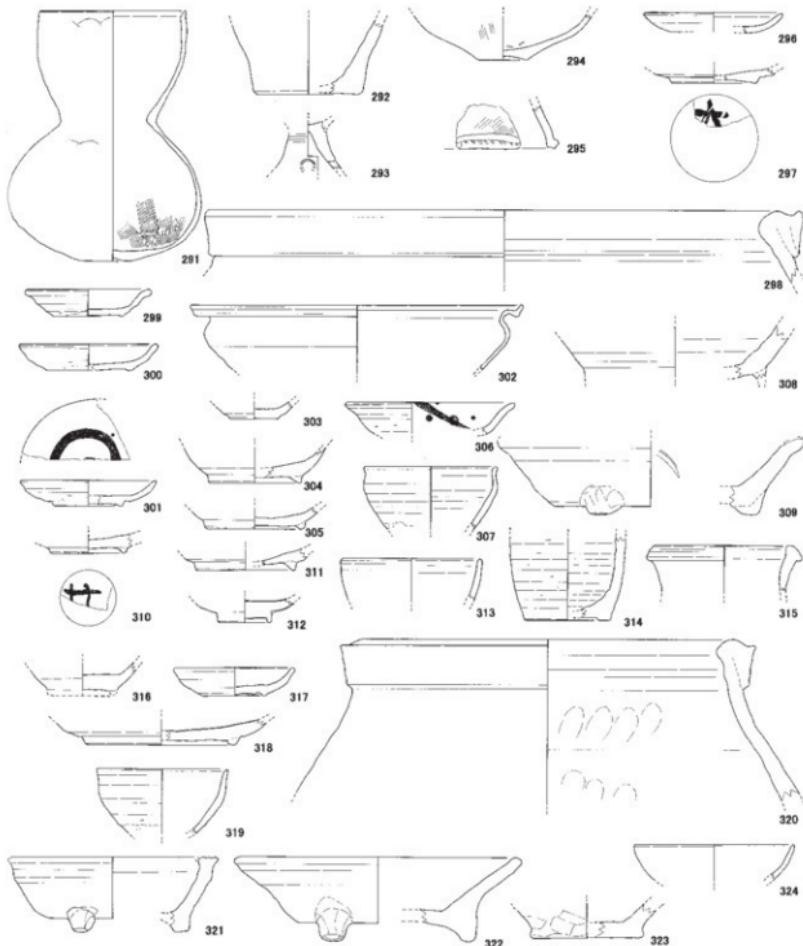
296はSD110から出土した。296は土師器皿で川崎分類皿cである。

297～298はSD88から出土した。297は瀬戸美濃産志野丸皿で藤澤編年登窯第2～3小期、底部に墨書きがあり、「大□」と書いたのであろうか。298は常滑製品の甕で中野編年10型式である。

299はSD92から出土した。299は鉄軸の棲皿で藤澤編年大窯第3段階前半である。

300～301はSD85から出土した。300は瀬戸美濃産灰釉丸皿で登窯第1～2小期、301は瀬戸美濃産鉄絵志野皿で登窯第2小期、鉄絵は「○」と描いたようである。

302～309はSD86から出土した。302は土師器皿で、伊藤編年第4段階f型式、303は山皿で藤澤編年第5型式、304～305は山茶椀で、第6型式である。305は内面に墨が付着し転用硯であろうか。306は瀬戸美濃産反皿で登窯第1～2小期、307は天目茶椀で登窯第5～6小期、308は片口鉢で第6～7型式、



第26圖 S.D.34 - 103 - 110 - 99 - 92 - 95 - 96 - 76 - 79 - 75 - 114出土遺物實測圖 (1 : 1)

SD74 : 291 ~ 293

SD197 : 294 ~ 295

SD110 : 296

SDSS: 297~298

SD92:299

SD95: 300~301

SD86:302~309

SD76:310~315

SD78:316~322

SD75 : 323

SD114 : 324



309は常滑製品の浅鉢である。

310～315はSD76から出土した。310は山茶椀で第6型式、底部外面に墨書があり、ドーマンを書いたのである。311は山茶椀第5型式、312は青磁椀で底部外面に付着物がある。313は瀬戸美濃産志野丸椀で登窯第1～2小期、314は瀬戸美濃産無軸の徳利で大窯第2～3段階、315は壺であり、近世のものであろう。

316～322はSD78から出土した。316は山茶椀で第7型式である。317は瀬戸美濃産内禿皿で大窯第3段階後半、内面にトチ痕、底部外面に輪下跡がある。

318は瀬戸美濃産黄瀬戸鉢で登窯第3～4小期、319は天目茶椀で登窯第2小期、すべて近世のものである。320は常滑製品の壺で10型式、321～322は常滑製品の浅鉢である。

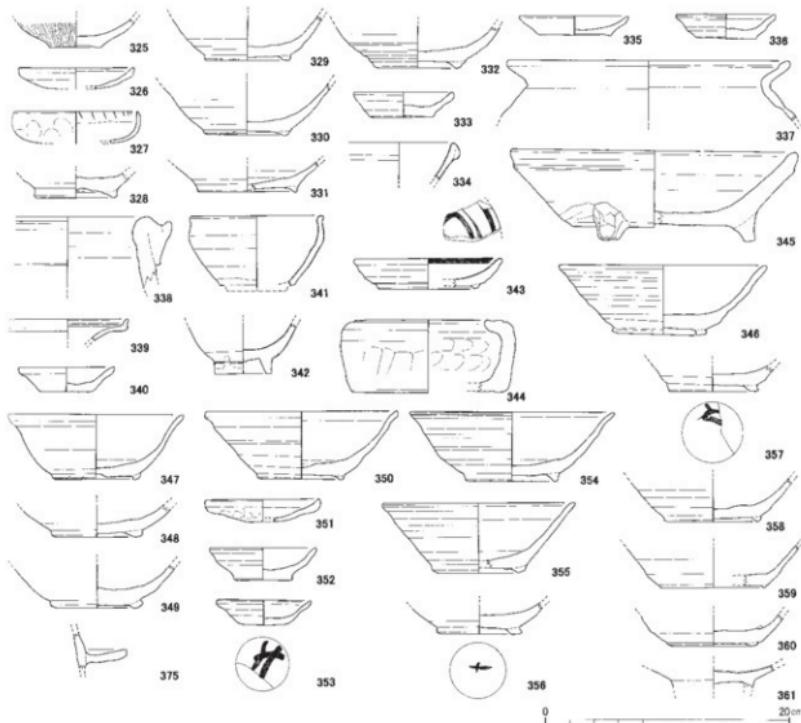
323はSD75から出土した。323は常滑製品の壺の底部である。

324はSD114から出土した。324は信楽産陶器椀で江戸後期、内面にトチ痕が残る。

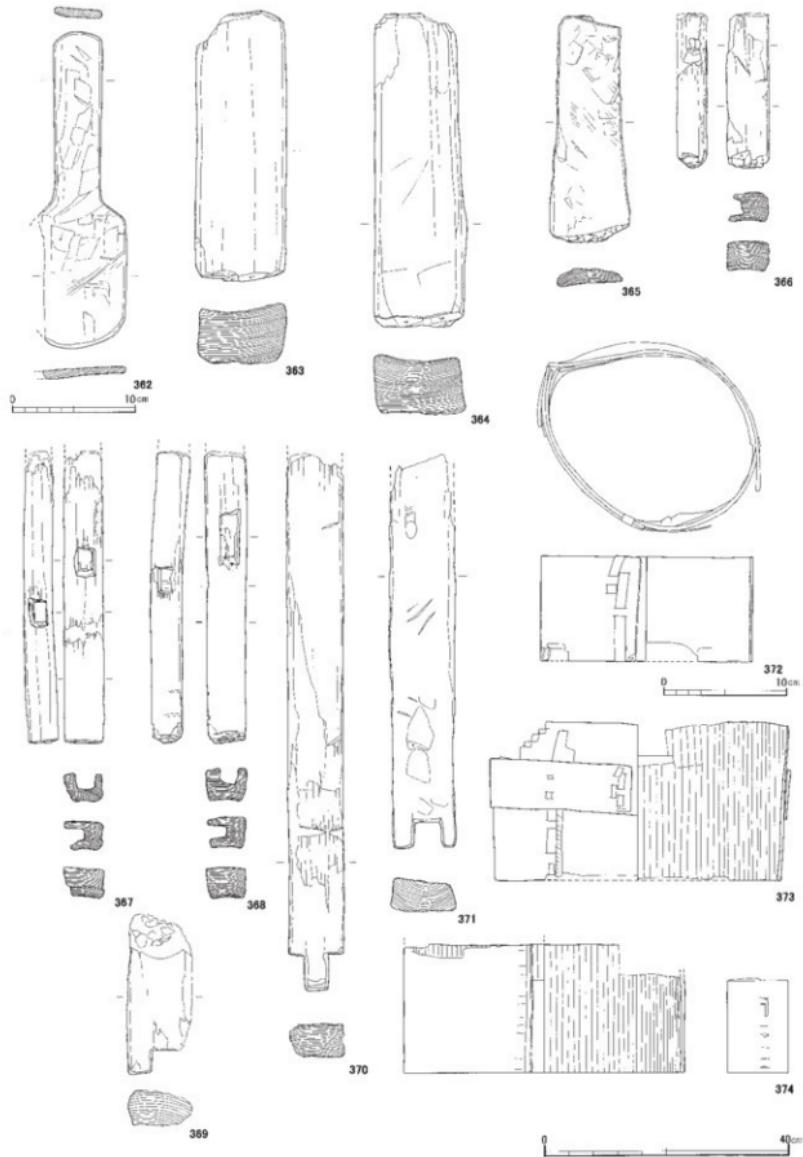
土坑出土遺物（第27図）

325はSK111から出土した。325は壺の底部である。

326～331はSK115から出土した。326～331は土師



第27図 SK111・115・91・70・109・113・72・106・98、SK72・339～342、SK106・343～344、SK98・345、SX84・346、SX73・347～350、SE71・351～361、SE116・375、376出土遺物実測図(1:4)



第28図 S E 71出土遺物実測図② (362~364・372=1:4、他は1:8)

器皿で、326は皿c、327は南伊勢系の皿で工具アタリ痕が残る。328～331は山茶椀で、328は第5型式、329～331は第6型式である。

332はSK91から出土した。332は第6型式の山茶椀である。

333～334はSK70から出土した。333は山皿で第6型式、334は白磁椀である。

335～337はSK109から出土した。335はロクロ土師器、336は山皿で第6型式、337は南伊勢系甕(仮)A段階である。

338はSK113から出土した。338は常滑製品の甕10型式である。

339～342はSK72から出土した。339は南伊勢系鍋第4段階d型式か、340は山皿第5型式である。341は天目茶碗で登窯第5小期、342は肥前産椀で近世のものである。

343～344はSK106から出土した。343は鉄絵皿で

登窯第2小期、344は常滑製品の鉢で、外面にススが付着している。

345はSK98から出土した。345は常滑製品の浅鉢である。

中世墓出土遺物(第27図)

346はSX84から出土した。346は山茶椀第5型式である。

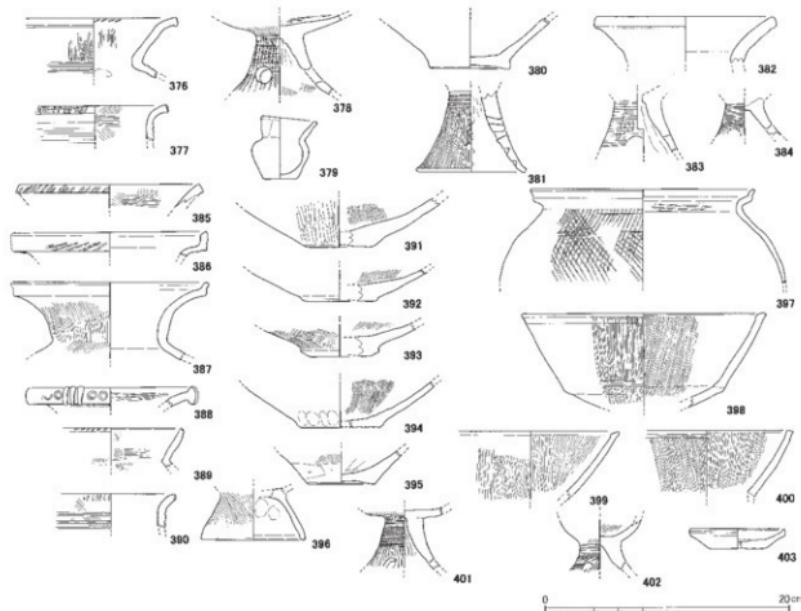
347～350はSX73から出土した。347～350は山茶椀で、347は第6型式で内面にススが付着している。348～350は第5型式である。

井戸出土遺物(第27～28図)

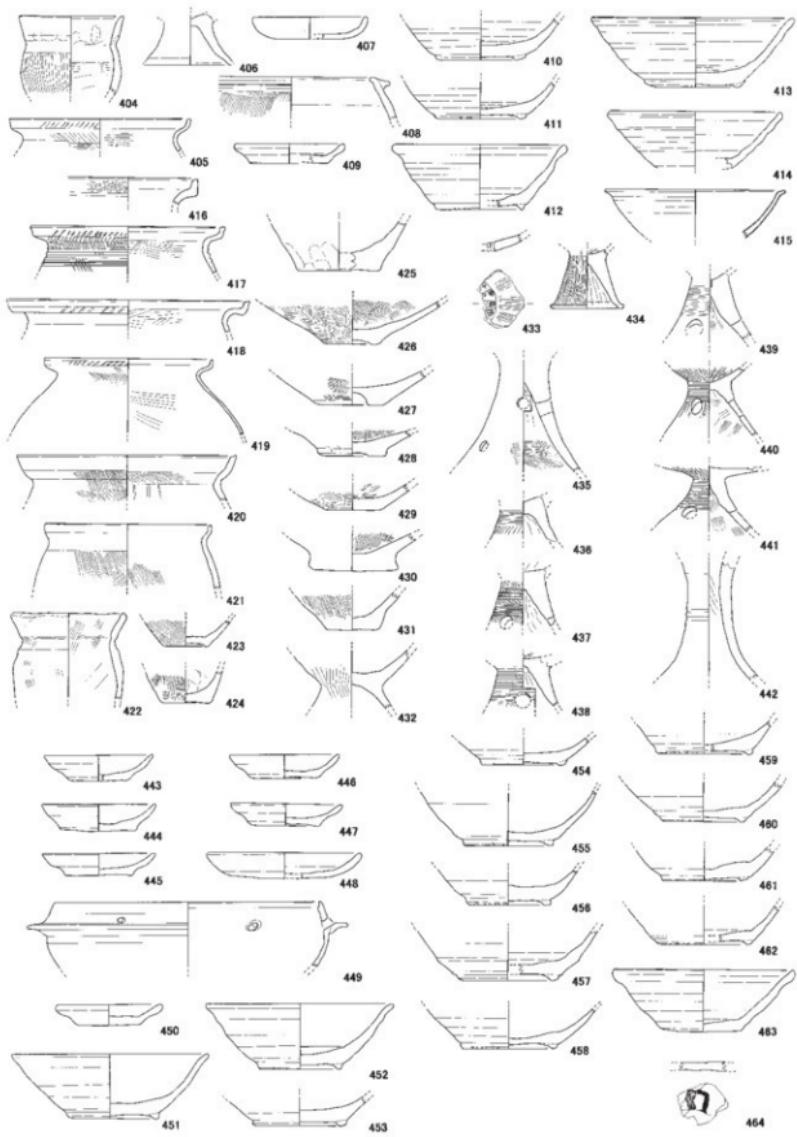
351～374はSE71から出土した。

①土師器・陶器

351は土師器皿で小皿b、352～353は山皿第5型式で、353は底部外面にドーマンのような墨書きが書かれている。354～360は山茶椀である。354～357は第5型式で、356～357は底部外面に墨書きが書かれ、



第29図 下層遺構出土遺物実測図(1:4)



Pit: 404~415

包含層: 416~464

0 20 cm

第30図 Pit、包含層①出土遺物実測図 (1:4)

いずれも記号であろうか。358～360は第6型式、360は内外面にススが付着し、内面は重ね焼き痕が残る。361は青磁碗である。

②木製品

362はしゃもじ、363～365は井戸枠部材であろうか。366～368は井戸枠支柱で、横桟と重なる箇所を平らに削っている。367～368は先端が潰れているようで、打ち込んだ際に潰れたのであろうか。369～371は井戸枠横桟である。372～374は曲物で、372は小型で1枚の側板で仕上げられている。373は1段籠が残り、内面は縦方向にケビキが入れられている。374は籠が外れて残せず、内面は縦方向にケビキが入れられている。

375はSE116から出土した。375は土師器羽釜である。

下層遺構出土遺物（第29図）

376はSD117から出土した。376は広口壺である。

377～379はSD118から出土した。377は弥生時代前期の甕で、378は高杯、379はミニチュア土器甕で

ある。

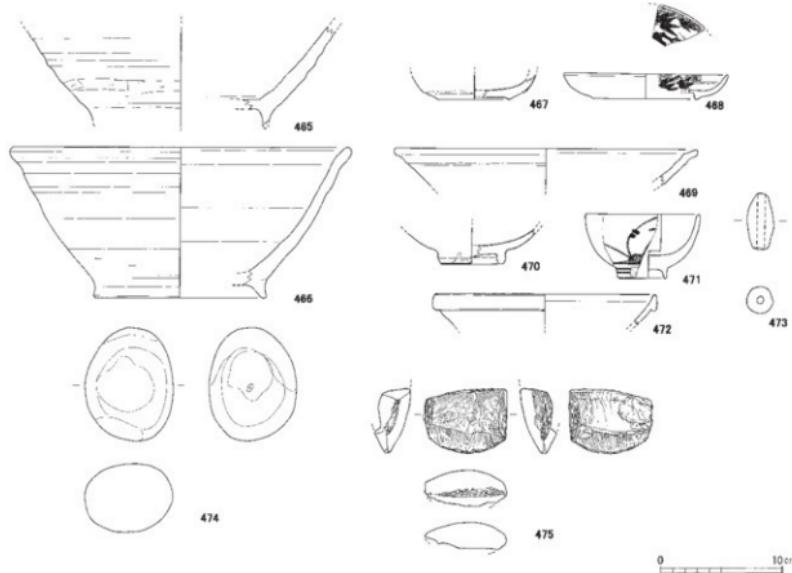
380～381はSD120から出土した。380は甕の底部で、381は高杯である。高杯は4方向スカシ、4段で構成されている。スカシは内外面貫通しているものもあれば、外側から内側へないしは内側から外側へ開けているものの貫通していないものがある。

382～384はSD165から出土した。382は広口壺、383～384は高杯である。

385～403はSD119から出土した。385～387は広口壺、388は複合口縁甕、389は短頸甕、390は弥生時代前期の甕、391～395は甕の底部である。393は底部外面に石粒・砂粒が多量に付着している。396～397は台付甕で、397はS字状の口縁である。398～402は高杯で島賈Ⅲ期併行、403は山皿第7型式である。

Pit出土遺物（第30図）

404～406は甕で、404はく字状、405は受口状、406は台付甕の脚部である。407は土師器皿で皿c、408は羽釜である。羽釜は外面をハケメで調整した



第31図 包含層出土遺物実測図② (1:4)

後、日縁端部を貼付けている。

409は山皿で第6型式、410~414は山茶椀で、410・413は第5型式、411~412・414は第6型式である。415は青磁楕である。

包含層出土遺物（第30~31図）

①弥生時代末～古墳時代

416は広口壺、417～422は壺である。口縁部の形状は、417～421が受口状、422がく字状であろう。423～431は壺もしくは甌の底部である。432は台付甌で素地に多くの砂粒が混じっている。433は瓶である。434～441は高杯である。

442は須恵器高杯で長脚二段スカシである。

②中世地

443～447はロクロ土師器、448土師器皿c、449は

中北勢系羽釜で伊藤編年 II-a 段階併行期である。

450は山眉で第7～8型式、451～464は山茶椀である。451・453・455～458は第5型式、452・454・459～462は第6型式、463は第7型式、464は第6～7型式で、底部外面に墨書きが見られる。465～466は片口鉢で465は第5～6型式、466は第6型式である。467は鉄釉の瀬戸美濃産皿で登窯第2小期であろうか。468は瀬戸美濃産絵皿で近代のもの、469は瀬戸美濃産鉄絵鉢で登窯第2～3小期である。470は青磁碗、471は瀬戸美濃産湯呑で、472は白磁碗、473は土鍤、474は磨石で平坦面と側面に広く磨り面が形成され、赤色顔料が付着している。475は磨石器である。
(酒井)

(酒井)



第32図 D地区構造平面図 (1:200)

VI D地区の調査成果

1 調査区の地形と基本層序

調査区は、標高約5.5～5.7mの沖積地に位置し、現況は水田である。調査区の基本層序は、第33図第1層暗褐色砂質土（耕作土）、第2層橙褐色砂質土（床土）、第3層灰褐色砂質土、第4層黒褐色粗砂、第5層黒色粘土、第6層明黃褐色粘土（検出面）である。（酒井）

2 検出した遺構

今回の調査で確認された遺構は、鎌倉時代から江戸時代にかけての土坑、井戸、中世墓、溝等である。ここでは主要な遺構のみを記述する。記述していない遺構に関しては第4表遺構一覧表を参照されたい。

SD121 調査区を東西方向に走る。幅2.5～5×16m以上で、残存する深さは約60～80cmである。埋土からは土師器皿・鍋、山茶椀等が出土している。

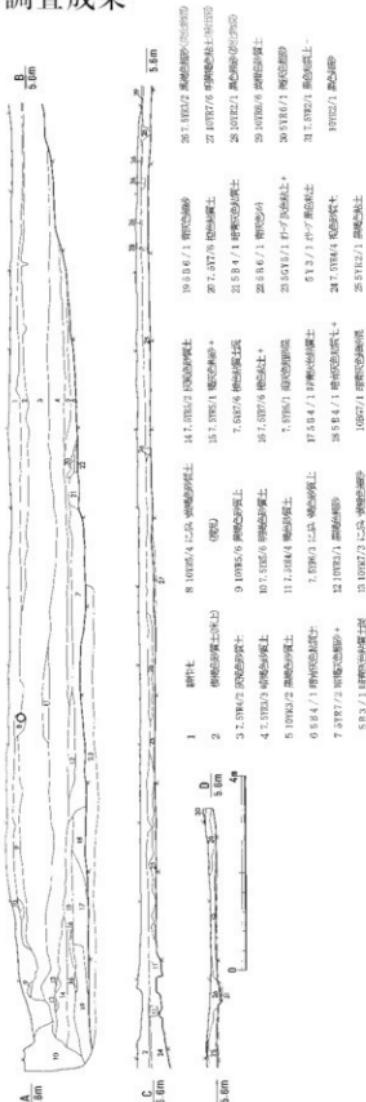
SD129と重複するが、前後関係は不明であるため、便宜的に地区杭g3とg5の遺構ラインを繋ぐ所までをSD121として取り扱った。埋土中の大半の遺物は、藤澤編年第5～8型式の山茶椀であるが、最新の遺物は、藤澤編年登窯第2小期の天目茶碗である。

SD129（第34図） 調査区を南北方向に走る。幅3.2×17.4m以上で、残存する深さは74～98cmである。調査区東壁土層7層の暗青灰色層から第34図の山茶椀、常滑製品甕等が出土している。埋土中の大半の遺物は、藤澤編年第5～8型式の山茶椀であるが、最新の遺物は、中野編年10型式の常滑製品甕である。

SK135 0.73×0.44mの楕円形を呈し、残存する深さは9cmである。埋土から土師器皿が1点のみ出土している。

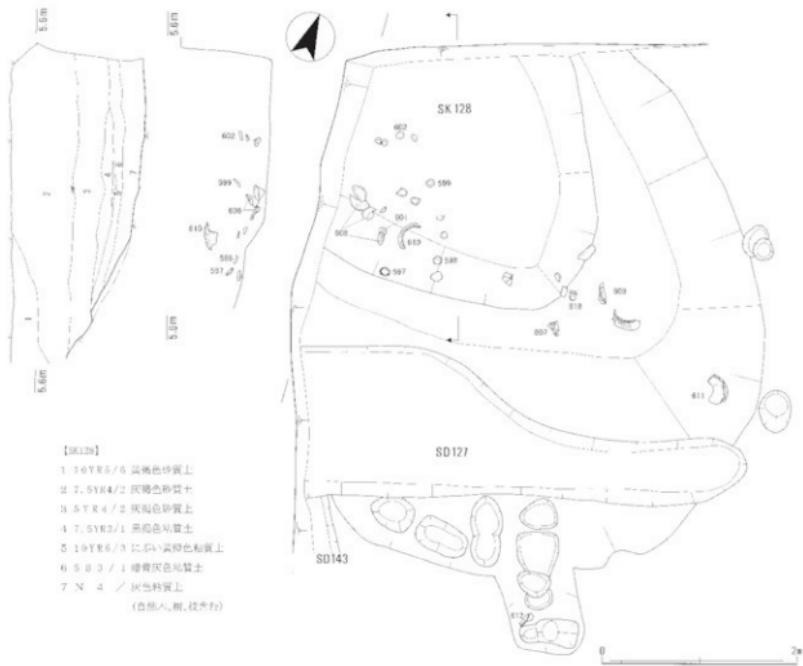
SK150 4.0×4.2mの長方形を呈し、残存する深さは22～41cmである。埋土から土師器皿・羽釜が出土した。埋土中の最新の遺物は、伊藤編年第4段階の羽釜である。

SK128（第35図） 5.4×4.9m以上の楕円形を呈し、残存する深さは75～100cmである。遺構の大半は調査区外へ延びていく。埋土から土師器皿・鍋・

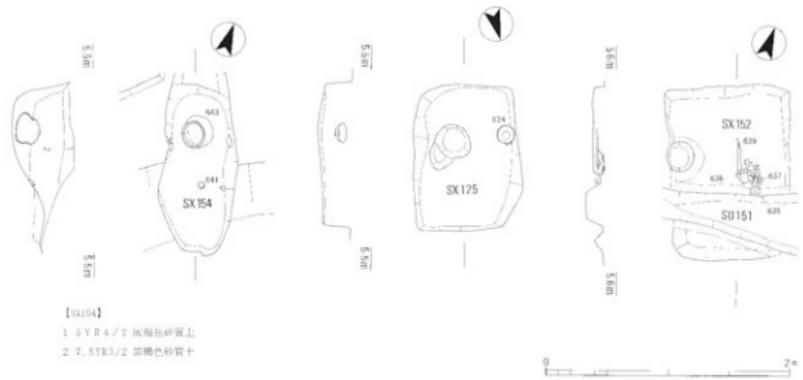


第33図 D地区土層断面図（1:100）

第34図 SD129平面図・断面図(1:40)



第35図 SK128平面図・断面図（1:50）



第36図 S X 154・125・152平面図・断面図 (1:40)

羽釜、常滑製品甕等が出土した。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年古瀬戸後期の折縁小皿である。

SX125 (第36図) 1.2×0.9mの隅丸長方形を呈し、残存する深さは12~22cmである。埋土から山茶楓(634)が正位の状態で出土している。埋土中の

最新の遺物は、藤澤編年第6型式の山茶椀である。

SX152 (第36図) 1.6×1.0mの長方形を呈し、

残存する深さは6～12cmである。埋土から鉄製刀子

と山茶椀(637)が(638)に蓋をするような状態で

出土している。また、SX152から流出したものと思

われる骨の小片がSD151から出土している。埋土中

の最新の遺物は、藤澤編年第5型式の山茶椀である。

残存する深さは31～35cmである。SD136、SD121掲削後検出した。埋土から体部に2ヶ所、焼成後穿孔を持つ南伊勢系巣(643)、上師器皿(641)が出土している。埋土中の最新の遺物は、伊藤編年第2段階c型式の羽釜である。

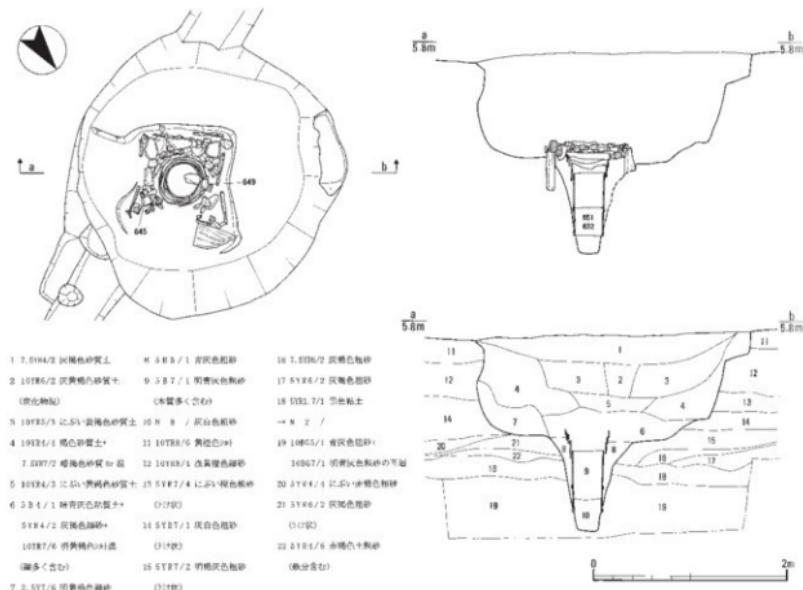
SE126 (第37図) 径2.9mの円形の井戸で、深さは2m(標高3.2m)である。堀方は、方形で、井戸戸口は一辺が80cm程の隅柱を持ち、縦板の一部が確認できる。曲物は三段積み上げて、中段の腐食が著しく、埋土に面影を留める状態であった。埋土から山皿、山茶碗等が出土している。埋土中の最新の遺物は、藤澤編年第9型式の山茶碗である。

(酒井)

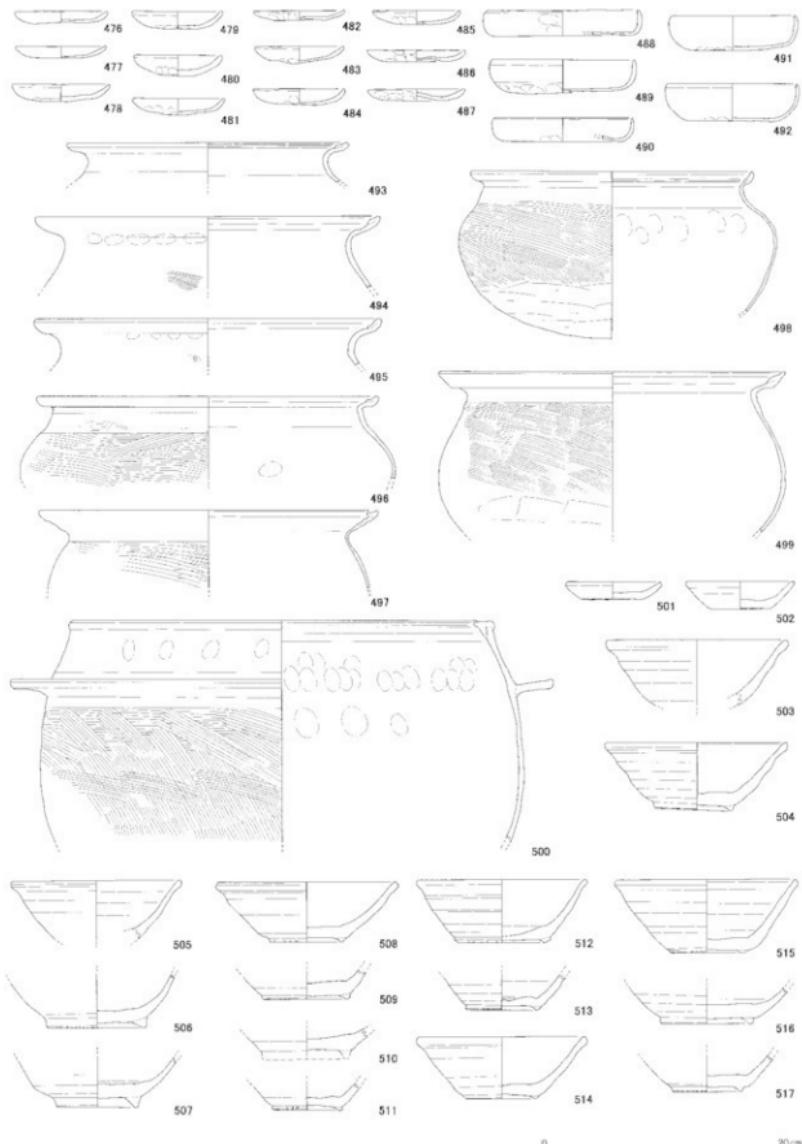
3 出土した遺物

今回の調査区で、SD121から最も多く遺物が出土

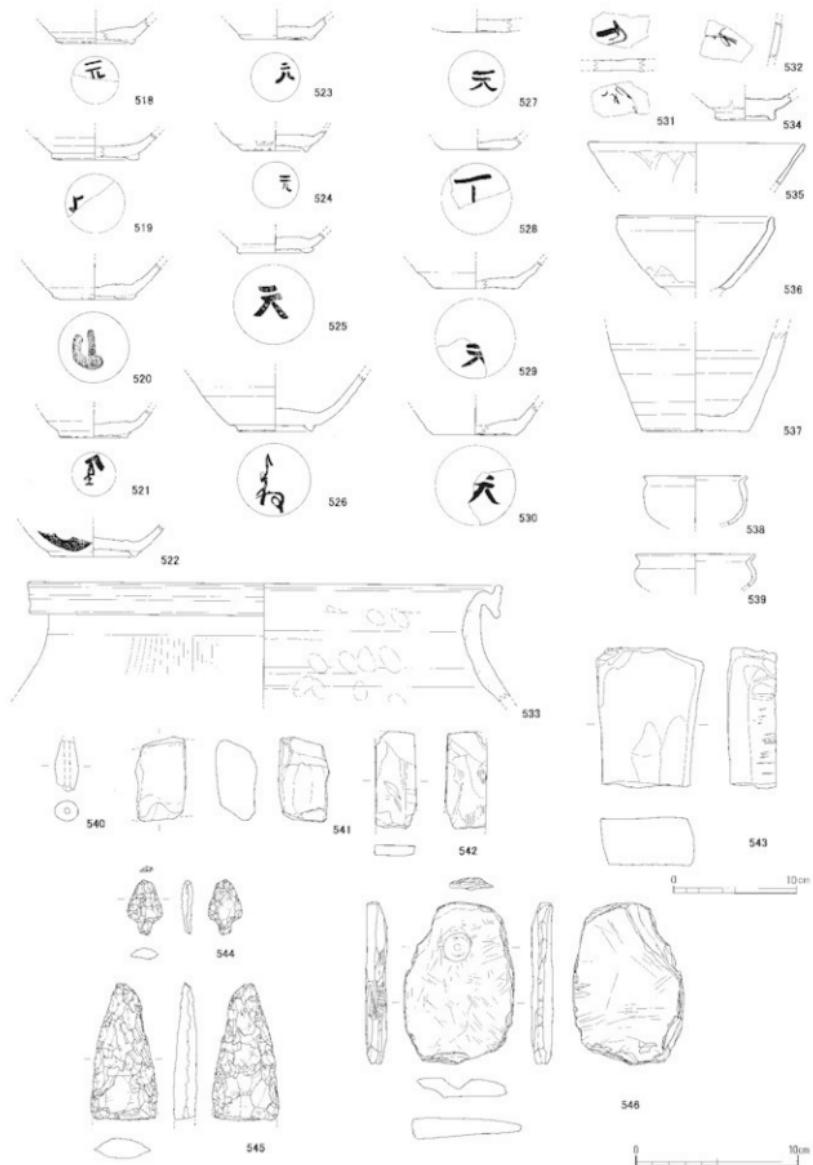
している。出土した遺物は、弥生時代から近世まで



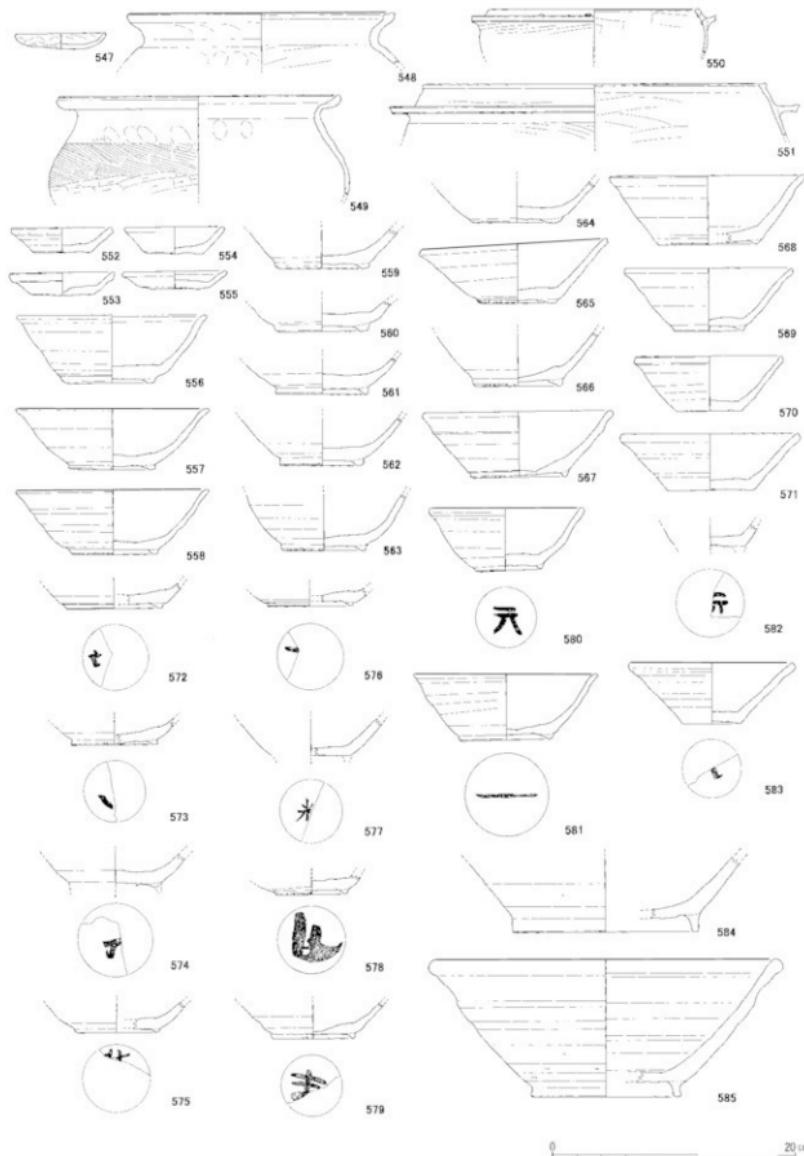
第37図 S E 126平面図・断面図 (1:50)



第38図 S D 121出土遺物実測図① (1 : 4)



第39図 S D 121出土遺物実測図② (518~543 = 1 : 4、544~546 = 1 : 3)



第40図 S D129出土遺物実測図① (1 : 4)

のものがある。以下、出土遺物の概略を記述する。

詳細については、出土遺物観察表を参照されたい。

SD121出土遺物（第38～39図）

遺物は大きく分けて、山茶椀第5～8型式の時期と土師器鍋第3～4段階の時期の二時期存在している。上層は両時期の遺物が出土するが、最下層（暗黄灰。488・494・502・503・508・514）のみは山茶椀の時期のもののみ出土する。最下層以外の層は二時期が混在しているため、埋土の堆積状態による遺構内での時期差は考えにくい。

①土師器

小皿・皿 径7.5～8.5cmの小型のもの（476～487）と径10～12.5cmの大型のもの（488～492）がある。476～487は川崎分類小皿a1、488～492は皿aである。486は内面に油煙が付着し、灯明皿である。487は胎土・調整はa1であるが、底部外面の指押さえはcの手法である。

鍋・羽釜 口径23cm程の小型のもの（493・497・498）と28cm程の中型のもの（494～496・499）がある。493は伊藤編年第1段階a型式、494・496・498は第2段階c型式、495は第1段階b型式、497・499は第3段階b型式のものである。500は羽釜で、第3段階併行期頃のものか。

②陶器

山茶椀 501は藤澤編年第7～8型式に、502は第5型式に比定される。

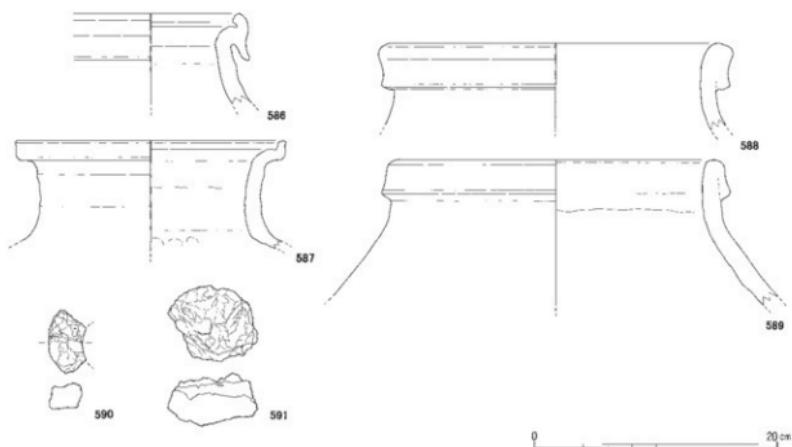
山茶椀 506～507・510・516は第5型式、503～505・508～509・512～515は第6型式である。511・517は第7型式である。503は内外面に、504・509は内面に煤が付着し、503・504は同一個体である。522は重ね焼き痕が残る。

518～522・526は第6型式、523～525・527は第7型式、528・530は第7～8型式、529は第8型式、531は第7型式であろうか、532は第6～7型式の山茶椀で、墨書がある。518・523～524は「元」、525・527・529～530は「火」、526は「よね」と読める。522は体部に右から左方向へ記号を書いたように読め、519は「よ」と読み、その他は不明である。527は意図的に高台部を打ち欠いている。

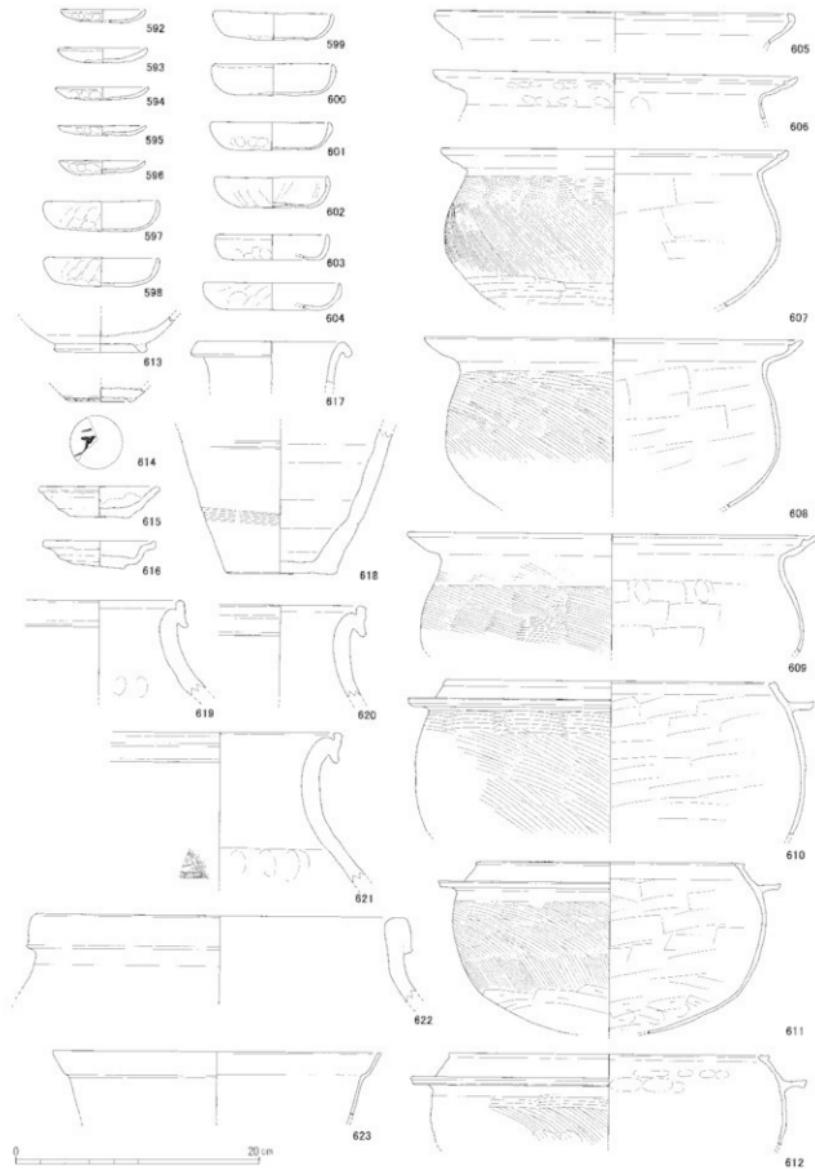
常滑製品他 533は6型式の常滑製品の甌である。534～535は青磁碗である。536は天目茶碗で、登窯第2小期のものである。537は壺で三筋壺であろう。

538～539は、口縁部が屈曲して開き横ナデで調整し、外間に煤が付着し、ミニチュア土器の鍋であろうか。540は土鍤、541～543は砥石である。

544は石鍤、545は下半分が欠損しているため不明



第41図 SD121出土遺物実測図② (1:4)



第42図 S K128出土遺物実測図 (1 : 4)

であるが石棺であろうか。546は硯と思われる。

SD129出土遺物（第40~41図）

遺物は大きく分けて、山茶椀第5~8型式の時期と土師器鍋第3~4段階の時期の二時期ある。

①土師器

小皿 547は内面に工具ナデがある小皿a1である。

鍋・羽釜 548は甌（仮）A段階、549は2段階c型式頃の鍋である。

550は中北勢系羽釜で口縁部に外側から2孔1対の焼成前穿孔を持ちIIa段階、551は南伊勢系羽釜で口縁部上端に面を持ち第3段階併行期の羽釜であろう。

②陶器

山皿 552~555は口縁部が尖り、体部が直線的で第6型式である。

山茶椀 558・562は第5型式、556・557・559~561・563~568・571は第6型式、570は第8型式である。565は重ね焼き痕が残る。568は、内面に煤が付着している。

572~579・581は第6型式、580・582・583は第7型式の山茶椀で、墨書がある。574は「丁」、577は「米」、580・582は「丸」のように読め、581は「一」、その他は不明である。580は内面と割れ口（断面）が、583は内面が焼けて煤が付着している。

常滑製品他 584~585は第6型式の片口鉢である。586~589は常滑製品の甌で、586は6型式に、587は口縁部が受け口状で5型式に、588~589は10型式に比定される。

590~591は鉄滓で、図示していないものも多数出土している。

SK128出土遺物（第42図）

①土師器

小皿・皿 小型のもの（592~596）と大型のもの（597~604）がある。592~596は小皿a1で、597~604は皿aに相当する。598は、口縁部に接合痕が、602は内面に工具ナデが、底部に接合痕が確認できる。

鍋・羽釜 605~609は鍋で、605は第2段階a型式、606~609は第3段階b型式に比定される。

610~612は南伊勢系羽釜で、第3段階併行期に比定される。

②陶器

山茶椀 613は高台に別の胎土を貼付けているため高台が黒く、第5型式である。614は、第7型式で「丸」の墨書がある。

常滑製品他 615は縁軸小皿で古瀬戸後III期、616は折縁小皿古瀬戸後III期で重ね焼き痕が残る。

617は白磁甌、618は三筋甌で複線の沈線がある。619~622は常滑製品の甌で、619~621は6型式で、621は肩部に押印文を持ち、622は第10型式である。鉄製品 623は鉄鍋の口縁部片で、口縁端部が内傾している。1/12程しか残存していないため、多少径が大きくなる可能性がある。

SD148出土遺物（第43図）

624はタキ技法の平底甌である。

SD136出土遺物（第43図）

625は第4型式の山皿に比定される。

SD134出土遺物（第43図）

626は第5型式の山皿で、重ね焼き痕がみられる。

SD137出土遺物（第43図）

627は第5型式の山茶椀に比定される。

SD127出土遺物（第43図）

628は8型式の常滑製品の甌に比定される。

SK139出土遺物（第43図）

629は台付甌の脚部である。

SK135出土遺物（第43図）

630は土師器皿aである。

SK150出土遺物（第43図）

631は土師器皿aで、632は口縁端部を丸く収め第4段階併行期の南伊勢系羽釜に比定される。

SX125出土遺物（第43図）

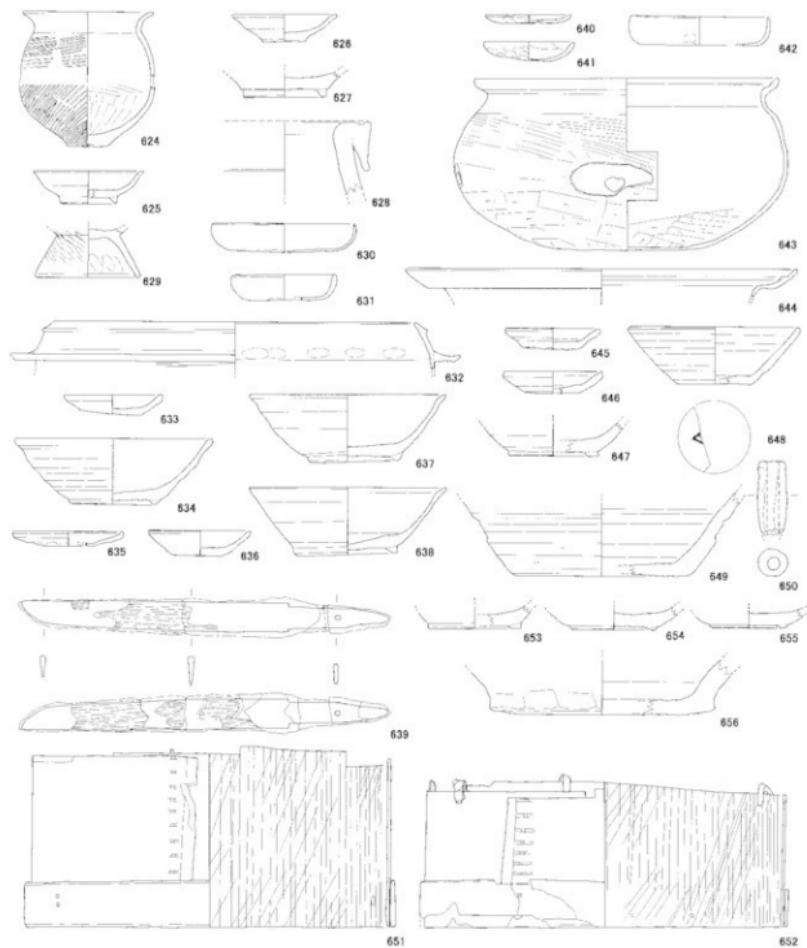
633は第6型式の山皿で、634は第6型式の山茶椀に比定される。

SX152出土遺物（第43図）

635は土師器皿bで口縁部に強いナデ・面を持っている。636は山皿で、第5型式に比定される。637・638は山茶椀で、第5型式に比定される。639は鉄製刀子である。

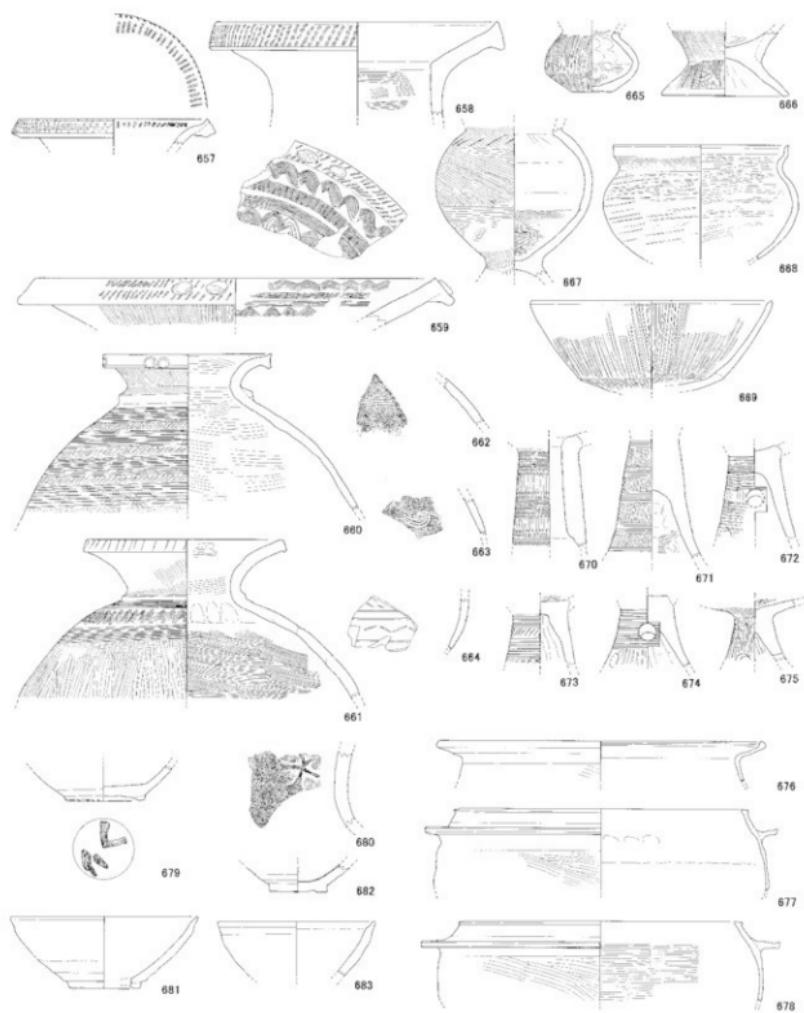
SX154出土遺物（第43図）

640~642は土師器皿である。640は小皿a1、641は小皿a2で工具ナデ痕が見られ、642は皿aに比定される。643は体部に2箇所焼成後穿孔を持つ南伊



0 20cm
—

第43図 SD148・136・134・137・127、SK139・135・150、SX125・152・154、SE126、Pit出土遺物実測図(1:4)



0 20 cm

第44図 包含層出土遺物実測図 (1 : 4)

勢系鍋で、第2段階b型式に比定される。644は南伊勢系鍋の口縁部で第3段階b型式に比定される。

SE126出土遺物（第43図）

645～646は山皿で、645は第6型式、646は口縁端部が尖り第7型式に比定される。647～648は山茶椀で、647は第5型式に、648は第9型式の墨書で記号を書いたようである。649は片口鉢で第5～6型式、650は土鉢である。

651～652は木製曲物で、蓋が一段残り、側板は一列で樹皮により両端をつなぎ合わせている。内面には縱方向と斜め方向にケビキがいれられている。652は側板の上に蓋を固定する結合孔が見られる。

Pit出土遺物（第43図）

653～655は山茶椀で、第6型式である。656は常滑製品の甕の底部である。

包含層出土遺物（第44図）

①弥生時代末～古墳時代前期

概ね鳥貫Ⅲ期頃のものであろう。657～661は広口壺である。657は、口縁部の垂下・拡張面に刺突を施している。658は、口縁端部が上下に拡張し、外面上に刺突文が施されている。659は口縁端部を下方に拡張し、内面に波状文と廉状文と櫛描直線文が施されている。外面には刺突文の後、円形浮文が施さ

れている。660は口縁端部を上下に拡張し、竹管文を施し、頸部に突帶を巡らし、体部上半に櫛描直線文の間に刺突文が施されている。661は口縁端部外間に刺突文で装飾し、体部上半には櫛描直線文の間に波状文が施されている。662～664は、壺の体部で、天地は不明である。664は赤色顔料が塗布されている。

665はミニチュア土器の壺、666は台付甕の脚部、667は台付甕の体部、668は受口状口縁鉢である。

669～675は高坏で、669は内脇口縁、670～675は脚部である。

②中世

鍋・羽釜 676は、南伊勢系鍋で口縁端部が三角状に立ち上がり、第4段階c型式と思われる。677・678は、南伊勢系羽釜で第3段階併行期に比定される。

山茶椀 679は第6型式の墨書土器で記号が書かれていると思われるが、不鮮明のためはっきりしない。

常滑製品他 680は、常滑製品の甕の頸部で押印文が見られる。681は平椀でトチン痕が見られ、古瀬戸後二期、682～683は天目茶椀で古瀬戸後二期である。

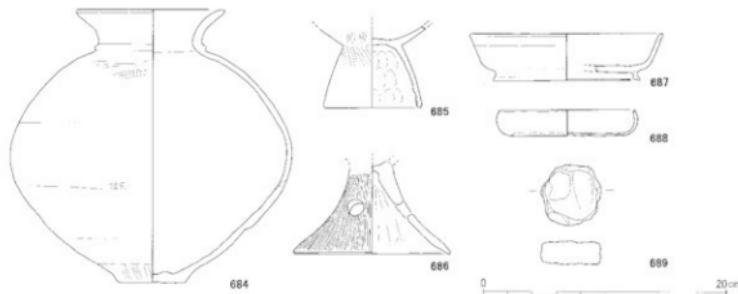
（酒井）

VII 範囲確認調査出土遺物

684は土師器直口壺、685は台付甕、686は高杯である。概ね鳥貫Ⅲ期頃であろう。687は須恵器杯B

である。688は土師器皿で中世のもの、689は加工円板であろう。

（酒井）



第45図 範囲確認調査出土遺物実測図（1：4）

遺構番号	性格	時期	調査次数	小地区	備考
SK 1	土坑	IV期	1次	K12~13	
SE 2	井戸	III期	1次	K14~15	
SE 3	井戸	II期	1次	K13	遺物碎片のみ
SK 4	土坑	II期	1次	K15~16	
SE 5	井戸	II期	1次	K22	
SE 6	井戸	II期	1次	L25~M26	SK23を切る
SD 7	溝	II期	1次	L~M28	SD18と一連
SE 8	井戸	II期?	1次	L19	前身遺構あり
SE 9	井戸	IV期	1次	K21	
SK 10	土坑	II期	1次	K20~21	遺物碎片のみ
SE 11	井戸	III期	1次	M24	
SK 12	土坑	III期	1次	K25	
SK 14	井戸	III期	1次	L28	SD7を切る
SD 15	溝		1次	K28	SD7・18と一連か?
SE 16	井戸	II期	1次	L29	
SE 17	井戸	II期	1次	M26	
SD 18	溝	II期	1次	L~M27	SD7と一連
SE 19	井戸	III期	1次	K30	
SK 20	土坑		1次	K29	
SK 21	土坑		1次	K28~29	
SD 22	溝		1次	L26~27	SD7・18と一連か?
SK 23	土坑	II期	1次	L25	SE6に切られる
SE 24	井戸	II期	1次	N25~26	SE25の掘り方?
SE 25	井戸	II期	1次	N25~26	SE24の井筒
SD 26	溝		1次	L22~23	
SK 27	土坑		1次	L23	
SK 29	土坑		1次	L23	
SK 30	土坑		1次	L23	
SD 51	道路		2次A地区	b1~8, c8・9, d9	調査区のほぼ全体にかかる流路
SK 52	落ち込み		2次A地区	d10	自然の落ち込み
SK 53	落ち込み		2次A地区	d12	自然の落ち込み
SE 54	井戸	II期	2次A地区	b3	
SZ 55	溝		2次A地区	d - e13	環濠か
SK 56	土坑	III期~IV期	2次B地区	d4	大形土製品
SD 57	溝		2次B地区	c3	
SZ 58	落ち込み	III期	2次B地区	c - d3・4	
SK 59	土坑		2次B地区	d - e4・5	
SD 60	落ち込み		2次B地区	d - e6・7	1次調査区の流路に繋がる
SD 61	溝	II期	2次B地区	d - e9・10	
SD 62	溝	III期~IV期	2次B地区	d - e9	
SK 63	土坑		2次B地区	d13	
SD 64	溝		2次B地区	d - e10	
SK 65	土坑	IV期	2次B地区	b2	陶器・石がまとまって出土
SD 66	溝		2次B地区	b2	
SD 67	溝		2次B地区	b2	
SE 68	井戸	IV期	2次B地区	e9	
SK 70	土坑		2次C地区	a・b1	
SE 71	井戸		2次C地区	a・b4	西・南にテラスを持つ方形の井戸
SK 72	土坑		2次C地区	a・b6	
SX 73	中世墓		2次C地区	a4	
SD 74	溝		2次C地区	a5	
SD 75	溝		2次C地区	a5~c 5	
SD 76	溝	IV期	2次C地区	a4	
SK 77	土坑	I期	2次C地区	a4	
SD 78	溝		2次C地区	a6~c6	
SD 79	溝	II期	2次C地区	a6~c6	SD78より新しい
SD 80	溝	III期	2次C地区	b4~6	新しい耕作溝か
SK 81	土坑	I期	2次C地区	c4	
SK 82	土坑		2次C地区	c4	
SD 83	溝	III期	2次C地区	b・c3	新しい耕作溝か
SX 84	中世墓	IV期	2次C地区	a1・2	
SK 85	土坑	II期	2次C地区	b・c1	
SD 86	溝	III期	2次C地区	b・c6	SD86の東側
SK 87	土坑	I期	2次C地区	c2	
SD 88	溝	I期	2次C地区	c6	SD86下層
SD 89	溝	I期	2次C地区	a~c 10	

第3表 遺構一覧表①（表記のない数字は欠番）

遺構番号	性格	時期	調査次数	小地区	備考
SD90	溝	I期	2次C地区	a・b9	
SK91	土坑	II期～IV期	2次C地区	c6	SD86より古い
SD92	溝		2次C地区	a・b11	
SK93	土坑		2次C地区	a9	
SD94	溝		2次C地区	a9	耕作溝
SD95	溝	II期	2次C地区	a・b9	
SD96	溝	II期	2次C地区	a・b10	
SK97	土坑		2次C地区	a9	
SK98	土坑	III期	2次C地区	a9	SD95より新しい
SK99	土坑	II期～IV期?	2次C地区	a8	
SZ100	落ち込み		2次C地区	a11	
SK101	土坑	II期	2次C地区	b6	SK86より新しい
SK102	土坑	II期	2次C地区	a・b10	
SK103	土坑	II期	2次C地区	a9・10	
SE104	井戸	II期	2次C地区	b11	
SK105	土坑		2次C地区	b9	
SK106	土坑		2次C地区	b8	
SD107	流路		2次C地区	a・b1	
SD108	溝		2次C地区	a・b8	
SK109	土坑		2次C地区	a1～3	寄生遺物混入
SD110	流路		2次C地区	a～c1	
SK111	土坑		2次C地区	b3	
SZ112	落ち込み		2次C地区	c3	
SK113	土坑	I期	2次C地区	b6	SD86より新しい
SD114	溝		2次C地区	a7	
SK115	土坑	III期	2次C地区	a3	
SE116	井戸		2次C地区	a10	SD89より古い
SD117	溝	II期	2次C地区	a・b1	下層で検出
SD118	溝		2次C地区	b2	下層で検出
SD119	溝	II期	2次C地区	a2～b3	下層で検出
SD120	溝		2次C地区	b3	下層で検出
SD121	溝	II期～IV期	2次D地区	a～f3, c～f4	SD129との切りあい不明
SK122	土坑		2次D地区	f2	
SK123	土坑		2次D地区	f2	
SK124	土坑	I期	2次D地区	b5	
SX125	中世墓	I期	2次D地区	e5	
SE126	井戸	I期	2次D地区	e～f2・3	
SD127	溝	III期	2次D地区	c～d2・3	
SK128	土坑	III期	2次D地区	c1～3, d2・3	
SD129	溝	II期～IV期?	2次D地区	g2～g6	SD121との切りあい不明
SD133	溝		2次D地区	b6, cb～6	
SD134	溝	II期	2次D地区	c～e5	SD151と同一?
SK135	土坑	II期	2次D地区	c5	
SD136	溝	II期	2次D地区	c4・5	
SD137	溝	II期	2次D地区	e・f5	
SD138	溝		2次D地区	e5	
SK139	土坑		2次D地区	c3	
SD140	溝		2次D地区	c・d3	
SK141	土坑		2次D地区	c・d3	
SK142	土坑		2次D地区	c3	
SD143	溝		2次D地区	c2	
SK144	土坑		2次D地区	e3～4	
SD147	溝		2次D地区	e・f3	
SD148	溝	I期	2次D地区	b7	
SD149	溝		2次D地区	e・f2	
SK150	土坑	III期	2次D地区	f・g5	
SD151	溝		2次D地区	e～g6	SD134と同一?
SX152	中世墓	II期	2次D地区	f5～6	
SD153	溝		2次D地区	f・g6	
SX154	中世墓?	II期	2次D地区	c4	
SK156	土坑		2次D地区	f4	
SK161	土坑		2次D地区	c4	
SK163	土坑		2次D地区	f・g5	
SK164	土坑		2次D地区	f2	
SD165	溝	I期	2次C地区	c1	下層で検出。IE SD300
SK166	土坑	I期	2次C地区	c2	下層で検出。IE SK301
SK167	土坑	I期	2次C地区	c6	下層で検出。IE SK302

第4表 遺構一覧表②(表記のない数字は欠番)

告番号	Re.	器種名	小地区	遺構名	計測値 (cm)	既存度	調査・技法などの特徴	出土	状況	色調	特記事項
1	038-03	土器容器	A地区 SD54	口径 11.6 底径 2.5	4/12	外付子・内付子 内付子		瓦	灰黄	南伊勢系	
2	012-07	陶器 碗	A地区 SD54	—	—	外付子系場 内付子		瓦	灰白、灰	直腹直口 高台形器、尾端切7型式	
3	038-05	青磁 碗	A地区 SD54 b3	—	1/12弱	外付子・溝文		瓦	灰	輪軸ハープ底 直腹灰白	
4	039-04	土器容器	A地区 SD51 a3	横径 13.3	2/12弱	外付子・深腹直口・竹管 内付子・溝文		やや 瓦	灰 にふい縁	直腹系	
14	013-03	土器容器	A地区 SD51 b8	口径 14.0	2/12強	外付子・口付 内付子・溝文		瓦	灰	にふい縁	
15	012-05	土器容器	A地区 SD51 a2	底径 5.0	5/12	外付子・口付 内付子		瓦	灰	浅黄褐色	
16	032-05	土器容器	A地区 SD51 a3	部基部墻 内付子	3.0	外付子・口付 内付子・口付		瓦	灰	浅白 透し穴3方向	
17	010-02	土器容器	A地区 SD51 b8	部基部墻 内付子	5.0	外付子・口付 内付子・口付		やや 瓦	灰 灰黃褐色	透しの跡3方向	
18	014-03	土器容器	A地区 SD51 b6	口径 5.5	3/12	外付子・337.5° 内付子・337.5°		瓦	灰白、灰黃	中北勢系	
19	012-04	陶器 碗	A地区 SD51 a3	底高 1.8	3/12	外付子・直部切 内付子		瓦	灰白	内付自然縫 底端第4型式	
20	039-01	土器容器	A地区 SD51 b6	底径 7.6	6/12	外付子・直部切 内付子		やや 瓦	灰白	内付自然縫 底端第5-6型式	
21	039-03	土器容器	A地区 SD51 a2	底径 6.4	4/12	外付子・直部切 内付子		瓦	灰白	内付自然縫 底端第5型式	
22	012-01	陶器 碗	A地区 SD51 a1	底径 6.9	完存	外付子・直部切・貼付高台・口付 内付子		やや 瓦	灰白	尾張第6型式	
23	039-02	陶器 碗	A地区 SD51 c9	底径 7.7	6/12	外付子・直部切・貼付高台・口付 内付子		やや 瓦	灰白	内付自然縫 底端第5型式	
24	012-03	青磁 碗	A地区 SD51 a3	底径 6.4	9/12	外付子・直部切・貼付高台・口付 内付子・口付		やや 瓦	黄灰	尾張第6型式 尾張第5型式	
25	012-02	青磁 碗	A地区 SD51 a1	底径 10.4	2/12	外付子・直付子・貼付高台・口付 内付子		やや 瓦	灰白	内付自然縫 尾張第5型式	
26	013-01	青磁 碗	A地区 SD51 a2	底径 16.0	1/12強	外付子・直付子・貼付高台・口付 内付子		瓦	灰白	尾張第5-6型式	
27	046-03	瓦器 器	A地区 SD51 b7	口径 26.0	2/12	0付子		やや 瓦	灰	自然縫 常滑型	
28	012-06	青磁 盘	A地区 SD51 b8	底径 13.6	1/12	0付子		瓦	灰	内付自然縫 常滑型	
29	006-06	青磁 碗	A地区 SD51 b6	—	—	外付子・削出高台 内付子・口付		瓦	灰白、灰黃	削出口による匣合痕	
30	011-01	器物 铲	A地区 SD51 c9	口径 8.9	底部4/12	外付子・直部切・足踏付 内付子		やや 瓦	灰	残り1/2・黄 古窯戸後口器	
31	013-04	陶器 瓦及瓦器	A地区 SD51 c9	口径 11.8	2/12弱	外付子・口付 内付子		瓦	灰 灰地・白	笠突第4小期	
32	006-02	瓦 瓦片瓦	A地区 SD51 b8	—	—	タスリ・口付		やや 瓦	灰	瓦白、球文	
33	006-01	瓦 瓦片瓦	A地区 SD51 b9	—	—	タスリ・口付		やや 瓦	灰	三巴文、球文	
34	005-01	瓦 瓦片瓦	A地区 SD51 b6	—	—	タスリ・口付		やや 瓦	灰	三巴文、球文	
35	039-06	土器容器	A地区 SD55 e13 東	—	—	外付子・縫刻 内付子・口付		やや 瓦	灰白、灰灰 灰	縫刻土器	
36	039-09	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 17.4	2/12弱	外付子・口付・337.5°・刻(鉢) 内付子・口付		やや 瓦	灰 にふい黄壁		
37	017-04	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 15.0	1/12弱	外付子・縫刻 内付子・口付		やや 瓦	灰 にふい黄壁		
38	017-05	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 14.2	2/12	外付子・337.5° 内付子・口付・337.5°		やや 瓦	灰 浅黄褐色		
41	012-02	土器容器	A地区 SD55 e13	底径 13.6	盤部6/12	外付子・口付・直筒付・刻(鉢) 内付子		瓦	灰 素地・灰黃 赤	外・内赤彩	
42	038-02	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 15.0	2/12弱	外付子・337.5°・刻(鉢) 内付子・口付		やや 瓦	灰	外にふい黄壁	
43	015-01	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 18.9	2/12強	外付子・口付・337.5°・刻(鉢) 内付子・口付・337.5°		やや 瓦	灰 内付灰		
44	018-02	土器容器	A地区 SD55 e13	底径 12.6	盤部6/12	外付子・直筒付・口付 内付子・口付・6.9、12.7		やや 瓦	灰 にふい縁 灰白		
45	019-05	土器容器	A地区 SD55 e13	—	—	外付子・縫刻 内付子		瓦	灰 にふい縁 灰黃		
46	026-01	土器容器	A地区 SD55 e13 東	底径 31.0	4/12	外輪縫刻線文、波状文、網状文、射割(骨盤) 内付子・口付		やや 瓦	灰 波状文 にふい縁	無頭有	
47	017-01	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 20.0	2/12弱	外付子・337.5°・網状波状文、円形浮文輪付 内付子・口付		やや 瓦	灰 波状文 にふい縁		
48	014-01	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 17.0	1/12強	外輪縫刻線文、波状文輪付 内付子・口付		瓦	灰 波状文 輪付	輪付型灰 輪	
49	017-02	土器容器	A地区 SD55 e13	—	—	外付子・337.5°・網状波状文、梯状浮文輪付 内付子・口付		やや 瓦	灰 にふい縁		
50	013-03	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 15.1	6/12	外付子・337.5°・縫部突葉輪付 内付子・口付		やや 瓦	灰 にふい黄壁		
51	015-05	土器容器	A地区 SD55 e13	口径 19.0	1/12弱	外付子・337.5°・尖端輪付・口付 内付子・工具付・337.5°		やや 瓦	灰白		

第5表 出土遺物観察表①

剖面番号	No.	断面等	小地区	地盤名	計測値 (cm)	既存度	調整・復元などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
32	021-01	土崎路	A地区	S255	口径 14.2	8/12	外カット 10.0, 12.7 内カット 3.31m	やや 生 空	浅黄褐色、 灰青褐色		
53	016-04	土崎路	A地区	S255	口径 10.8	3/12	外カット 3.0m, 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	にぶい黄褐色		
54	011-05	土崎路 管	A地区	S255	底径 5.0	底部完存	外カット 1.5m, 底部付 内カット 1.5m	やや 生 空 無	地、灰色、 灰青褐色		
55	033-03	土崎路 管	A地区	S255	底径 5.0	底部完存	外カット 3.0m, ハケ付 内カット	やや 生 空 無	地、灰色、 にぶい橙		
56	030-04	土崎路 管	A地区	S255	最大径 11.4	—	外カット 15.6 内カット 15.6	やや 生 空	浅黄褐色、 にぶい橙、灰白		
57	027-02	土崎路 管	A地区	S255	底径 4.1	底部完存	外カット 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 空	地、灰色、 灰青褐色		
58	021-04	土崎路 管	A地区	S255	底径 3.4	底部完存	外カット 3.0m, 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 空	地、灰色、 灰青褐色		
59	006-05	土崎路 管	A地区	S255	口径 8.0	底部完存	外カット 10.0, 底部付 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	地、灰色、 灰青褐色		
60	006-04	土崎路 管	A地区	S255	口径 7.6	底部完存	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	地、灰色、 灰青褐色		
61	016-01	土崎路 管	A地区	S255	口径 12.5	2/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 工具付, 3.0m	やや 生 空 無	地、にぶい黄褐色、 灰青褐色		
62	016-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.3	2/12底	外カット 3.0m, 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	地、 にぶい橙		
63	018-03	土崎路 管	A地区	S255	口径 15.0	1/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	地、 灰白		
64	028-03	土崎路 管	A地区	S255	口径 12.6	2/12底	外カット 3.0m, 3.0m 内カット 3.0m	や 無	地、 にぶい黄褐色		
65	020-07	土崎路 管	A地区	S255	口径 15.0	1/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 空	地、 にぶい橙		
66	026-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 26.0	2/12底	外カット 3.0m 内カット 3.0m	や 無	地、 灰白、 灰青褐色		
67	014-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.0	4/12	外カット 3.0m, 灰白 内カット 3.0m	無 無	地、 灰白		
68	015-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 16.0	2/12	外カット 3.0m, 灰白 内カット 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 灰青褐色		
69	010-01	土崎路 管	A地区	S255	口径 15.8	2/12底	外カット 3.0m, 灰白 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	地、 灰白、 灰青褐色		
70	028-01	土崎路 管	A地区	S255	口径 15.0	2/12底	外カット 3.0m, 灰白 内カット 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 地、 にぶい黄褐色		
71	015-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 20.4	3/12	外カット 3.0m, 刻文 内カット 3.0m	やや 生 無	地、 浅黄褐色		
72	018-04	土崎路 管	A地区	S255	口径 23.0	2/12底	外カット 3.0m, 刻文 内カット 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 灰青褐色		
73	020-03	土崎路 管	A地区	S255	口径 13.4	4/12	外カット 3.0m, 刻文 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	地、 灰白、 にぶい黄褐色		
74	026-04	土崎路 管	A地区	S255	口径 16.9	2/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 無	地、 灰白		
75	020-05	土崎路 管	A地区	S255	口径 12.0	3/12	外カット 3.0m 内カット 7.7, 3.0m	やや 生 無	地、 灰白、 灰青褐色		
76	019-04	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.0	2/12底	外カット 3.0m, 刻文 内カット 7.7, 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 地、 にぶい橙		
77	019-06	土崎路 管	A地区	S255	口径 14.9	1/12底	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	地、 灰白		
78	019-03	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.8	1/12底	外カット 3.0m, 刻文 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色		
79	019-01	土崎路 管	A地区	S255	口径 20.0	1/12底	外カット 3.0m, 刻文 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色		
80	020-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 13.5	3/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 地、 にぶい黄褐色		
81	019-07	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.0	1/12底	外カット 3.0m, 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	地、 にぶい黄褐色		
82	019-05	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.8	3/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 地、 外保付着		
83	018-06	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.0	2/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 3.0m	やや 生 無	地、 灰白		
84	026-02	土崎路 管	A地区	S255	口径 16.4	2/12底	外カット 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 無	浅黄褐色、 地、 灰白		
85	015-03	土崎路 管	A地区	S255	口径 17.8	3/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m, 工具付, 3.0m	やや 生 無	地、 にぶい黄褐色		
86	026-04	土崎路 管	A地区	S255	口径 11.6	2/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	無 無	浅黄褐色		
87	021-02	土崎路 管	A地区	S255	底径 8.0	2/12底	外カット 3.0m 内カット	やや 生 無	地、 にぶい黄褐色	表面塗瓦	
88	022-04	土崎路 管	A地区	S255	底径 7.4	4/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	や 無	地、 灰白	模付瓦	
89	023-09	土崎路 管	A地区	S255	底径 7.9	1/12底	底部完存 外カット 3.0m 内カット 3.0m	無 無	地、 にぶい橙		
90	021-04	土崎路 管	A地区	S255	底径 6.0	3/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	やや 生 無	地、 にぶい黄褐色		
91	021-01	土崎路 管	A地区	S255	上部部 基	上部部 基	外カット 3.0m, 3.0m	や 無	地、 にぶい黄褐色		
92	023-03	土崎路 管	A地区	S255	高径 10.5	3/12	外カット 3.0m 内カット 3.0m	無 無	浅黄褐色	砂粒充填	

第6表 出土遺物観察表②

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	既存度	調査・採法などの特徴	出土	性度	色調	特記事項
93 022-03		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 7.8	2/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.7, 左7.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	砂利充填
94 022-05		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 7.2	3/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.2, 左7.2, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	砂利充填
95 022-06		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 7.7	4/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.7, 左7.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	
96 022-01		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 8.0	2/12強	外31.7, 内29.4 内右側 7.7, 左7.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	
97 021-05		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 8.2	4/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.7, 左7.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	
98 022-07		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 6.7	2/12強	外31.7, 内29.4 内右側 6.7, 左6.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	砂利充填
99 022-04		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 9.8	6/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.7, 左7.7, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	砂利充填
100 021-01		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 5.5	4/12	外31.7, 内29.4 内右側 5.5, 左5.5, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	
101 021-08		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 7.8	2/12強	外31.7, 内29.4 内右側 7.8, 左7.8, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	内、煤付有
102 022-02		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 5.6	2/12強	外31.7, 内29.4 内右側 5.6, 左5.6, 壁部ハメ		種	差	にぶい黄緑	
103 022-08		土器部 台付便	A地区 S255	窓径 6.4	4/12	外31.7, 内29.4 内右側 6.4, 左6.4, 壁部ハメ		種	差	法標	春苗摩滅 砂利充填
104 030-01		土器部 手形柄	A地区 S255	突井径 22.0	突井1/12	外31.7, 内29.4 内右側 22.0, 左22.0, 壁部付		種	差	灰白	
105 029-04		土器部 手形柄	A地区 S255	口徑 24.0	3/12	外31.7, 内29.4 内右側 24.0, 左24.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
106 024-04		土器部 手形柄	A地区 S255	口徑 20.0	2/12	外31.7, 内29.4 内右側 20.0, 左20.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑 にぶい黄緑	透し六方窓
107 018-01		土器部 高杯	A地区 S255	口徑 17.8	3/12	外31.7, 内29.4 内右側 17.8, 左17.8, 壁部付		種	差	法標 底灰	外集灰有
108 025-02		土器部 高杯	A地区 S255	口徑 18.0	8/12	外31.7, 内29.4 内右側 18.0, 左18.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
109 029-01		土器部 高杯	A地区 S255	口徑 20.6	3/12	外31.7, 内29.4 内右側 20.6, 左20.6, 剥皮(貝貝)		種	差	にぶい黄緑 根	
110 025-02		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 50	2/12強	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 窓付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓1方向, 2段目2方向
111 032-02		土器部 手形柄	A地区 S255	基盤剖面 窓径 38	2/12強	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 窓付		種	差	法標	透し六方窓2方向(△ヶ所既) 2段目2方向
112 020-05		土器部 手形柄	A地区 S255	窓径 10.2	2/12	外31.7		種	差	灰白	透し六方窓
113 023-02		土器部 手形柄	A地区 S255	窓径 9.1	6/12	外31.7, 窓付 内29.4, 窓付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓
114 024-01		土器部 手形柄	A地区 S255	窓径 9.5	2/12強	基盤剖面 外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 窓付		種	差	にぶい黄緑 にぶい黄緑	外集灰有 透し六方窓
115 024-02		土器部 高杯	A地区 S255	窓径 7.4	3/12	外31.7, 内29.4 内右側 7.4, 左7.4, 壁部付		種	差	法標 底灰	透し六方窓
116 024-03		土器部 高杯	A地区 S255	窓径 9.6	2/12強	基盤剖面 外31.7, 内29.4 内右側 9.6, 左9.6, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓
117 032-03		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 32	2/12強	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 32.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓
118 025-01		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 41	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 41.0, 壁部付		種	差	灰白	透し六方窓1方向, 2段目3方向
119 031-02		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 36	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 36.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑 内赤色顔料 外保付	
120 032-04		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 49	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 49.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓1方向, 2段目3方向
121 032-01		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 44	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 44.0, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	透し六方窓4方向, 2段目3方向(△ヶ所既)
122 030-02		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 42	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 42.0, 壁部付		種	差	法標 底灰	にぶい黄緑
123 030-02		土器部 高杯	A地区 S255	窓径 15.4	2/12強	基盤剖面 外31.7, 壁部付		種	差	法標 底灰	外内剥落の為調整不明確
124 024-05		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 4.7	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 4.7, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
125 023-06		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 3.8	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 3.8, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
126 031-04		土器部 高杯	A地区 S255	基盤剖面 窓径 3.8	4/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 3.8, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
127 024-06		土器部 高杯	A地区 S255	窓径 11.3	6/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 11.3, 壁部付		種	差	法標	外剥離の為調整不明確
128 006-01		土器部 晋台	A地区 S255	窓径 12.7	3/12	外31.7, 基盤直線丈 内29.4, 基盤直線丈 内右側 12.7, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	穿孔3段, 6方向
129 025-06		土器部 晋台	A地区 S255	口徑 11.1	6/12	外31.7		種	差	にぶい黄緑	外内剥離の為調整不順 透し六方窓
130 027-02		土器部 晋台	A地区 S255	窓径 16.0	2/12強	内31.7, 壁部付		種	差	法標	外剥離の為調整不順
131 007-03		土器部 晋台	A地区 S255	窓径 3.0	2/12強	基盤剖面 外31.7, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	
132 007-03		土器部 晋台	A地区 S255	窓径 3.6	2/12強	基盤剖面 外31.7, 壁部付		種	差	にぶい黄緑	

第7表 出土遺物観察表③

報告番号	Rho	種類等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調型・技法などの特徴	出土	集成	色調	特記事項
133 007-04		土器器 皿	A地区	S238	口径 6.6 底高 1.3	4/12	外付リム、ハナ付 内付リム、ナリ	やや 直	赤黄灰 内褐色	外・底部黒有	
134 027-05		土器器 皿	A地区	S255	口径 5.6 底高 1.3	3/12	外付リム、横縫 内付リム、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	ニヒア
135 031-06		土器器 皿	A地区	S256	口径 6.0 底高 1.3	9/12	外付リム、ハナ付 内付リム、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	にふい様
136 015-04		土器器 皿	A地区	S257	口径 15.6 底高 1.3	3/12	内付リム、ナリ、内付 外付リム、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	にふい異様 にふい様
137 030-04		土器器 皿	A地区	S258	口径 16.8 底高 1.3	1/12	内付リム、ナリ、内付 外付リム、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	横縫、別赤様
138 067-01		土器器 皿	A地区	S259	口径 5.9 底高 1.3	2/12	底部完存 内付リム、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	外・内部底延の為調整不明 外縁付着
139 050-04		土器器 皿	A地区	S260	口径 13.0 底高 1.3	2/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	やや 直	赤灰 灰	赤灰	
140 019-05		土器器 皿	A地区	S261	口径 14.8 底高 1.3	1/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	やや 直	赤白 灰	赤白	
141 022-02		土器器 皿	A地区	S262	口径 7.4 底高 1.3	6/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	直	赤灰 灰	赤灰	
142 021-01		土器器 皿	A地区	S263	口径 7.0 底高 1.3	2/12	内付リム、ナリ 外周溝	直	赤 灰	赤	にふい異様 砂範充填
143 021-03		土器器 皿	A地区	S264	口径 5.0 底高 1.3	2/12	外付リム、ナリ 内周溝	やや 直	赤 灰	赤	にふい異様 台部内 黑変
144 023-01		土器器 皿	A地区	S265	口径 12.1 底高 1.3	4/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい異様
145 027-05		土器器 皿	A地区	S266	口径 11.0 底高 1.3	6/12	内付リム、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	外・内・側輪の為調整不正確 赤六角方
146 025-01		土器器 皿	A地区	S267	口径 12.7 底高 1.3	3/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	外・内・側輪の為調整不正確 赤六角方
147 032-01		土器器 皿	A地区	S268	口径 13.0 底高 3.0	2/12	内付リム、ナリ 内周溝	やや 直	赤 灰	赤	
148 031-03		土器器 皿	A地区	S269	口径 13.0 底高 3.0	2/12	内付リム、ナリ 内周溝	直	赤 灰	赤	外・側輪の為調整不正確
149 006-02		土器器 皿	A地区	S270	口径 20.6 底高 2.0	2/12	内付リム、ナリ 内付リム、ナリ	直	赤 灰	赤	
150 006-03		土器器 皿	A地区	S271	口径 7.9 底高 1.5	2/12	外付リム、底部系切 内付リム、ナリ	やや 直	赤白 灰	赤白	内・自然輪 墨み有、尾端第9型式
151 067-05		瓦器 瓦	A地区	S272	底高 15.5 底高 1.5	2/12	底部完存 内付リム、ナリ、内周溝、底部系切 内付リム、ナリ	直	赤 灰	赤	細瓦ローラー 墨地灰
152 047-04		土器器 皿	B地区	S273	口径 12.5 底高 2.3	2/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい異様 中北勢系
153 055-04		土器器 皿	B地区	S274	口径 12.0 底高 2.0	2/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	南伊勢系
154 052-02		土器器 皿	B地区	S275	口径 27.3 底高 2.0	1/12	外付リム貼付、ナリ、ナリ 内付リム、ナリ、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	中北勢系 穿孔17件、鉢脚部下煤付着
155 064-01		土器器 皿	B地区	S276	口径 9.8 底高 2.0	6/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様
156 004-02		土器器 皿	B地区	S277	口径 10.5 底高 2.1	6/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様
157 047-03		土器器 皿	B地区	S278	口径 9.4 底高 1.8	3/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	直	赤 灰	赤	赤黃檜 中北勢系
158 050-05		土器器 皿	B地区	S279	口径 10.0 底高 2.0	4/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい異様 中北勢系
159 047-02		土器器 皿	B地区	S280	口径 12.6 底高 2.1	3/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	中北勢系
160 047-01		土器器 皿	B地区	S281	口径 13.9 底高 2.0	4/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様 中北勢系
161 064-03		土器器 皿	B地区	S282	口径 12.4 底高 1.6	2/12	底部完存 外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	内・保村着 墨み大
162 004-04		土器器 皿	B地区	S283	口径 13.0 底高 2.0	4/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	表面剥離の為調整不正確
163 035-02		土器器 皿	B地区	S284	口径 31.3 底高 2.0	1/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	南伊勢系 外・側輪保村着
164 038-01		土器器 皿	B地区	S285	口径 32.7 底高 2.0	3/12	外付リム、ナリ 内付リム、ナリ	直	赤 灰	赤	にふい異様 南伊勢系 外・保村着
165 034-05		土器器 皿	B地区	S286	— —	—	外付リム貼付、ナリ、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	南伊勢系
166 034-02		土器器 皿	B地区	S287	口径 17.1 底高 2.0	2/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	赤灰 中北勢系 外・底部下煤付着、穴口形残
167 046-01		土器器 皿	B地区	S288	口径 23.1 底高 2.0	2/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様 中北勢系 外・底部下煤付着
168 046-02		土器器 皿	B地区	S289	口径 23.5 底高 2.0	2/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様 中北勢系 外・底部下煤付着
169 034-03		土器器 皿	B地区	S290	口径 19.9 底高 2.0	2/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	にふい様 中北勢系 外・底部下煤付着
170 045-01		土器器 皿	B地区	S291	口径 26.0 底高 2.0	4/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	直	赤 灰	赤	中北勢系 穿孔17件
171 049-03		土器器 皿	B地区	S292	口径 29.8 底高 2.0	2/12	外付リム、保村貼付、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	外・側輪下煤付着
172 051-02		陶器 瓶	B地区	S293	底高 6.8 底高 2.0	2/12	底部完存 外付リム、保村貼付、段付高台、ナリ 内付リム、ナリ	やや 直	赤 灰	赤	内・自然輪 墨張第5型式

第8表 出土遺物観察表④

番号	Rno.	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	既存値	現象・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
173	005-02	陶器 丸皿	B地区 e2	SD57 器高 2.3	口径 14.2	6/12	外の口付、内口付、削出高台 内付口付	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 淡青白	後縁、清都露胎 登窯第3小窯
174	045-03	陶器 丸皿	B地区 e2	SD57 器高 2.1	口径 12.6	2/12	外の口付、削出高台 内付口付	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 淡青白	後縁、清都露胎 登窯第3小窯
175	005-03	陶器 丸皿	B地区 e2	SD57 器高 2.5	口径 11.8	6/12	外の口付、内付口付、削出高台 内付口付	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 淡青白	後縁、清都露胎 登窯第3小窯
176	037-01	陶器 鉢	B地区 e2	SD57 器高 2.0	口径 8.5	底部 3/12	外の口付、内付口付、削出高台 内付口付	良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 淡青白	瓦ぐり裏台 内付燒板
177	047-01	陶器 天日茶碗	B地区 e2	SD57 器高 2.0	口径 12.4	2/12	外の口付、内付口付	やや 良	焼灰 素地灰白	灰褐色 淡青白	鋸切 大窯第4焼落前半
178	053-01	陶器 鉢	B地区 e2	SD57 器高 7.8	口径 26.0	1/12側	外の口付、三星貼付、子口 内付口付	やや 良	墨 にぶい穂	灰褐色 素地灰白	焼落済未焼 焼成度合口縁部保有者
179	047-01	陶器 鉢	B地区 e3	SD57 直径 4.7	直径 33.8g	—	—	良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 素地灰白	反縫、真跡多加工 登窯第3~4小窯
180	043-04	土器類 丸皿	B地区 e9	SD60 器高 2.0	口径 9.0	3/12	外オサナ、ナナ、ヨリナナ 内ナナ、ヨリナナ	やや 良	焼 淡青碧	灰褐色 素地灰白	南伊勢系
181	042-02	土器類 鍋	B地区 e9	SD60 器高 2.0	口径 26.0	1/12側	外オサナ、ハナキスリ、ヨリナナ 内ナナ、ナナ、ヨリナナ、ヨリナナ	やや 良	焼白 にぶい穂	灰褐色 素地灰白	南伊勢系 外付燒板
182	041-01	土器類 鉢	B地区 e9	SD60 器高 2.1	口径 23.8	2/12底	外ナバナ、保部貼付、ナナ、ヨリナナ 内ナナ、ヨリナナ	やや 良	淡黄 灰褐色	灰褐色 素地灰白	南伊勢系 外付燒板、内付燒板
183	044-07	陶器 輪軸	B地区 d7	SD60 底径 5.6	5/12	外の口付、底部点切、貼付高台 内付口付、スラブ	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2小窯	
184	045-05	陶器 反皿	B地区 e7	SD60 器高 3.3	口径 14.0	2/12側	外の口付、削出高台 内付口付	やや 良	焼淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第3~4小窯
185	002-02	陶器 反皿	B地区 e8	SD60 器高 2.1	口径 16.7	6/12	外の口付、ヨリナナ、削出高台 内付口付	やや 良	焼 淡黄灰	灰褐色 素地灰白	登窯第2小窯
186	044-03	陶器 天日茶碗	B地区 e8	SD60 器高 2.1	口径 12.0	2/12側	外の口付、ヨリナナ、削出高台 内付口付	やや 良	淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2小窯
187	044-02	陶器 天日茶碗	B地区 e7	SD60 器高 2.0	口径 11.6	2/12	外の口付、ヨリナナ、削出高台 内付口付	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2小窯
188	044-01	陶器 丸皿	B地区 e6	SD60 器高 2.1	口径 12.0	2/12	外の口付、ヨリナナ、削出高台 内付口付	やや 良	淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第3小窯
189	044-06	陶器 丸皿	B地区 e7	SD60 器高 2.4	口径 12.0	2/12底	外の口付、削出高台 内付口付	やや 良	焼灰白 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2小窯 内付燒板
190	045-04	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 8.5	9/12	外粘付高台、ナ 内付口付	良	淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2~3小窯	
191	037-06	陶器 丸皿	B地区 e7	SD60 底径 5.6	4/12	外の口付スリ 内付口付	やや 良	焼淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第2~3小窯	
192	002-01	陶器 小皿	B地区 e7	SD60 器高 3.1	口径 13.4	6/12	外の口付、削出高台 内付口付	良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	燒制系
193	037-05	陶器 天日茶碗	B地区 e7	SD60 器高 2.1	口径 11.2	1/12側	外の口付、ヨリナナ 内付口付	良	淡黄 素地灰白	灰褐色 素地灰白	新精度度便り 大窯第2段階
194	037-04	陶器 丸皿	B地区 e6	SD60 底径 10.3	ほほ元在 内付口付	—	外の口付スリ 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	鐵捲
195	049-01	陶器 鉢	B地区 d7	SD60 底径 7.0	口径 26.0	2/12側	外の口付 内付口付	良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	登窯第3~4小窯
196	042-05	陶器 小皿	B地区 e6	SD60 底径 4.6	兜形	2/12	外の口付 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	燒制系 内付燒板
197	049-02	陶器 鉢	B地区 e6	SD60 底径 10.6	4/12	外の口付 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	古戸戸脚當面IV古期 常滑窯	
198	046-05	陶器 刮刀	B地区 e6	SD60 底径 7.3	8/12	外の口付、ナナ 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	範範度便り 大窯第2小窯	
199	049-02	陶器 鉢	B地区 e6	SD60 底径 10.8	9/12	ナナ、ナナ 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	新精度	
200	054-04	陶器 鉢	B地区 e6	(底径 14.8)	2/12側	外の口付、ヨリナナ、貼付高台、ナ 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	尾張第7型式	
201	037-07	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 13.0	約 13.0	2/12側	外の口付、ヨリナナ、貼付高台、ナ 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	灰褐色 素地灰白	内自然和 尾張第6型式
202	048-03	陶器 鉢	B地区 e6	SD60 底径 17.4	3/12	ナナ、ナナ 内付口付	やや 良	赤橙 素地灰白	深灰色 外被熱、煤付着	常滑窯	
203	054-03	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 17.5	底部 3/12	外の口付、工具ナナ、ヨリナナ、底部未調整 内付口付、ナナ	やや 良	焼 素地灰白	にぶい穂 にぶい質感、持 灰	常滑窯 外底部多く付着	
204	054-02	陶器 鉢	B地区 d5 e6	SD60 底径 17.4	6/12	外の口付ナナ、底部未調整 内付口付	やや 良	焼 素地灰白	にぶい穂	常滑窯	
205	033-02	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 36.1	2/12	外の口付ナナ、ヨリナナ 内工具ナナ、ヨリナナ	やや 良	褐灰 素地灰白	内使用により消耗	内使用	
206	033-01	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 36.0	3/12	外の口付ナナ、ヨリナナ 内工具ナナ、ヨリナナ	やや 良	焼 素地灰白	にぶい穂	常滑窯 外付烧着	
207	054-01	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 35.6	4/12	外の口付ナナ、ヨリナナ 内工具ナナ	やや 良	焼 素地灰白	にぶい穂	常滑窯 内使用により剥離	
208	049-04	陶器 鉢	B地区 e6	SD60 底径 21.4	2/12	ナナ、足貼付、ヨリナナ 内ナナ	やや 良	褐灰 素地灰白	にぶい穂	常滑窯 外付烧着	
209	048-01	陶器 鉢	B地区 e5	SD60 底径 21.0	4/12	外工具ナナ、ヨリナナ、足貼付、ナナ 内工具ナナ、ヨリナナ、ヨリナナ	やや 良	焼 素地灰白	にぶい穂	常滑窯未焼 外底部多く付着	
210	048-06	陶器 鉢	B地区 e6	—	—	ナナ、ナナ 内ナナ、ナナ	良	褐 素地灰白	にぶい穂	常滑窯	
211	033-03	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 33.7	3/12	ナナ、ナナ 内ナナ、ナナ、ヨリナナ	やや 良	褐 素地灰白	にぶい穂	常滑窯	
212	055-01	陶器 鉢	B地区 e7	SD60 底径 32.8	2/12	外の口付、工具ナナ、底部未調整 内付口付	やや 良	褐 素地灰白	にぶい穂	常滑窯	

第9表 出土遺物觀察表⑤

報告番号	品種等	小地区	遺構名	柱間幅 (cm)	既存度	調査・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
213 047-08	陶器 加工内板	B地区	SD60	直径 3.8 重さ 20.1g	—	—	密	良	難及ぼ 難地、灰	高周波焼成加工
214 036-07	瓦 軒丸瓦	B地区	SD60	—	—	瓦出現、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰	
215 036-01	瓦 丸瓦	B地区	SD60	—	—	外・内ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白、灰	
217 053-06	土器器 皿	B地区	SK56	口径 14.0	2/12弱	外ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	にふい縁	中北勢系
218 004-08	大和 土製品	B地区	SK56	直径 3.8 長さ 5.5	遺構完存	ナフ、ナフ、日本刺突	やや 密	良	灰黄、灰	前足を欠く
219 056-01	土器器 皿	B地区	SK55	口径 23.1	1/12強	外・内糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	通黄壁	中北勢系 外・内糊貼付様、窓孔2ヶ所
220 034-01	土器器 皿	B地区	SK55	口径 22.2	2/12弱	外ナフ、糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	通黃壁	中北勢系 外・内糊貼付着、窓孔2ヶ所
221 052-03	土器器 皿	B地区	SK55	口径 26.6	1/12	外ナフ、ナフ、八咫糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	にふい縁	中北勢系 外・内糊貼付着
222 004-08	陶器 器皿	B地区	SK55	高台径 8.7	4/12	外・内ナフ、底部系切、貼付高台、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	自然粘付、糊 蓋第6型式
223 051-01	陶器 器皿	B地区	SK55	底径 7.4	高都完存	外・内ナフ、底部系切、貼付高台、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	内・自然粘 蓋第6型式
224 005-05	陶器 器皿丸瓦	B地区	SK55	口径 12.8	9/12弱	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	難及ぼ、黒 底地、灰	内・納鉢輪 合掌第3小頭
225 004-04	陶器 丸瓦	B地区	SK55	口径 10.9	高台径 4/12	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、糊貼付 糊入り	やや 密	良	難灰白、灰 底地、灰白	自然粘付、糊 蓋第2小頭
226 005-07	陶器 天目茶碗	B地区	SK55	口径 11.6	3/12	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、糊貼付 糊入り	やや 密	良	難及ぼ、黒 底地、灰白、灰 底地、灰白	自然粘付、糊 蓋第1～2小頭
227 005-06	陶器 天目茶碗	B地区	SK55	口径 11.4	高都完存	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、糊貼付 糊入り	相	良	難及ぼ、黒 底地、灰白	自然粘付、糊 蓋第4小頭
228 004-07	陶器 天目茶碗	B地区	SK55	口径 11.9	2/12弱	外・内ナフ、糊貼付 糊入り	やや 密	良	難及ぼ、黒 底地、灰白	自然粘付、糊 蓋第2小頭
229 005-01	陶器 器皿形香炉	B地区	SK55	口径 14.8	底部径 4/12	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、糊貼付 糊入り	やや 密	良	難及ぼ、黒 底地、灰白	底張、盒第2～3小頭 外・内・自然粘 蓋第6型式
230 050-01	陶器 器皿	B地区	SK55	口径 42.0	1/12強	外・内ナフ、糊貼付 糊入り	やや 密	良	灰赤	外・内・自然粘 蓋第6型式
231 052-02	陶器 器皿	B地区	SK55	—	—	外・内ナフ、三足貼付、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰 底地、灰白	常葉形赤地 外・底部焼付着
232 061-05	土器器 皿	B地区	SE68	口径 7.6	洋芋完存	外ナフ、糊入り 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内にふい縁	常葉形孔 蓋み大
233 001-04	土器器 皿	B地区	SE68	~9.0	完存	外ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内・灰白	正み大
234 001-05	土器器 皿	B地区	SE68	~9.6	6/12	外・内ナフ、糊入り 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内・灰白	正み大
235 001-02	土器器 皿	B地区	SE68	口径 9.4	完存	外・内ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内・灰白、灰	常葉形赤地 蓋み大
236 001-01	土器器 皿	B地区	SE68	口径 9.0	完存	外・内ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内・灰白	常葉形 蓋み大
237 001-03	土器器 皿	B地区	SE68	口径 12.2	完存	外・内ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	外・灰白 内・灰白	外・内糊付着 内・灰白 蓋み大
238 003-01	土器器 皿	B地区	SE68	口径 26.5	1/12	外・内糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	南伊勢系 外・内糊貼付着
239 002-04	陶器 器皿	B地区	SE68	—	—	外・内糊貼付 糊入り	やや 密	良	灰白	尾張第6～8型式 尾張第1大
240 003-02	陶器 器皿	B地区	SE68	口径 12.4	3/12	外・内ナフ、糊入り 糊入り	相	良	灰白	大知大AB～9型式並行
241 002-05	瓦土器 火鉢	B地区	SE68	—	—	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、底取り 糊入り	密	良	灰	
241 053-07	土器器 皿	B地区	SE68	口径 26.5	1/12	外・内糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	南伊勢系
242 002-03	土器器 皿	B地区	SE68	口径 11.4	2/12強	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	通黃壁	内・口部煤付着
243 045-02	土器器 皿	B地区	SZ58	口径 24.4	3/12	外・内ナフ、糊貼付、ナフ、ナフ 糊入り	相	良	にふい縁	南伊勢系 外・煤付着
244 044-08	陶器 器皿	B地区	SZ58	—	—	外・内ナフ、底部系切、貼付高台、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	近似■ 尾張第6型式
245 050-02	陶器 器皿	B地区	SZ58	—	—	外・内ナフ、糊入り 糊入り	やや 密	良	難灰赤 底地にふい縁	鉢輪 蓋み大
246 044-09	陶器器 皿	B地区	Pt7	断面直径 2.6cm 厚さ 4/12	断面直径 2.6cm 厚さ 4/12	外・内糊貼付、ナフ、糊入り 糊入り	やや 密	良	灰白、暗灰	
247 043-05	土器器 皿	B地区	Pt9	口径 8.3	3/12	外・内ナフ、ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	中北勢系
248 043-06	土器器 皿	B地区	Pt12	口径 8.1	3/12	外・内ナフ、ナフ 糊入り	やや 密	良	灰白	
249 037-02	土器器 皿	B地区	Pt6	口径 8.8	2/12	外・内ナフ 糊入り	相	良	灰白	中北勢系

第10表 出土遺物観察表⑥

報告番号	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
270 043-07	土器器皿	B地区 d3	Pt18	4/12	外:オサヌ.ナフ 内:ナフ	やや 墨	灰白	中北勢系		
271 043-02	土器器皿	B地区 d2	Pt15	口径 9.4 高さ 2.9	法(法)窓付 外:オサヌ.ナフ 内:ナフ	やや 墨	灰白, 灰 墨			
272 037-03	土器器皿	B地区 d3	Pt3	口径 10.4 高さ 1.9	2/12窓 外:オサヌ.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰白	中北勢系		
273 042-03	土器器皿	B地区 d3	Pt2	—	外:オサヌ.四面貼付.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰 墨	中北勢系 外:鉢部下焼付有		
274 042-04	土器器皿	B地区 d3	Pt12	—	外:四面貼付.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰 墨	中北勢系 外:鉢部下焼付有		
275 043-01	土器器皿	B地区 d7	Sd60	口径 16.4 高さ 4.7	外:オサヌ.ナフ.3.ナフ.3.ナフ 内:ナフ.3.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰白	外:内:溝渠の為調整不規則		
276 050-01	土器器皿	B地区 d2	Sd57	口径 18.0 高さ 3.2	外:オサヌ.3.ナフ 内:オサヌ.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰 墨	法(法)窓		
277 004-05	陶土工具	B地区 b2	Sd57	底径 9.8 高さ 2.2	外:輪郭直線4本×2段.剥突.3.ナフ.麻孔 内:ナフ.3.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰 墨	にぶい黄 にぶい黄褐	算孔4箇所残存 外:内:未彩	
278 047-05	直筒骨舟	B地区 c3	Sd57	—	外:オサヌ.四面貼付.ナフ.3.ナフ	墨	灰			
279 035-02	土器器皿	B地区 b2	包含層	口径 28.6 高さ 2.2	外:オサヌ.3.ナフ 内:オサヌ.3.ナフ	やや 墨	にぶい黄 にぶい黄褐	南伊勢系 外:鉢部下焼付有		
280 035-04	土器器皿	B地区 b2	包含層	口径 34.0 高さ 1.2	外:オサヌ.3.ナフ	やや 墨	にぶい黄 墨	南伊勢系 外:焼付有		
281 053-02	土器器皿	B地区 b2	包含層	口径 26.4 高さ 1.2	外:オサヌ.四面貼付.ナフ.3.ナフ	やや 墨	灰白	南伊勢系 外:鉢部下焼付有		
282 034-04	土器器皿	B地区 b2	包含層	口径 23.8 高さ 2.2	外:オサヌ.四面貼付.ナフ.3.ナフ 内:オサヌ.3.ナフ	やや 墨	灰白	中北勢系 外:鉢部下焼付有		
283 052-04	土器器皿	B地区 c2	包含層	口径 27.8 高さ 1.2	外:オサヌ.四面貼付.ナフ.3.ナフ 内:オサヌ.3.ナフ	やや 墨	灰褐 にぶい黄褐	中北勢系 鉢部のみ大		
284 051-06	西暦	B地区 b2	包含層	口径 8.6 高さ 1.9	外:オサヌ.直部系切 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第5型		
285 051-03	陶器破片	B地区 b2	包含層	底径 5.7 高さ 1.2	外:オサヌ.底部系切.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白, 灰 墨	尾張第6型式.縦用版か 内:付有		
286 051-05	陶器破片	B地区 b2	包含層	底径 7.2 高さ 1.2	外:オサヌ.底部系切 内:オサヌ.ナフ	やや 墨	灰白	尾張第7型式 直部系切		
287 044-04	西暦	B地区 b2	包含層	口径 11.0 高さ 2.1	外:オサヌ.削出高台 内:オサヌ	やや 墨	輪・灰白 東北灰白	灰施.志野.尊奈第2小期 外:内:燒痕		
288 051-04	陶器破片	B地区 b2	包含層	底径 16.0 高さ 2.2	外:オサヌ.入乳.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第5型式		
289 050-03	陶器破片	B地区 b2	包含層	—	外:オサヌ 内:オサヌ.器目	やや 墨	灰白, 灰 墨	尾張第6型		
290 070-02	土器器皿	C地区 a5	Sd74	口径 11.8 高さ 2.6	外:オサヌ.削突(貝取) 内:ナフ.3.ナフ.ハケ	やや 墨	墨	削突の為調整不規則		
292 064-07	特殊土器	C地区 a5	Sd74	底径 8.0 高さ 1.2	—	墨	墨	算滅の為調整不規則		
293 064-05	土器器皿	C地区 a5	縫合部直 底存	—	外:縫合	墨	墨	算滅の為調整不規則		
294 081-04	土器器皿	C地区 a1	Sd107	底径 4.0 高さ 1.2	外:オサヌ.ナフ 内:ナフ	やや 墨	墨	表面風化模様不規則		
295 082-05	土器器皿	C地区 b1	Sd107	—	外:オサヌ.直部系切 内:オサヌ	やや 墨	墨	にぶい黄褐		
296 064-02	土器器皿	C地区 a1	Sd110	口径 11.4 高さ 2.2	外:オサヌ.ナフ.3.ナフ 内:オサヌ.ナフ	やや 墨	墨	灰白		
297 074-02	西暦	C地区 b6	Sd88	底径 7.1 高さ 1.2	外:オサヌ.削出高台 内:オサヌ	墨	墨	輪・灰白 東北灰白	灰施.金葉第2~3小期 外:直部系切	
298 075-01	陶器破片	C地区 b6	Sd88	口径 49.1 高さ 1.2	外:オサヌ	やや 墨	墨	灰白	SK113と接合	
299 085-06	陶器破片	C地区 b11	Sd92	口径 10.4 高さ 2.2	外:オサヌ.切口ス.削出高台 内:オサヌ	やや 墨	墨	鐵錆		
300 085-04	陶器破片	C地区 a9	Sd95	口径 11.4 高さ 2.2	外:オサヌ.切口ス.削出高台 内:オサヌ	やや 墨	墨	鐵錆.灰白	大庭家第3段焼前半	
301 083-03	陶器破片	C地区 a9	Sd93	口径 11.1 高さ 2.1	外:オサヌ.切口ス.削出高台 内:オサヌ	やや 墨	墨	鐵錆.灰白	金葉第1~2小期	
302 084-03	土器器皿	C地区 b6	Sd88	口径 27.0 高さ 1.2	外:オサヌ.ナフ.3.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	墨	鐵錆.灰白	灰施.志野.鐵錆で鉢を描く 金葉第1~2小期	
303 083-05	陶器破片	C地区 b6	Sd88	底径 3.8 高さ 1.2	外:オサヌ.直部系切 内:オサヌ.ナフ	やや 墨	墨	算滅の為調整不規則		
304 083-06	陶器破片	C地区 b6	Sd88	底径 7.6 高さ 1.2	外:オサヌ.直部系切.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第6型式		
305 083-08	陶器破片	C地区 b6	Sd88	底径 8.2 高さ 1.2	外:オサヌ.直部系切.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第6型式 粘用版		
306 085-05	陶器破片	C地区 b6	Sd88	口径 14.0 高さ 1.2	外:オサヌ.切口ス.削出高台 内:オサヌ	やや 墨	粘.灰白.黒褐 墨地灰白	灰施.鉢部で鉢を描く 算滅第1~2小期		
307 083-05	陶器破片	C地区 c6	Sd88	口径 11.0 高さ 1.2	外:オサヌ 内:オサヌ	やや 墨	粘.黄褐.黒褐 墨地灰白	算滅第1~2小期		
308 084-01	陶器破片	C地区 c6	Sd88	底径 14.0 高さ 1.2	外:オサヌ 内:オサヌ	墨	灰白	算滅第3~5~6~小湖		
309 067-01	陶器破片	C地区 b6	Sd88	口径 25.1 高さ 6.2	外:オサヌ.三足點(1.7.9.3.ナフ) 内:オサヌ.3.ナフ	やや 墨	墨	にぶい墨	灰施.鉢部で鉢を描く 算滅第1~2~小期	
310 063-07	陶器破片	C地区 a4	Sd75	底径 6.3 高さ 1.2	外:直部系切.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第6型式 外:直部系切		
311 065-02	陶器破片	C地区 a4	Sd75	底径 8.3 高さ 1.2	外:オサヌ.直部系切.貼付臺面.ナフ 内:オサヌ	やや 墨	灰白	尾張第6型式		

第11表 出土遺物観察表⑦

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺品名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	出土 地	地城	色調	特記事項
312	063-09	青磁 盤	C地区 SD70	直径 4.4	9/12	外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	黒	良	細肩付-ア 高地灰白		
313	063-07	青磁 丸皿	C地区 SD76	口径 11.6	2/12弱	外:0.05+, 内:0.05+	黒	良	細肩白 高地灰白	淡粉、志野 盤裏第1~2小頭	
314	063-03	青磁 盤	C地区 SD76	直径 7.1	4/12	外:0.05+, 内:0.05+ 外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	黒	良	灰白 灰白	大尾第2~3段期	
315	063-04	青磁 盤	C地区 SD76	口径 12.3	2/12弱	外:0.05+, 内:0.05+	やや 良	褐灰、褐、灰褐色			
316	082-02	青磁 碗	C地区 SD76	直徑 5.8	ほぼ完存	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+	やや 良	灰白		複数第7型式	
317	085-02	陶器 内瓦盆	C地区 SD78	口径 8.9 高さ 2.3	2/12弱	外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	黒	良	粗肩付-ア 高地灰白	浅灰、大尾第3段階後半 外:底部削出痕 内:累込丸鉢底	
318	080-02	陶器 盤	C地区 SD78	直徑 12.4	6/12	外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	褐	良	粗足黄 高地灰白	黄泥灰 急窓第3~4小期	
319	085-01	陶器 豆又蓋碗	C地区 SD78	口径 10.7	2/12弱	外:0.05+, 口吻アヌ 内:0.05+	黒	良	粗肩灰 高地灰白	淡灰、粒粘、光灰塗 登窓第2小頭	
320	080-01	陶器 豆	C地区 SD78	口径 9.0	2/12弱	外:0.05+, 内:0.05+, ナロウ	褐	良	にふい赤褐色	口縁部有り難難	
321	050-02	陶器 盤	C地区 SD78	口径 17.2	2/12弱	外:0.05+, 三足粘付、ナ 内:0.05+	やや 良	褐、深灰 にふい黄褐色		深灰度赤燒	
322	058-01	陶器 盤	C地区 SD78	口径 23.6 高さ 6.8	底部付/6 内:0.05+	外:0.05+, 貼付高台、ナ 内:0.05+	やや 良	褐 堆	堆 にふい黄褐色	深灰度赤燒	
323	064-04	陶器 盞	C地区 SD75	直徑 9.0	3/12	外:0.5+, 内:0.5+	やや 良	にふい黄 にふい橙		赤燒	
324	085-04	四器 碗	C地区 SD114	口径 13.2	1/12弱	外:0.05+, 内:0.05+	黒	良	堆 にふい黄 高地灰白	天祐 匣座	
325	061-05	土師器 壺	C地区 SK111 b3	直徑 4.4	底部完存	外:0.05+, 底部未焼成 内:平滑	褐	良		内:鉢底の為調査不明	
326	062-05	土師器 皿	C地区 SK115 a3	口径 9.4	4/12	外:0.5+, 3.3寸+ 内:0.5+, 3.3寸+	やや 良	にふい壇		中北勢系	
327	064-04	土師器 皿	C地区 SK115 a3	口径 10.0	2/12弱	外:0.5+, 3.3寸+ 内:0.5+, 3.3寸+	黒	良	灰白	東伊勢系	
328	050-06	四器 碗	C地区 SK115	直徑 6.8	8/12	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+	黒	良	灰白	夷美第5型式	
329	065-03	陶器 碗	C地区 SK115 a2	直徑 7.0	4/12	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, 7.7	やや 良	灰白		尾張第6型式	
330	065-02	陶器 碗	C地区 SK115 a3	直徑 6.9	底部完存	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+	やや 良	灰白		尾張第6型式	
331	060-05	陶器 碗	C地区 SK115 a3	直徑 5.2	4/12	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+	やや 良	灰白		尾張第6型式	
332	083-07	陶器 盤	C地区 SK91 c6	直徑 7.2	4/12	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, 7.7	やや 良	灰白		夷美第6型式	
333	066-05	陶器 盤	C地区 SK70 a1	直徑 8.2 高さ 2.0	完存	外:0.05+, 底部系切 内:0.05+	やや 良	灰白		口縁部自然輪 差異? 第6型式	
334	067-03	白磁 碗	C地区 SK70 a1	—	—	0.05+	黒	良	絵反白 高地灰白		
335	068-03	土師器 皿	C地区 SK109 a2	口径 8.9 高さ 1.5	6/12	外:0.05+, 底部系切 内:0.05+	やや 良	灰白		070土師器	
336	083-01	陶器 皿	C地区 SK109 a3	口径 8.2 高さ 1.5	4/12	外:0.05+, 底部系切 内:0.05+, ナ	やや 良	灰白			
337	058-02	土師器 便	C地区 SK109	口径 23.2	1/12弱	外:0.5+, 3.3寸+ 内:0.5+, 3.3寸+	やや 良	絵反白 高地灰白			
338	071-01	陶器 便	C地区 SK113 b6	—	—	0.05+	やや 良	絵反白 高地灰白			
339	074-07	土師器 便	C地区 SK72 a5	—	—	外:0.5+, 内:0.5+	やや 良	絵反白 高地灰白			
340	087-02	四器 皿	C地区 SK72	口径 7.8 高さ 2.0	4/12	外:0.05+, 底部系切 内:0.05+	やや 良	灰白		尾張第6型式	
341	066-06	陶器 盤	C地区 SK72	直徑 11.8	1/12弱	外:0.05+, 0.05入 内:0.05+	やや 良	絵反白 高地灰白		鉢脚 盒蓋第5型式	
342	059-01	土師器 皿	C地区 SK72	直徑 4.7	6/12	外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	黒	良	絵反白 高地灰白	鉢脚 盒蓋第5型式	
343	059-04	陶器 皿	C地区 SK106 a4	口径 12.2	1/12弱	外:0.05+, 削出高台 内:0.05+	やや 良	絵反白 高地灰白		鉢脚 盒蓋第5型式	
344	085-01	陶器 皿	C地区 SK106 a4	口径 12.0 高さ 3.9	1/12弱	外:0.05+, 玄土付 内:0.05+, 3.3寸+ナ	黒	良	絵反白 高地灰白	登窓第2小頭	
345	064-05	陶器 皿	C地区 SK88	口径 23.6 高さ 7.3	1/12弱	外:0.05+, 工具付/1 内:0.05+, 3.3寸+ナ	黒	良	絵反白 高地灰白	常滑度赤燒 青瓷、接	
346	074-01	陶器 皿	C地区 SK84 a2 No.1	直徑 18.8 高さ 5.7	完存	外:0.05+, 底部水切、貼付高台、ナ 内:0.05+	やや 良	絵反白 高地灰白		内:自然輪 差異第6型式	
347	066-02	陶器 皿	C地区 SK73 a4 No.2	直徑 14.3	底部完存	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, ナ	やや 良	灰白、灰		尾張第6型式 内:保付	
348	066-04	陶器 皿	C地区 SK73 a4 No.3	直徑 7.4	底部完存	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, ナ	やや 良	絵反白 高地灰白		淡青第6型式 内:使用により磨耗	
349	066-03	陶器 皿	C地区 SK73 a4 No.4	直徑 7.5	底部完存	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, ナ	やや 良	絵反白 高地灰白		淡青第6型式	
350	066-01	陶器 皿	C地区 SK73 a4 No.1	直徑 19.7	4/12	外:0.05+, 底部系切、貼付高台、ナ 内:0.05+, ナ	やや 良	絵反白 高地灰白		尾張第6型式	
351	064-01	土師器 皿	C地区 SE71 b4	口径 9.4	3/12	外:0.5+, 3.3寸+ 内:0.5+, 3.3寸+	黒	良	にふい黄褐色 灰白場	中北勢系	

第12表 出土遺物観察表⑧

組合 番号	Reo.	器種等	小地 区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調査・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
352	063-02	陶器 皿	C地区 SE71	口径 8.8 底高 0.4	2: 12.48	外: 2.07±1.5 内: 0.20±1.7	外: 2.07±1.5, 番断面切 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	濃美第5型式	
353	063-06	陶器 皿	G地区 SE71	口径 7.8 底高 2.1	3: 12	外: 2.07±1.5, 番断面切 内: 0.20±1.7	外: 2.07±1.5, 番断面切 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	濃美第5型式 外: 流部墨書き	
354	065-01	陶器 盤	G地区 SE71	口径 16.7 底高 5.6	2: 12	外: 2.07±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 2.07±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	内: 陶州に少く見 外: 保付着, 菊第6型式	
355	063-04	陶器 碗	G地区 SE71	口径 15.8 底高 5.7	2: 12	外: 2.07±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 2.07±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	濃美第5型式	
356	058-03	陶器 碗	G地区 SE71	底径 7.0 底高 4.4	9: 12	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	濃美第5型式 外: 流部墨書き	
357	058-04	陶器 碗	G地区 SE71	底径 7.4 底高 4.4	2: 12	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	濃美第5型式 外: 流部墨書き	
358	057-02	陶器 碗	G地区 SE71	底径 7.8 底高 4.4	6: 12	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	菊第6型式	
359	057-04	陶器 碗	G地区 SE71	底径 6.6 底高 4.4	2: 12.48	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	用第6型式 軽用被か	
360	065-04	陶器 碗	C地区 SE71	底径 7.4 底高 4.4	3: 12	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 番断面切, 粘付高台, ハ 内: 0.20±1.7	やや 良	灰白	尾張第6型式 外: 自然離, 保付着 内: 重燒痕	
361	059-02	青磁 皿	C地区 SE71	底径 6.0 底高 4.4	1: 12	外: 0.20±1.5, 割出高台 内: 0.20±1.7	外: 0.20±1.5, 割出高台 内: 0.20±1.7	良	灰 灰灰白 灰灰白	内面のみ斑跡	
375	064-08	土器製 羽皿	C地区 a10	—	—	—	—	粗	良	—	—
376	075-05	土器製 蓋	G地区 SD117	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文, ハコナ 内: 0.19±0.1, 稲垣	やや 良	粗, 淡黄			
377	074-03	土器製 蓋	C地区 SD118	下層	—	—	外: 0.19±0.1, 半艶竹管模様, ハコナ, 刺突(貝殻) 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗		
378	074-05	土器製 蓋	C地区 SD118	基部	—	—	外: 0.19±0.1, 半艶竹管模様, ハコナ, 刺突(貝殻) 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	淡黄	透し穴方向	
379	074-04	土器製 蓋	C地区 SD116	口径 4.6 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 半艶竹管模様, ハコナ, 刺突(貝殻) 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	淡黄	外: 流部有 内: ハコナ	
380	073-03	土器製 蓋	C地区 SD120	底径 6.4 下層	—	—	外: 0.19±0.1, ハコナ, ハコナ	やや 良	粗	粗, 淡黄	外: 保付有
381	071-01	土器製 高杯	C地区 SD120	底径 5.0 下層	2: 12	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗, 淡黄	—	—	
382	075-04	土器製 高杯	G地区 SD165	口径 15.0 下層	2: 12	—	—	粗	良	にふい種	
383	076-02	土器製 高杯	G地区 SD165	上層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗, 淡黄		
384	076-03	土器製 高杯	C地区 SD165	上層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種, 淡黄	透し穴方向
385	072-02	土器製 高杯	G地区 SD119	口径 15.3 下層	3: 12	外: 0.19±0.1, 刺突(貝殻) 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	—	—	
386	072-04	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 16.1 下層	2: 12	外: 0.19±0.1, 刺突(貝殻) 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種		
387	071-01	土器製 高杯	G地区 SD119	口径 16.2 下層	—	—	外: 0.19±0.1, ハコナ, 稲垣 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種, 内剥離の為調査不明	
388	072-04	土器製 高杯	G地区 SD119	口径 14.0 下層	2/ 12	外: 0.19±0.1, 13.19±1.31ナ, 特状紋文, 竹管文 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種		
389	072-05	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 15.3 下層	—	—	外: 0.19±0.1, ハコナ, 稲垣 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種	
390	072-03	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 15.3 下層	—	—	外: 0.19±0.1, ハコナ, 稲垣 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種	
391	071-05	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 5.0 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種	
392	071-04	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 6.3 下層	4: 12	外: 0.19±0.1, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種		
393	071-04	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 6.4 下層	4: 12	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種		
394	073-05	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 7.0 下層	3: 12	外: 0.19±0.1, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種		
395	071-02	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 5.8 下層	6: 12	外: 0.19±0.1, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種		
396	073-03	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 6.6 下層	3: 12	外: 0.19±0.1, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	にふい種		
397	072-01	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 15.3 下層	2/ 12	外: 0.19±0.1, ハコナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	淡黄	外: 保付着	
398	075-07	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 20.0 下層	1/ 12	外: 0.19±0.1, 13.19±1.31ナ 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	にふい種, 淡黄		
399	072-06	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 15.3 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	—	—
400	076-04	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 15.3 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	淡黄	外: 黑斑有
401	071-01	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 13.0 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	透し穴3万向	
402	071-06	土器製 高杯	C地区 SD119	底径 13.0 下層	—	—	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	—	—
403	073-03	土器製 高杯	C地区 SD119	口径 13.0 下層	4: 12	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	やや 良	粗	菊第7型式		
404	061-01	土器製 高杯	C地区 Pic7	口径 9.8 下層	2: 12	外: 0.19±0.1, 稲垣直線文 内: 0.19±0.1, ハコナ	粗	良	—	—	

第13表 出土遺物観察表⑨

報告番号	Reso	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
405 062-02		土師器 甕	C地区 a2	口径 14.8 底面	2/12底 内:32.7	外:32.7, 33.7, 刻葉 内:32.7, 33.7		やや 粗	黒	にふい質地	
406 061-04		土師器 甕	C地区 a4	直径 7.5	透削 6/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		やや 粗	黒		
407 062-04		土師器 甕	C地区 a2	口径 5.5 底面	3/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		粗	黒	中北熱系	
408 062-03		土師器 甕	C地区 a3	口径 5.5 底面	—	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		粗	黒		
409 061-02		土師器 甕	C地区 a1	口径 6.0 底面	2/12	外:32.7, 33.7, 刻葉系切 内:32.7		やや 良	灰白	内:自然焼 尾張第6型式	
410 060-02		土師器 甕	C地区 a1	直径 7.3	透削充甕	外:32.7, 33.7, 刻葉系切, 貼付高台, 7.3 内:32.7		やや 良	灰白	尾張第6型式	
411 061-07		土師器 甕	C地区 c3	直径 7.5 底面	3/12	外:32.7, 33.7, 刻葉系切, 貼付高台, 7.5 内:32.7		やや 良	灰白	内:自然焼 尾張第6型式	
412 060-04		土師器 甕	C地区 a9	口径 14.4 底面	2/12底	外:32.7, 33.7, 刻葉系切 内:32.7		やや 良	灰白	尾張第6型式	
413 060-01		土師器 甕	C地区 a5	口径 16.6 底面	—	透削充甕	外:32.7, 33.7, 刻葉系切, 貼付高台, 7.6 内:32.7	良	灰白	ab-Fu-3接合 尾張第6型式	
414 060-03		土師器 甕	C地区 b3	口径 14.3 底面	2/12底	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7		やや 良	灰白	内:自然焼 尾張第6型式	
415 061-03		土師器 甕	C地区 b2	口径 14.8 底面	1/12	外:32.7, 33.7 内:32.7		粗	黒	地にふい質 地に灰白	
416 064-04		土師器 甕	C地区 c2	—	—	外:32.7, 刻葉 内:32.7		粗	灰白		
417 067-05		土師器 甕	C地区 SK70	口径 16.0 底面	2/12底	外:32.7, 33.7, 刻葉 内:32.7, 33.7		やや 粗	灰白		
418 066-06		土師器 甕	C地区 a1	直径 20.9 底面	1/12底	外:32.7, 刻葉 内:32.7		やや 良	灰白	外:口縁部焼付 灰白場	
419 070-01		土師器 甕	C地区 a2	口径 13.8 底面	—	透削充甕	外:32.7, 33.7, 34.7, 刻葉 内:32.7, 33.7	やや 良	灰白	灰白場 浅黄地	
420 079-07		土師器 甕	C地区 a2	口径 16.0 底面	1/12底	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7, 工具ナリ		やや 良	灰白	にふい質	
421 082-02		土師器 甕	C地区 a5	口径 13.6 底面	2/12底	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰白	にふい質	
422 067-07		土師器 甕	C地区 SK109	口径 9.5 底面	1/12	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰白	にふい質	
423 079-05		土師器 甕	C地区 b2	口径 3.6 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7	やや 良	灰白	灰白場 外:灰白	
424 081-07		土師器 甕	C地区 c2	口径 3.5 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7, 工具ナリ	良	灰白	浅黄地	外:灰白
425 084-03		土師器 甕	C地区 SD110	底径 6.8 底面	3/12	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7		粗	黒	梯, 反黄褐, 灰	内:炭化物付着
426 084-02		土師器 甕	C地区 SK109	底径 4.7 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7	やや 良	灰白		
427 069-04		土師器 甕	C地区 a2	底径 5.3 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7	粗	灰白	浅黄地	
428 061-01		土師器 甕	C地区 a1	底径 5.6 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7	やや 良	灰	にふい質 灰	外:底部灰斑有
429 065-02		土師器 甕	C地区 a1	底径 4.5 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7	やや 良	灰	にふい質	外:底部灰斑有
430 059-02		土師器 甕	C地区 a2	底径 7.3 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7 内:32.7	粗	生	にふい質	内:底部灰化物付着
431 081-05		土師器 甕	C地区 a3	底径 4.2 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7	良	灰	梯	にふい質
432 056-03		土師器 甕	C地区 a10	—	—	外:32.7 内:32.7		粗	黒	明赤燒	
433 065-06		土師器 甕	C地区 b1	—	—	透削充甕	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7	やや 良	灰	浅黄地	
434 069-04		土師器 甕	C地区 a1	底径 5.0 底面	4/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰	にふい質	
435 069-03		土師器 甕	C地区 a2	底径 5.6 底面	4/12	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰	梯, にふい質	透し穴2段2ヶ所残
436 065-06		土師器 甕	C地区 a1	底径 5.6 底面	4/12	外:32.7, 33.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰	黄灰	
437 069-07		土師器 甕	C地区 b2	底径 5.6 底面	—	底部充甕	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7	やや 良	灰	浅黄地, 暗灰	透し穴方向
438 068-05		土師器 甕	C地区 a6	底径 4.0 底面	6/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰	梯, にふい質	透し穴1ヶ所残
439 031-06		土師器 甕	C地区 b1	底径 5.6 底面	7/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7		やや 良	灰	梯, 黄褐	外:刻記 透し3ヶ方向
440 068-05		土師器 甕	C地区 a1	底径 5.6 底面	10/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7, 34.7		やや 良	灰	にふい質, 灰	透し3ヶ方向
441 056-04		土師器 甕	C地区 a2	底径 5.6 底面	10/12	外:32.7, 33.7, 34.7 内:32.7, 33.7, 34.7		やや 良	灰	梯, 浅黄地	3万透し
442 057-05		土師器 甕	C地区 a1	—	—	外:32.7, 33.7 内:32.7		やや 良	灰白	長脚2段透, 2方向	
443 056-05		土師器 甕	C地区 a4	底径 5.9 底面	2/12	外:32.7, 33.7, 刻葉系切 内:32.7		やや 良	黒	にふい質	070土師器
444 079-02		土師器 甕	C地区 a4	底径 5.2 底面	10/12	外:32.7, 33.7, 刻葉系切 内:32.7		やや 良	黒	にふい質	070土師器
445 079-04		土師器 甕	C地区 a4	底径 5.1 底面	2/12	外:32.7, 33.7, 刻葉系切 内:32.7		やや 良	黒	にふい質	070土師器

第14表 出土遺物観察表10

報告番号	品種名	性状等	地区	植株名	計画標高	我的度	調整・抜きなどの特徴	出土	促成	色調	特記事項	
											内寸	外寸
448-056-00	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 9.0	4.12	外寸9.0, 内寸9.0, 高部尖削	やや 青	青	に赤い緑	加工土器類	
		a4			高さ 1.9		内寸9.0, ハリ					
447-078-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 9.2	4.12	外寸9.0, 高部尖削	やや 青	青	に赤い緑	加工土器類	
		a4			高さ 1.8		内寸9.0, ハリ					
448-081-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 12.7	11.12弱	外寸12.8, 内寸12.7, 高さ 2.1	やや 青	青	浅黄緑		
		a5			高さ 2.1		内寸12.7, ハリ					
449-082-01	土師器皿	小	C地区	包含層	口径 22.0	2.12弱	外寸17.5, 横幅貼付, 内寸17.5, 高さ 3.0	やや 青	青	に赤い緑	中古式系	
		a3			高さ 3.0		内寸17.5, ハリ					
450-078-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.7	2.12弱	外寸6.7, 高部尖削	やや 青	白	内・自然緑		
		a3			高さ 1.7		内寸6.7, ハリ					
451-077-01	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 16.1	5.12	外寸16.1, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	深緑葉の型式, 内・自然緑	尾張第7~8型式	
		a5			高さ 5.5		内寸16.1, ハリ					
452-077-02	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 15.0	15.0弱	底部突出, 外寸15.0, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	青	灰黄, 黄灰	尾張第6型式	
		a5			高さ 3.4		内寸15.0, ハリ					
453-081-02	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 7.7		底部突出, 外寸7.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	灰	灰白, 灰黒	深美葉の型式	
		a3			高さ 1.8		内寸7.7, ハリ					
454-078-02	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.8	6.12	外寸6.8, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	内・自然緑	尾張第6型式	
		a2			高さ 1.8		内寸6.8, ハリ					
455-081-01	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 7.4		底部突出, 外寸7.4, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	内・自然緑	尾張第5~6型式	
		a3			高さ 1.8		内寸7.4, ハリ					
456-077-04	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.9	9.12	外寸6.9, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	尾張第5型式		
		a2			高さ 1.8		内寸6.9, ハリ					
457-078-01	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.1	3.12	外寸6.1, 通幅狭所, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰黒	深美葉の型式	
		a5			高さ 1.8		内寸6.1, ハリ					
458-077-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 7.0		底部突出, 外寸7.0, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰白	尾張第5型式	
					高さ 1.8		内寸7.0, ハリ					
459-077-07	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 8.0	4.12	外寸8.0, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	尾張第5型式	尾張第6~7型式	
		b2			高さ 2.1		内寸8.0, ハリ					
460-077-05	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.7	3.12	外寸6.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰黒	尾張第6型式	
		c2			高さ 2.0		内寸6.7, ハリ					
461-057-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 6.2		底部突出, 外寸6.2, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰白	尾張第6型式	
		a5			高さ 1.8		内寸6.2, ハリ					
462-077-06	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 7.8	4.12	外寸7.8, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰黒	尾張第6型式	
		b2			高さ 2.1		内寸7.8, ハリ					
463-070-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 14.9	3.12	外寸14.9, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰白	尾張第6~7型式	
		b3			高さ 5.1		内寸14.9, ハリ					
465-057-01	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 13.0	3.12	外寸13.0, 2.4, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰白	尾張第6~6型式	
		c5			高さ 4.0		内寸13.0, ハリ					
466-073-01	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 26.1		底部突出, 外寸26.1, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	灰白	内・口唇部有自然縫	
		a1			高さ 12.2		内寸26.1, ハリ					
467-082-03	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 8.0	4.12	外寸8.0, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	尾張第6~7型式	
		b4			高さ 2.1		内寸8.0, ハリ					
468-059-05	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 13.5	1.12弱	外寸13.5, 2.4, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	尾張第6~6型式	
		a5			高さ 3.0		内寸13.5, ハリ					
469-074-04	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 25.0	1.12弱	外寸25.0, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	尾張第2~3中期	
		c4			高さ 12.0		内寸25.0, ハリ					
470-078-06	青磁花瓶	中	C地区	包含層	口径 5.6	6.12	外寸5.6, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	尾張付付, 高部露胎	
		b1			高さ 5.1		内寸5.6, ハリ					
471-059-03	破損花枝	中	C地区	包含層	口径 9.4	2.12弱	外寸9.4, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	江戸中~後期	
		b7			高さ 5.2		内寸9.4, ハリ					
472-078-05	白磁花枝	中	C地区	包含層	口径 16.5	2.12弱	外寸16.5, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	美戸庄塗付	
		a4			高さ 4.2		内寸16.5, ハリ					
473-082-04	土師器皿	中	C地区	包含層	口径 4.6	-	外寸4.6, 2.2, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	青	白	枯葉, 黄褐色	美戸庄塗付	
		b1			高さ 3.0		内寸4.6, ハリ					
476-010-05	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.6	4.12	外寸7.6, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		e4			高さ 10.0		内寸7.6, ハリ					
477-090-06	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.5	6.12	外寸7.5, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑	盛み大	
		d4			高さ 10.0~		内寸7.5, ハリ					
478-094-04	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 6.1	6.12	外寸6.1, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		c4			高さ 4.4		内寸6.1, ハリ					
479-094-04	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.4	7.12弱	外寸7.4, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		c4			高さ 4.4		内寸7.4, ハリ					
480-094-04	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.0	9.12	外寸7.0, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		c4			高さ 4.7		内寸7.0, ハリ					
481-090-03	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.5	8.12	外寸7.5, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		d4			高さ 4.4		内寸7.5, ハリ					
482-094-03	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.5	7.12弱	外寸7.5, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		c4			高さ 4.6		内寸7.5, ハリ					
483-106-04	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.4	6.12	外寸7.4, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		e4			高さ 5.5		内寸7.4, ハリ					
484-094-05	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 7.6	10.12弱	外寸7.6, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑		
		f4			高さ 6.5		内寸7.6, ハリ					
485-106-05	土師器皿	中	D地区	SD121	口径 8.1	10.12弱	外寸8.1, 2.7, 高部尖削, 脊部高台, ハリ	やや 青	白	浅黄緑	明暦	
		d4			高さ 7.0		内寸8.1, ハリ					

第15表 出土遺物觀察表⑪

番号	品名	器種等	小地区	遺物名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	性状	色調	特記事項
487 099-03	土器器	土器器	D地区 e4	口径 8.3 高さ 0.9	4.12	外:オナナナナ 内:オナナナナ		やや 差 程	灰	浅黄緑	
488 100-02	土器器	土器器	D地区 e4	口径 12.4 高さ 2.1	6.12	外:オナナナナナ 内:オナナナナナ		やや 差 程	灰	灰白	
489 099-02	土器器	土器器	D地区 e4	口径 11.6 高さ 2.8	6.02(完) ~1.2 高さ 2.8	外:オナナナナナナナ 内:オナナナナナナナ	面 差	灰	浅黄緑		
490 094-08	土器器	土器器	D地区 e4	口径 11.6 高さ 1.9	2.12(残)	外:オナナナナナ 内:オナナナナナ		やや 差 程	灰	灰白	
491 102-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 10.0 高さ 2.8	6.12	外:オナナナナナ 内:オナナナナナ 内:カナカナ 内:カナカナ		やや 差 程	灰	灰白	
492 094-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 11.0 高さ 3.1	2.12	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差 程	灰	浅黄緑	表面削留の痕跡不分明
493 099-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 23.2 高さ 4.7	2.12	外:ナナナナ 内:ナナナナ		やや 差 程	灰	外:深黄褐色 内:ふい青褐色	外:煤付着
494 105-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 28.4	3.12	外:ナナナナナナ 内:ナナナナ	面 差	灰	外:深黄褐色 内:煤付着	南伊勢系 外:煤付着	
495 092-02	土器器	土器器	D地区 e4	口径 28.5	1/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ	程 差	灰	浅黄緑	南伊勢系 外:煤付着	
496 093-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 28.2	2/12(残)	外:オナナナナナ 内:オナナナナナ	程 差	灰	にふい黄緑	南伊勢系 外:煤付着	
497 105-02	土器器	土器器	D地区 e4	口径 27.9	2/12(残)	外:ナナナナナ 内:ナナナナ	程 差	灰	にふい黄緑	南伊勢系 外:煤付着	
498 104-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 23.3 高さ 9.1	9.12	外:ナスナ 内:ナスナ 内:ナスナ 内:ナスナ		やや 差	灰	にふい黄緑	南伊勢系 外:煤付着
499 099-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 28.5	2/12(残)	外:オナナナ 内:カナカナ 内:カナカナ 内:カナカナ		やや 差	灰	外:深黄緑 内:灰黄緑	外:煤付着
500 092-01	土器器	土器器	D地区 e4	口径 35.0	2.12	外:ナナナナ 内:オナナナ 内:ナナナナ		やや 差 程	灰	南伊勢系 外:煤付着	
501 101-03	陶器	陶器	D地区 e4	口径 7.8 高さ 4.7	1.02(完) 内:オナナナナ	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	浅褐色	尾張第7~8型式
502 103-06	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.2 高さ 2.2	5.12	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差 程	灰白	浅褐色	尾張第6型式
503 103-02	陶器	陶器	D地区 e4	口径 15.0 高さ 4.7	3.12	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差 程	灰白	尾張第6型式 301と同一	
504 090-03	陶器	陶器	D地区 e4	口径 15.1 高さ 5.6	6.12	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式 501と同一	尾張第6型式 501と同一
505 096-02	陶器	陶器	D地区 e4	口径 14.7	2/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式	
506 089-01	陶器	陶器	D地区 e4	底径 9.3	10/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式	
507 094-04	陶器	陶器	D地区 e4	底径 6.8	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 良	灰白	尾張第6型式	
508 103-04	四脚	四脚	D地区 e4	口径 15.0 高さ 4.9	2/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式	
509 103-03	四脚	四脚	D地区 e4	口径 15.1 高さ 7.2	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式 内:煤付着	
510 103-05	陶器	陶器	D地区 e4	(底径 7.2) 口径 15.4 高さ 6.0	底部充实 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第5型式 高台足部折損	尾張第5型式
511 109-06	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.8 高さ 4.7	底部充实 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充实 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	にふい黄緑	尾張第7型式 内:煤付着	
512 089-03	陶器	陶器	D地区 e4	口径 14.0	2/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式	
513 095-05	陶器	陶器	D地区 e4	底径 6.1	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ		やや 良	灰白	尾張第6型式	
514 103-01	陶器	陶器	D地区 e4	口径 14.0 高さ 5.1	6.12	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		程 差	灰白	尾張第6型式	
515 096-01	陶器	陶器	D地区 e4	口径 15.1 高さ 6.0	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		程 差	灰白	尾張第6型式	
516 096-03	陶器	陶器	D地区 e4	底径 7.6	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第5型式	
517 089-04	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.7	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第7型式 内:煤付着	
518 086-04	陶器	陶器	D地区 e4	底径 6.6	6.12	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		程 差	灰白	尾張第6型式 外:底部壊損	
519 087-07	陶器	陶器	D地区 e4	底径 7.2	4.12	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ	面 差	灰	灰白	尾張第6型式 外:底部壊損 芯棒分離A2	
520 086-02	陶器	陶器	D地区 e4	底径 6.0	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式 外:底部壊損	
521 087-02	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.4	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		程 差	灰白	尾張第6型式 外:底部壊損	
522 087-01	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.6	2/12(残)	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第6型式 外:底部壊損	
523 088-02	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.2	6.12	外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第7型式 外:底部壊損	
524 087-04	陶器	陶器	D地区 e4	底径 5.2	底部充実 内:オナナナ 内:オナナナ	底部充実 外:オナナナ 内:オナナナ 内:オナナナ		やや 差	灰白	尾張第7型式 外:底部壊損	

第16表 出土遺物観察表⑫

報告番号	Rno.	器種等	小地区	遺物名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	出土 構成	色調	特記事項
525	086-03	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	6.2	6/12	外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	尾張第7-8型式 外:刃付高台
526	086-01	骨器	D地区 SD121 e4	追跡	6.1	-	追跡完存 6.1-7.0cm, 鞍部系切, 貼付高台 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第6型式, 内:刃付高台 内:刃付?, ?
527	086-01	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	5.0	4/12	外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第7-8型式, 高台削除 外:刃付高台
528	086-01	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	5.6	4/12	外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第7-8型式 外:刃付高台
529	087-02	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	6.8	3/12	外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第7-8型式 外:刃付高台
530	087-03	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	6.8	3/12	外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第7-8型式 外:刃付高台
531	109-05	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	—	—	外:刃付?, ?	やや 残	灰白	所蔵部未著 尾張第7-8型式?
532	087-07	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	追跡	—	—	外:刃付?, ?	やや 残	灰白	尾張第6-7型式 外:刃付高台
533	095-01	骨器 鶴嘴	D地区 SD121 e4	口径	29.0	2/12残	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	密	灰	尾張第 東北系真珠
534	096-06	青磁 瓶	D地区 SD121 e4	黒灰	5.0	底部4/12	外:刃付?, 貼付高台 内:刃付?, ?	密	灰	尾張第6-7型式 外:刃付高台
535	098-05	青磁 瓶	D地区 SD121 e4	追跡	—	—	外:刃付?, ?	密	灰	尾張第6-7型式 外:刃付高台
536	093-02	陶器 豆皿茶碗	D地区 SD121 e4	追跡	13.0	3/12	外:刃付?, 刃付?, ? 内:刃付?, ?	密	灰	尾張第6-7型式 外:刃付高台
537	098-02	陶器 豆皿	D地区 SD121 e4	底径	9.0	10/12	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	尾張第6-7型式?
538	090-02	土器器 鉢	D地区 SD121 e4	追跡	8.5	2/12残	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	外:刃付高台 内:刃付?, ?
539	090-04	土器器 鉢	D地区 SD121 e4	口径	8.5	2/12	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	外:刃付高台 内:刃付?, ?
540	102-04	土器 鉢	D地区 SD121 e4	追跡	11.6	—	—	やや 残	灰白	外:刃付高台 内:刃付?, ?
541	115-02	土器器 皿	D地区 SD129 e4	口径	7.3	8-12	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	尾張第6型式
548	113-02	土器器 皿	D地区 SD129 e4	追跡	22.0	2/12残	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 残	灰白	南伊勢系
549	134-01	土器器 鉢	D地区 SD129 e4	口径	23.3	追跡完存 外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	にふい真珠	南伊勢系
550	113-01	土器器 皿	D地区 SD129 e5	口径	17.2	6-12	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	にふい真珠 外:横付着
551	113-03	土器器 皿	D地区 SD129 e5	口径	28.2	2/12残	外:刃付?, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白, 淡黄緑	中北勢系
552	099-04	陶器 皿	D地区 SD129 e4	口径	8.3	完存	外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
553	115-02	陶器 皿	D地区 SD129 e4	口径	8.6	8-12	外:刃付?, 底部系切 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
554	111-05	陶器 皿	D地区 SD129 e4	追跡	4.8	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 外:自然縫
555	111-06	陶器 皿	D地区 SD129 e2	追跡	8.8	4/12	外:刃付?, 底部系切 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
556	099-04	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径	15.6	3/12	外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 内:保付着
557	111-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	17.5	底部完存	外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	追跡第6型式
558	111-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	19.3	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 内:自然縫	
559	114-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	7.7	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	残	灰白	尾張第6型式
560	114-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	7.5	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式	
561	111-04	陶器 瓶	D地区 SD129 g2	追跡	7.4	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 内:自然縫
562	112-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e3	追跡	5.8	-	追跡 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
563	132-03	陶器 瓶	D地区 SD129 包含 土壤 土壁 No.1	追跡	6.9	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 E11.9瓶
564	114-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e4 No.25	追跡	7.4	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
565	114-05	陶器 瓶	D地区 SD129 e4 No.19	追跡	6.4	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	南六代 尾張第6型式
566	132-07	陶器 瓶	D地区 SD129 追跡	7.3	-	追跡 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式	
567	101-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	7.9	-	追跡完存 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式
568	114-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	追跡	8.2	追跡4.1-7.2 外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第6型式 内:自然縫, 保付着	
569	114-04	陶器 瓶	D地区 SD129 e4 No.40	追跡	9.2	外:刃付?, 鞍部系切, 貼付高台, ? 内:刃付?, ?	やや 密	灰白	尾張第7型式	

第17表 出土遺物観察表⑬

報告書号	Fino	器種等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・接法などの特徴	出土	組成	色調	特記事項
570	099-05	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口徑 12.2 高さ 4	3/12	外:切子、底:素切 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第8型式
571	112-06	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口徑 14.8 高さ 4	2/12強	外:切子、底:素切 内:切子	やや 直 透	反白			尾張第6型式、高台削痕 内:自然縫
572	109-05	陶器 瓶	D地区 SD123 e4	口径 8.0 高さ 4	12	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式 外:底部素面
573	087-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 7.2 高さ 4	底部6/12 内:切子	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式 外:底部素面
574	109-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 7.0 高さ 4	底部3/12 外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白				尾張第6型式、内:自然縫
575	109-04	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 7.0 高さ 4	底部3/12 外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白				尾張第6型式、内:自然縫
576	109-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 7.0 高さ 4	底部3/12 外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白				尾張第6型式
577	109-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e5	口径 6.4 高さ 4	底部6/12 内:切子	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式、外:底部素面
578	107-03	陶器 瓶	D地区 SD129 e2	口径 5.4 高さ 4	底部9/12 外:切子	底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式 外:底部素面
579	086-05	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 6.6 高さ 4	6/12	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	や 直 透	灰白			尾張第6型式 外:底部素面
580	109-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 12.7 高さ 5.2	8/12 内:切子	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第7型式 内:自然縫、糊付縫 外:底部素面
581	105-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e5	口径 15.1 高さ 5	10/12弱	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式 外:底部素面
582	102-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e2	口径 7.2 高さ 4	3/12	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第7型式、外:底部素面
583	108-04	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 13.6 高さ 5.0	3/12	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第7型式、外:底部素面 内:保付縫
584	132-01	陶器 瓶	D地区 SD129	底部 15.3	底部 外:切子	底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	短 直 透	灰白			尾張第6型式
585	111-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 29.0 高さ 6.3	2/12	外:切子、底:素切、貼付高台、ナフ 内:切子	やや 直 透	灰白			尾張第6型式
586	113-05	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	— 底部 集灰	—	切子	—	—	直 透	灰白	常満度
587	113-04	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 22.2 高さ 3.8	1/12	外:切子 内:切子	やや 直 透	—	直 透	にいじ赤縫	常満度 内:自然縫
588	122-02	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 29.0 高さ 4	2/12	外:切子	やや 直 透	—	直 透	常満度	常満度 外:自然縫
589	101-01	陶器 瓶	D地区 SD129 e4	口径 27.7 高さ 4	2/12弱	外:切子 内:切子	やや 直 透	—	直 透	灰赤 褐色	常満度 常:自然縫
590	119-07	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 7.0 器高 11	底部 外:切子	底:素面 器高 11	やや 直 透	—	直 透	灰白	常満度
593	119-04	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 7.3 器高 1.2	4/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	灰白	
594	119-08	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 7.7 器高 1.1	6/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	浅黄緑	
595	119-03	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 7.1 器高 0.8	9/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	深黄緑	深み大
596	119-06	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 7.0 器高 2.6	ほぼ完存	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	深黄緑	
597	118-04	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 9.2 器高 1.2	9/12	オサレ、ナフ 内:ナフ、ナフ	短 直 透	—	直 透	深黄緑	丹素地合板縫 深み大
598	118-02	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 9.5 器高 1.8	9/12	オサレ、ナフ 内:ナフ、ナフ	短 直 透	—	直 透	灰白	
599	119-01	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 9.1 器高 2.4	9/12	オサレ、ナフ 内:ナフ、ナフ	短 直 透	—	直 透	灰白	墨み大
600	119-02	土器 皿	D地区 SK128 c3	口径 10.0 器高 2.6	3/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	灰白	
601	118-06	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 10.0 器高 2.3	9/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	浅黄緑	
602	118-05	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 8.8 器高 2.4	ほぼ完存	オサレ、ナフ 内:ナフ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	浅黄緑	墨み大
603	119-01	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 9.2 器高 2.1	3/12	オサレ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	灰白	墨み大
604	118-03	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 11.2 器高 2.2	3/12	オサレ、ナフ 内:ナフ、ナフ	やや 直 透	—	直 透	灰白	
605	117-02	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 29.7 器高 2.3	2/12	内:ナフ	やや 直 透	—	直 透	浅黄緑	南伊勢系 外:保付着
606	117-03	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 29.9 器高 2.4	2/12弱	オサレ、ナフ、ナフ 内:ナフ、ナフ	短 直 透	—	直 透	にいじ青緑	
607	116-01	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 28.5 器高 2.3	ほぼ完存	オサレ、ナフ 内:工具、ナフ	やや 直 透	—	直 透	浅黄緑	南伊勢系 外:保付着
608	121-01	土器 皿	D地区 SK128 c2	口径 21.0 器高 1.14	2/12	内:工具 内:工具	やや 直 透	—	直 透	灰白	南伊勢系 外:保付着

第18表 出土遺物観察表⑩

報告 番号	品名	器種等	小地 区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調整・技法などの特徴	地土	焼成	色調	特記事項
609 117-01	土器類 a2	D地区 SK128	口径 33.8	2/12	外:ハナ×3.3cm 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	難	並	浅黄褐色	南伊勢系 外・煤付着		
610 120-01	土器類 a2	D地区 SK129	口径 27.0	4/12	外:ハナ×4.5cm, 膜部貼付, ハナ×3.3cm 内:工具×1.5cm	やや 難	浅黃褐色 反覆燒	南伊勢系 外・膜部下保付着			
611 129-02	土器類 a2	D地区 SK128	口径 22.0	4/12	外:ハナ×7.5cm, 膜部貼付, ハナ×3.3cm 内:工具×1.5cm, ハナ×1.5cm	やや 難	浅黃褐色 灰白	南伊勢系 外・膜部下保付着			
612 116-02	土器類 a2	D地区 SK128	口径 28.2	2/12弱	外:ハナ×4.5cm, 膜部貼付, ハナ×3.3cm 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	難	並	浅黃褐色	南伊勢系 外・膜部下保付着		
613 123-02	陶器 a2	D地区 SK128	底径 7.7	—	底部突出 外:ハナ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm	やや 難	反覆燒 青白灰	源氏美第5型式			
614 122-04	陶器 a2	D地区 SK128	底径 5.6	底部 2/12弱	外:ハナ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	やや 並	灰白	尾張第4型式 外・底部墨書き			
615 125-02	陶器 a2	D地区 SK128	底径 12.9	底部 2.5cm	膜部突出 外:ハナ×7.5cm, 膜部系切	やや 難	難 難地反台	桃色 桃色後凹面			
616 123-06	陶器 a2	D地区 SK128	底径 4.2	底部突出 2.5cm	外:ハナ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	やや 並	難 難地にぶい黄緑	桃色 桃色後凹面			
617 122-02	白磁 三絃造	D地区 SK128	口径 13.2	2/12強	内:オホ×7.5cm	難	難 難地反台	難 難地にぶい黄緑			
618 098-01	西番 茶器 a2, H No.6	D地区 SD121	底径 8.7	底部突 出 8.0	底部突 出 内:オホ×7.5cm	やや 並	灰白, 桃色	外・自然釉			
619 124-02	陶器 a2	D地区 SK128	—	—	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	やや 難	難 灰白	常津產			
620 124-04	陶器 a2	D地区 SK129	—	—	内:オホ×7.5cm	やや 難	にぶい 素燒, 灰灰	常津產			
621 124-01	陶器 a2	D地区 SK128	—	—	外:オホ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	やや 並	にぶい 素燒, 灰灰	常津產			
622 122-01	陶器 a2	D地区 SK128	口径 30.7	2/12弱	内:オホ×7.5cm	やや 並	素燒, 灰灰	常津產 外・自然釉			
624 129-01	土器類 b7	D地区 SD148	口径 10.8	口沿部 3.4	外:ハナ×3.3cm 内:オホ×1.7cm, ハナ×1.5cm	やや 難	灰燒, 淡黃燒, 浅黃燒	同一胚体として実測			
625 129-07	陶器 a2	D地区 SO136	口径 9.0	3/12	外:ハナ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第4型式 内・自然釉			
626 126-06	土器類 a5	D地区 SD134	底径 10.5	底部突 出 9.5	底部突 出 内:オホ×7.5cm	やや 並	灰白	尾張第5型式 内・自然釉			
627 129-04	陶器 a5	D地区 SD137	底径 6.8	底部突 出 6.5	底部突 出 外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第5型式			
628 129-03	陶器 a2	D地区 SD127	—	—	内:オホ×7.5cm	やや 並	暗灰, 灰灰	常津產			
629 127-06	土器類 台付裏 c3	D地区 SK139	底径 8.6	底部3/12	外:ハナ×3.3cm 内:オホ×1.7cm	やや 難	にぶい 難				
630 128-02	土器類 a5	D地区 SK135	口径 11.7	3/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	浅黃褐色 淡綠				
631 128-04	土器類 a5	D地区 SK150	口径 8.6	4/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白				
632 128-01	土器類 a5	D地区 SK150	口径 29.8	2/12弱	外:ハナ×7.5cm, 膜部貼付, ハナ×3.3cm 内:オホ×1.7cm	難	並	浅黃褐色	南伊勢系 外・部下保付着		
633 123-04	陶器 a5	D地区 SX125	口径 8.0	保証突 出 8.5	保証突 出 内:オホ×7.5cm	やや 並	灰白	尾張第6型式			
634 123-01	陶器 a5	D地区 SX125	口径 16.1	10/12弱	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第6型式 盛み大			
635 125-05	土器類 a5	D地区 SX132	口径 9.1	4/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	にぶい 難				
636 125-03	土器類 a5	D地区 SX132	高さ 12	—	内:オホ×7.5cm	やや 並	難				
637 125-02	土器類 a5	D地区 SX132	口径 16	7/12	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第6型式 外・自然釉			
638 125-01	陶器 a5	D地区 SX132	口径 16.0	9/12	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	反白	尾張第5型式 盛み大			
640 128-05	土器類 a4	D地区 GX154	口径 7.0	3/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	浅黃褐色				
641 125-04	土器類 a4	D地区 GX154	口径 7.0	4/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	浅黃褐色 灰白	亞み大			
642 126-03	土器類 a4	D地区 SX154	口径 9.1	3/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白				
643 126-01	土器類 a4	D地区 SX154	口径 24.0	完存	外:オホ×7.5cm, 内:オホ×1.7cm, 工具印×1.5cm	やや 並	浅黃褐色	南伊勢系 外・部下保付着 像成灰穿孔			
644 125-06	土器類 a4	D地区 SX154	口径 32.0	1/12	外:オホ×7.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	にぶい 灰燒場	南伊勢系			
645 127-04	陶器 a2	D地区 SE126	底径 4.7	底部 No.1	底部 器高 1.8	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第6型式		
646 127-05	陶器 a2	D地区 SE126	口径 6.2	3/12	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第7型式 外・内・自然釉			
647 127-03	陶器 a2	D地区 SE126	底径 7.2	3/12	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切, 貼付高台, ハナ×1.5cm 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第6型式			
648 127-02	陶器 a2	D地区 SE126	口径 14.2	4/12	外:内:オホ×7.5cm, 膜部系切 内:オホ×1.7cm	やや 並	灰白	尾張第9型式 外・底部墨書き			

第19表 出土遺物観察表⑯

番号	Rno.	種類等	小地区	遺構名	計測値 (cm)	残存度	調査・技法などの特徴	地土	構成	色調	特記事項
649	127-01	陶器 鉢	D地区 SE126 No.2	底径 14.7 高さ 12	底部3/12 内0.007m	外0.007m, 内0.007m, 底部未調査	やや 差 理	灰 黒	やや 差 理	「志い黄裡」 基盤	尾張第5~6型式
650	128-06	土器 鉢	D地区 SE129 F2	最大径 6.1 重さ 35.7g	—	—	—	やや 差 理	灰 白	—	—
653	130-06	陶器 鉢	D地区 PR7 e4	底径 7.6 高さ 1.0	底部4/12 内0.007m	底部系切, 貼付高台, ナリ 内0.007m	やや 差 理	灰 白	—	—	尾張第5~6型式 内茎窓か
654	130-04	陶器 鉢	D地区 Pe10 e4	底径 7.0 高さ 1.0	底部4/12 内0.007m	底部系切, 貼付高台, ナリ 内0.007m	やや 差 理	灰 白	—	—	尾張第5~6型式
655	130-05	陶器 鉢	D地区 Pe7 F3	底径 6.2 高さ 1.0	底部4/12 内0.007m	底部系切, 貼付高台, ナリ 内0.007m	やや 差 理	灰 白	—	—	尾張第5~6型式 内茎窓か
656	130-07	陶器 鉢	D地区 Pe1 F3	底径 18.4 口径 16.6 高さ 1.0	底部3/12 内0.007m 外ナリ, 刺突(縦) 内ナリ, 刺突(縦)	—	やや 差 理	灰 白	—	—	常滑度
657	107-01	土器 鉢	D地区 包含層 e2	口径 24.0 高さ 1.0	外ナリ, 刺突 内ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	「志い黄裡」 基盤
658	106-01	土器 鉢	D地区 包含層 d4	口径 33.0 高さ 1.0	口部部 外ナリ, ナリ, 剥落, 貼付内側洋文, 砂付 内1.2強 内直ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	「志い黄裡」 基盤
659	106-02	土器 鉢	D地区 包含層 c4	口径 33.0 高さ 1.0	口部部 外ナリ, ナリ, 剥落, 貼付内側洋文, 砂付 内直ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	「志い黄裡」 基盤
660	100-01	土器 鉢	D地区 包含層 c4	口径 14.0 高さ 1.0	外ナリ, ナリ, 竹葉文, 剥落, 簡略直洋文, 砂付 内直ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	「志い黄裡」 基盤
661	125-01	土器 鉢	D地区 包含層 c4	口径 16.4 高さ 1.0	はびき窓 外ナリ, 劣化, 指接直線文, 深灰文, オナリ, 剥落 内ナリ, オサリ, ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	—
662	097-03	土器 鉢	D地区 包含層 d4	—	—	外ナリ, 梅文, 波状文	粗 粒	直	—	—	「志い黄裡」
663	131-05	土器 鉢	D地区 包含層 F3	—	—	外ナリ, ナリ	やや 差 理	直	—	—	天地不明
664	130-03	土器 鉢	D地区 包含層 c2	—	—	外ナリ, 剥落 内ナリ	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
665	102-02	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 3.1 高さ 1.0	底部充てん 外オナリ, ナリ, 砂付 内ナリ, ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」
666	105-04	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 10.6 高さ 1.0	底部4/12 外ナリ, ナリ, ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	天地不明
667	095-02	土器 鉢	D地区 包含層 c4	底径 13.0 高さ 1.0	13.0体形4/12 外ナリ, 剥落 内ナリ, ナリ	—	やや 差 理	灰 白	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
668	103-03	土器 鉢	D地区 包含層 c4	底径 14.4 高さ 1.0	外ナリ, ナリ, ナリ 内3.0ナリ, ナリ	1/12	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
669	100-02	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 20.0 高さ 1.0	外ナリ, ナリ 内3.0ナリ, ナリ	1/12	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
670	128-07	土器 鉢	D地区 包含層 F2	底径 5.0 高さ 1.0	細部充てん 外1.0強, 半軸竹管文, 剥落 内ナリ	3/12	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
671	107-02	土器 鉢	D地区 包含層 g5	底径 4.0 高さ 1.0	底部充てん 内ナリ, オサリ	—	やや 差 理	灰 白	灰 白	灰 白	灰白, 灰褐色
672	058-05	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 4.2 高さ 1.0	底部充てん 外ナリ, ハラカ, 梅文根模文 内ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	3万通し
673	086-06	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 5.0 高さ 1.0	底部充てん 外ナリ, ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
674	102-03	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 4.2 高さ 1.0	底部充てん 外ナリ, 梅文根模文 内工具ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
675	095-04	土器 鉢	D地区 包含層 d4	底径 3.2 高さ 1.0	底部充てん 外ナリ, ハラカ, 三方向凸丸 内ナリ, ナリ	—	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩
676	131-03	土器 鉢	D地区 包含層 g5	底径 27.0 高さ 1.0	外ナリ, ナリ, 3.0ナリ 内ナリ, 3.0ナリ	2/12弱	やや 差 理	直	—	—	外塗付着
677	131-02	土器 鉢	D地区 包含層 g2	底径 24.3 高さ 1.0	外ナリ, 四隅延付, ナリ, 3.0ナリ 内ナリ, ナリ, 3.0ナリ	1/12弱	やや 差 理	直	—	—	南勢系 外塗付着
678	131-01	土器 鉢	D地区 包含層 c3	底径 23.4 高さ 1.0	外ナリ, 四隅延付, ナリ, 3.0ナリ 内工具ナリ, 3.0ナリ	2/12	やや 差 理	直	灰 白	—	南勢系 外塗付着
679	131-01	陶器 鉢	D地区 包含層 d5	底径 6.5 高さ 1.0	底部充てん 外ナリ, 剥落, 底部系切, 貼付高台, ナリ 内5.0ナリ, 内0.007m	5/12弱	やや 差 理	直	灰 白	—	尾張第6型式 外赤彩, 灰褐色
680	132-06	陶器 鉢	D地区 包含層 c4	—	外0.007m, 振印文 内0.007m	—	やや 差 理	直	—	—	「志い黄裡」 外赤彩, 灰褐色
681	132-06	陶器 平盤	D地区 包含層 g3	口径 15.4 高さ 5.9	外0.007m, 3.0, 貼付高台 内0.007m	1/12	やや 差 理	直	梅 黃	梅 黃	吉田山後玉湖
682	132-04	陶器 平盤	D地区 包含層 c2	底径 4.7 高さ 1.0	底部充てん 内0.007m	—	やや 差 理	直	梅 黃	梅 黃	吉田山後玉湖 68.2と同一の可能性あり
683	125-05	陶器 平盤	D地区 包含層 d4	口径 13.0 高さ 1.0	外0.007m 内0.007m	3/12	やや 差 理	直	梅 黃	梅 黃	吉田山後玉湖 68.2と同一の可能性あり
684	069-01	土器 鉢	灰壺 261 清	底径 12.0 高さ 2.22	外ナリ, ナリ, コナリ 内ナリ, 3.0ナリ	2/12	やや 差 理	直	灰 白	—	新麗, 外 灰褐色, 涼
685	010-04	土器 鉢	試標 261 清	底径 8.1 高さ 1.0	外ナリ, ナリ 内ナリ, ナリ	3/12	やや 差 理	直	灰 白	—	新麗, 古井戸後玉湖
686	010-03	土器 鉢	試標 251 清	底径 6.0 高さ 1.0	外ナリ, 齢付 内ナリ, ナリ, 部門工具ナリ, 3.0ナリ	2/12	やや 差 理	直	—	—	透溝3方向, 1箇所定存
687	011-02	陶器 鉢	試標 267 清	底径 15.8 高さ 2.0	外0.007m, 貼付高台 内0.007m	3/12	やや 差 理	直	灰 白	—	—
688	011-04	土器 鉢	試標 252 清	底径 11.2 高さ 2.1	外ナリ, ナリ, 3.0ナリ 内ナリ, 3.0ナリ	4/12	やや 差 理	直	灰 白	—	南伊勢系
689	011-03	陶器 鉢	試標 300 清	底径 14.4 高さ 2.0	—	—	やや 差 理	直	—	—	淡黃模

第20表 出土遺物観察表

報告書番号	No.	名前	小地区	通棟名	計測場所 (cm)	鉛直率度	規格番号	No.	名前	小地区	通棟名	計測場所 (cm)	特記事項
4	006-02	出物 板根	A地区 b3	SE54 No.28	横存長 16.6 横幅 4.3 厚さ 0.8	前面に木製六面体置き	260-005-01	出物 a8	SE68 No.8	出 板根	42.3	内面、外の一部構造に2 3mm、下部に10mm所見	
5	002-03	板	A地区 b3	SE54 No.14	横存長 22.8 横幅 3.8 厚さ 0.8		290-037-09	石器 板根	SE68 No.8	出合層	7.1	2次使用	
6	007-03	板	A地区 b3	SE54 No.20	横存長 21.4 横幅 4.0 厚さ 0.8		390-009-01	しわもし C地区	SE71 No.4	長さ 23.9 幅 7.2 厚さ 0.7		トウガ調整後縁を差取り	
7	001-01	板	A地区 b3	SE54 No.11	横存長 20.5 横幅 3.8 厚さ 0.8		263-011-02	井戸材 板根	SE71 No.2	長さ 22.0 幅 7.2 厚さ 0.8		方形に加工した後、表面各所 凹む。	
8	001-02	板	A地区 b3	SE54 No.10	横存長 21.3 横幅 3.8 厚さ 0.8		264-011-01	井戸材 板根	SE71 No.1	長さ 23.3 幅 7.5 厚さ 0.8		方形に加工した後、両端を削 る。	
9	002-04	板	A地区 b3	SE54 No.17	横存長 21.0 横幅 4.0 厚さ 0.8		260-010-02	井戸材 板根	SE71 C地区	長さ 21.2 幅 13.2 厚さ 2.5			
10	002-02	板	A地区 b3	SE54 No.16	横存長 18.5 横幅 4.0 厚さ 0.8		366-007-02	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 25.5 幅 8.9 厚さ 0.8			
11	004-01	曲物	A地区 a2	SE54	径 357.0 高さ 1.0		367-006-04	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 47.9 幅 6.5 厚さ 0.8		先端部ぶつぶれる打ったとき のものか、縫穴	
12	003-01	結構	A地区 b3	SE54	横存 約30.0 高さ 約28.0 厚さ 約2.0	柱の取付部等、裏面には 波状多面型と定めたと考えられる 木釘痕跡が表面に見られ、井 戸に転用したものと思われ る。	368-005-03	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 38.5 幅 6.8 厚さ 0.8		先端部ぶつぶれる打ったとき のものか、縫穴	
13	040-01	石製品 瓦類	A地区 b6	包装商 西壁	横存長 22.3 横幅 17.8 厚さ 12.0±0.4		380-007-01	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 38.5 幅 10.6 厚さ 5.7			
14	041-01	石製品 瓦類	A地区 b251	包装商	横存長 21.0 横幅 17.8 厚さ 5.5±0.4		370-006-01	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 38.5 幅 9.5 厚さ 5.5			
216	003-04	石部 型材	B地区 e7	SE60	横存長 3.8 横幅 6.7 厚さ 2.1	ハイドロカル	371-006-02	井戸材 板根	SE71 C地区	横存長 44.1 幅 10.3 厚さ 5.0			
242	018-03	井戸材	B地区 e9	SE60 No.44	横存長 49.5 横幅 7.3 厚さ 2.0	先端部加工 表面部分を平らに削断	372-006-01	油槽	SE71 C地区	横存長 17.4 幅 3.6		変形、小型品で1枚もの 数点	
243	017-03	井戸材	B地区 e9	SE60 No.45	横存長 82.8 横幅 7.3 厚さ 2.4	横存部各部分を削断して組み 立てたもの	373-028-01	曲物	SE71 C地区	横存長 26.0 幅 7.2			
244	018-03	井戸材	B地区 e9	SE60 No.25	横存長 62.6 横幅 4.6 厚さ 2.4	高さ 6.2 高さ 4.6 厚さ 2.4	374-027-01	曲物	SE71 C地区	横存長 22.0 幅 40.0			
245	018-03	井戸材	B地区 e9	SE60 No.32	横存長 60.0 横幅 6.6 厚さ 2.9	高さ 6.0 高さ 6.6 厚さ 2.9	374-029-01	石器 磨石	SE71 C地区	高さ 9.2 横幅 4.8 厚さ 15.0		赤鉄斜面仕上	
246	018-02	井戸材	B地区 e9	SE60 No.50	横存長 4.0 横幅 4.0 厚さ 2.4	高さ 4.0 高さ 4.0 厚さ 2.4	375-003-03	石器 磨石	SE71 C地区	横存長 1.1 幅 8.8 厚さ 0.8		側面も石として使用してい る可能性有	
247	019-04	井戸材	B地区 e9	SE60 No.19	横存長 6.5 横幅 4.7 厚さ 2.0	横幅 6.5 高さ 4.7 厚さ 2.0	541-101-04	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 4.5 幅 3.2 厚さ 0.8			
248	017-02	井戸材	B地区 e9	SE60 No.15	横存長 50.3 横幅 4.2 厚さ 2.5	横幅 50.3 横幅 4.2 厚さ 2.5	542-007-02	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 4.0 幅 3.2 厚さ 0.9			
249	013-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.49	横存長 70.2 横幅 6.5 厚さ 2.8	横幅 70.2 横幅 6.5 厚さ 2.8	543-037-01	石器 板根	SD121 C地区	横存長 1.5 幅 8.8 厚さ 0.8			
250	011-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.29	横存長 55.2 横幅 4.2 厚さ 4.2	横幅 55.2 横幅 4.2 厚さ 4.2	544-139-01	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 2.1 幅 0.7 厚さ 4.3			
251	016-02	井戸材	B地区 e9	SE60 No.61	横存長 35.4 横幅 5.2	横 先端部加工 表面加工	540-139-02	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 3.6 幅 4.2 厚さ 3.2			
252	012-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.64	横存長 29.2	先端各方向に削り加工	546-139-03	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 10.1 幅 4.8 厚さ 1.3			
253	016-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.34	横存長 49.3 横幅 6.6 厚さ 3.0	先端加工	590-138-01	石製品 板根	SD121 C地区	重量 75.0kg			
254	014-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.55	横存長 39.1 横幅 5.1 厚さ 0.8	横存長 39.1 横幅 5.1 厚さ 0.8	591-138-02	石製品 板根	SD121 C地区	横存長 12.6 幅 4.2 厚さ 3.2			
255	014-02	井戸材	B地区 e9	SE60 No.50	横存長 34.9 横幅 11.4 厚さ 0.6	横存長 34.9 横幅 11.4 厚さ 0.6	602-137-01	貨物 鋼	SD121 C地区	横存長 4.0 幅 17.2		横存長 1/2袋のため 口底不明瞭	
256	013-01	井戸材	B地区 e9	SE60 No.25	横存長 22.4 横幅 24.0 厚さ 1.1		635-137-01	鉄製品 刀子	SD121 C地区	横存長 30.8			
257	138-01	漆塗	B地区 e9	SE60 No.9	横存長 7.5 高さ最大幅 0.9		651-024-01	油槽	SD128 C地区	横存長 14.7 幅 30.0 厚さ 1.0		下部に口幅×6ヶ月の漆面 剥離と一部下部 652と同一機体と思われる	
258	015-02	曲物 板根	B地区 e9	SE60 No.15	横存長 20.0 横幅 0.7	横存長 20.0 横幅 0.7	652-023-01	曲物	SE138 C地区	横存長 11.8 幅 30.0 厚さ 0.8		下部に7ヶ月×6ヶ月の漆面 剥離と同一機体と思われる	
259	015-01	曲物 板根	B地区 e9	SE60 No.11	横存長 20.0 横幅 0.8	横存長 20.0 横幅 0.8						653と同一機体と思われる	

第21表 出土木製品・石製品・鉄製品観察表

VIII 結語

1 遺構の変遷について

里前遺跡内では、過去に2度の発掘調査が行なわれている。1次調査では、多数の井戸や溝等を確認し、2次調査では井戸や墓等を確認し、集落が営まれている様子が窺えた。これらの遺構について、2度の調査結果を踏まえたうえで里前遺跡の時期毎の様相について述べていきたい。

(1) I期（弥生時代後期～古墳時代前期）（第46図）
①時期 川崎志乃氏の編年による鳥貴II～Ⅲ期の時期。

②遺構

溝・流路 1次調査では、南半部南端5層から遺物を確認している。2次調査では、A地区でSD51・SZ55、C地区でSD74・107・117・118・119・120・165、D地区でSD148を確認した。SD74・119は方形周溝墓の可能性がある。この時期のほとんどの遺構はC地区に集中する。

土坑 土坑はC地区で検出したSK111の1基のみである。

③遺物の分布 1期以前は、1次調査・2次調査C地区から弥生時代前期の甕が出土しており、遺構は認められないものの当地周辺で生活が営まれ始めた時期と思われる。I期は、多数の遺物と溝・流路しか確認しておらず、発掘調査区内には居住域は存在しない。しかし、方形周溝墓の可能性がある溝を確認しているので、墓域は存在したと思われる。そしてI期以降II期までの間、遺構は確認できない。ただし、1次調査の南半部南端・30列東西トレンチ、範囲確認調査坑261・287から台付甕・須恵器等が出土し、生活は営まれ続けたと推察される。

(2) II期（平安時代末～鎌倉時代）（第47図）

①時期 藤澤良祐氏の編年による山茶碗第3型式から第8型式までの時期。伊藤裕偉氏の南伊勢系土器鍋の編年では、仮（A）段階～第2段階の時期。1次調査遺構変遷のI期にあたる。

②遺構

溝・流路 A地区でSD51、C地区でSD76・78・86、

D地区でSD121・129・134・135・136・137を確認した。1次調査では、SD7・18を確認した。

特にSD129はN30°Eと表層条里方向と一致し、坪界にあたる可能性が高い。

土坑 C地区でSK70・91・109・115を、D地区でSK135を、1次調査ではSK4・10・23を確認した。中世墓 C地区でSX73・84、D地区でSX125・152・154を確認した。

井戸 A地区でSE54、C地区でSE71、D地区でSE126の3基を確認した。1次調査では、SE3・5・6・16・17・24・25の7基を確認した。

④まとめ 建物は確認できなかったものの、井戸が見られ、調査区内に集落が営まれていたのは確実である。また、墓が作られているのはこの時期だけである。井戸は1次調査区では集中してみられたが、2次調査区では散在的である。集落域は、1次調査区に集中し、他は散在していたと想定できる。そして表層条里方向に沿った溝が施工されるのはこの時期であり、遺跡内で画期が見られる時期といえる。

(3) III期（室町時代～戦国時代）（第48図）

①時期 藤澤良祐氏の編年による古瀬戸後期末～大窓の時期。伊藤裕偉氏の南伊勢系土器鍋の編年による第3段階～第4段階の時期。1次調査遺構変遷のII期にあたる。

②遺構

溝・流路 A地区でSD51、B地区でSD57・60・62・66、SZ58、C地区でSD75・76・78・86・88・92・110、D地区でSD121・127・129を確認した。

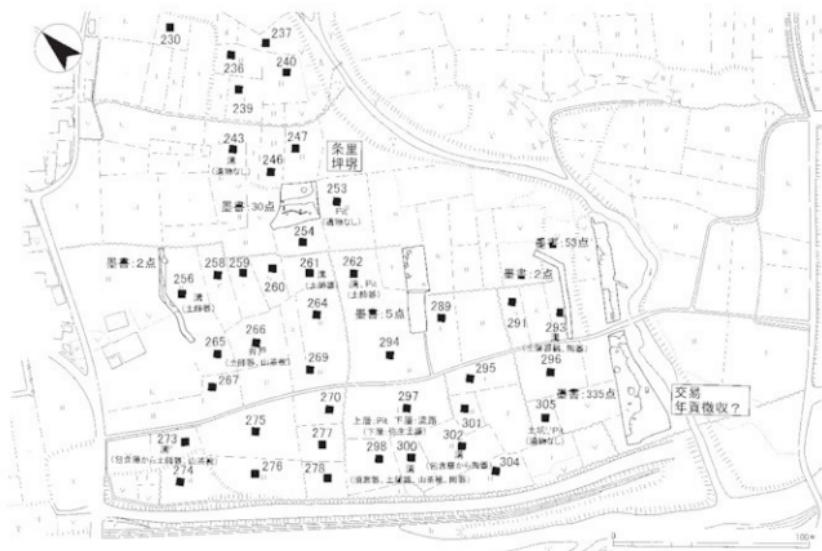
SD57・66・78は現畦畔に沿うような方向に延びており、この時期に基本的な地割が造られたようである。

土坑 B地区でSK56、C地区でSK113、D地区でSK128・150を確認した。1次調査では、SK12の1基のみ確認した。

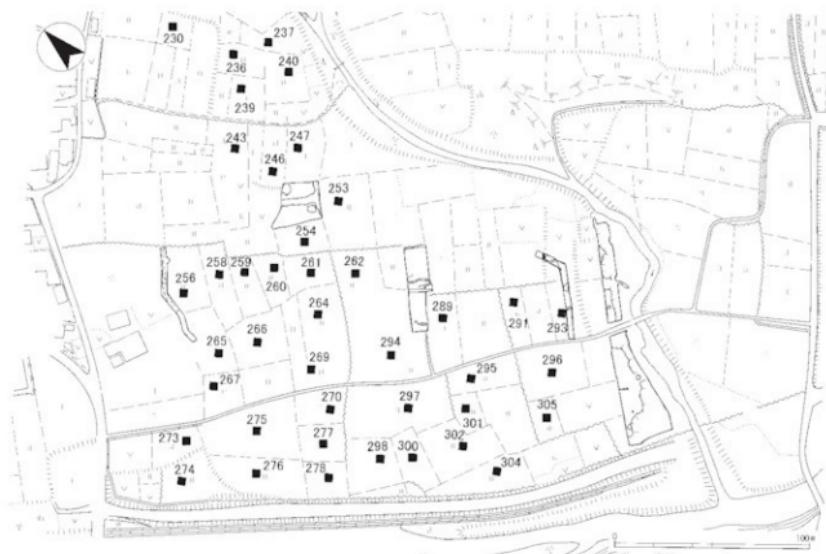
井戸 B地区でSE68、C地区でSE116の2基を確認した。1次調査では、SE2・11・14・19の4基



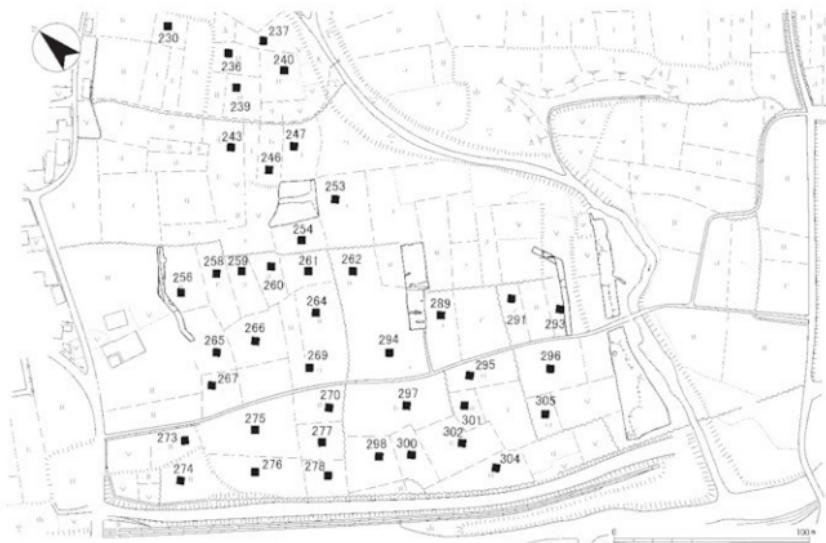
第46図 第Ⅰ期遺構変遷図（1：2,500）



第47図 第Ⅱ期遺構変遷図（範囲確認調査結果含む）（1：2,500）



第48図 第Ⅲ期遺構変遷図（1：2,500）



第49図 第Ⅳ期遺構変遷図（1：2,500）

確認した。

③まとめ 墓は見られなくなり、井戸は三泗川に近い遺跡の東側（1次調査、B・C地区）では作られるものの数は減り、西側では全く見られなくなる。基幹的な溝はII期から継続して使用される。

（4）IV期（江戸時代）（第49図）

①時期 藤澤良祐氏の編年による登窓第1小期～第6小期までの時期。1次調査造構変遷のII期にあたる。1次調査ではII期を一時期として取り扱っているが、ここではIII・IV期に分けて取り扱う。

②遺構

溝・路溝 A地区でSD51、B地区でSD57・60、SZ58、C地区でSD76・78・86・92・95・114、D地区SD121を確認した。

前時期と同様にSD57・78が現畦畔沿いに延び、引き続きSD60も使用されている。また、SD121と一部重複するSD129もIV期まで使用されていた可能性がある。

土坑 B地区でSK65、C地区でSK72・98・106を確認した。1次調査はSK1、1基のみ確認した。

井戸 1次調査でSE9の1基のみ確認している。

柱穴他 1次調査南半部南端上層遺構で建物は建たないものの多数の柱穴を確認した。

③まとめ 井戸は1基のみである。B・C・D地区の土坑や溝、1次調査の上層で多数の柱穴が確認されており、最も新しい遺物である（307）が登窓第

5～6小期（18世紀～18世紀中頃）であり、その頃までは居住域であったと思われる。

（5）全体のまとめ

里前遺跡の時期毎の様相を見ていくと、弥生時代前期から当遺跡周辺で生活が営まれ始めたことがわかる。I期になってしまっても調査区内に居住域は存在せず、I期は集落のはずれにあたると思われる。II期になると居住域が散在的に広がりを見せ、表層条里方向に一致する溝が作られる。少なくともこの時期以前に遺跡内の条里が施工されたと言える。また土器の出土点数も最も多く、遺跡内で画期となる時期である。III期になると、集落は遺跡東側に偏りを見せ、IV期でも同様の様相を見せる。井戸は17世紀後半で廃絶するものの、土坑や溝は18世紀中頃までは確認できるため、その頃までは集落が営まれていたと考えられる。

また、地元での聞き取りでは、近世のいつ頃かに大水（洪水）が来て、犠牲者がてたため元星敷（D地区付近と思われる）付近に五輪塔を建て、その後集落が現在の野田集落の方へ移動したと言う伝承もある。

今回の調査成果でも、18世紀中頃迄は集落が存続したもの、それ以後、調査地内では集落は営めなくなるという結果がでている。これは、上記の伝承とも一致する部分があり、地元伝承を考古学的に裏付けされたと言える。

（酒井）

2 絵画土器について

里前遺跡から絵画らしい線刻のある土器が1点出土した。その土器は、4本の線を跳ね上げたように表現し、かつ3本の線で弓状に半弧を描く表現をしている。それは龍を線刻した絵画土器である可能性が高い。

龍を線刻した絵画土器の三重県内出土例は、原田恵理子氏が絵画・記号土器の集成で六A遺跡から1点、堀町遺跡から1点を報告している。そして、絵画土器の出土事例から「I期（山中併行期）に出現・盛行する。その後、III期（廻間式併行期以降）まで残存する」また、「出土する遺跡は、かなり限定される」と指摘している。その後、六A遺跡の報告書において穂積裕昌氏が4点（龍が崩れた可能

性のもの1点含む）の報告と龍と蛇線刻土器を中心にお絵画・記号土器とその系譜について報告している。

また、龍の絵画土器について、岩本貴氏は全国的な集成³を試みている。これによると、全国の出土例の約半数が奈良・大阪に集中し、これ以外滋賀・愛知・静岡に各1例、岡山に2例、福岡・宮崎に1例ある。そして、岩本氏の分類によると、頭部またはこれを意識した表現が認められるものを1類、1類を祖型として頭部表現が欠落したもの2類としている。また2類は、突起の発達が少なく胸部との区別が明瞭な2a類と、突起の長大化が進み、胸部と突起の大さきの区別が不明瞭な2b類に細分している。

3類は、2類を祖型として胸部や突起を線によって

表現したもの。3類も2a類を祖型とし胴部の意識が明瞭な3a類と、2b類を祖型とし胴部意識が薄れ、突起の長大化が見られる3b類に細分している。4類は、1～3類の範疇外のものを一括している。そして龍の絵画に特徴的な事は、原画に近い物から簡略化が進み、形態化したものが近畿から他地域に伝わったと指摘している。

では、近畿と東海の中間地域である三重県内の出土事例も同じような変遷を辿るのか、岩本氏の分類を基に検討してみたい。

(1) 龍の形態と時期について（第50図）

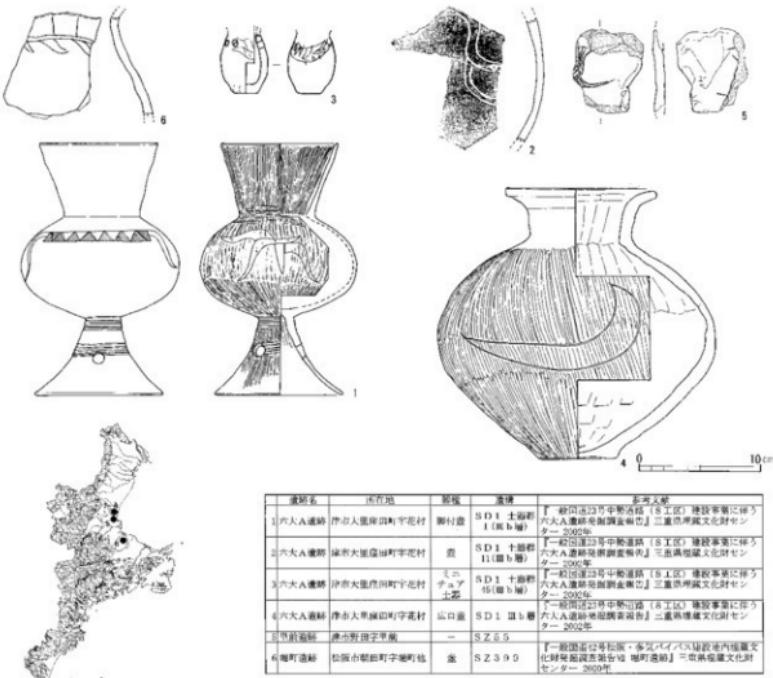
初めに、線刻の形態を見ていきたい。

六大A遺跡出土の龍は、①明確な頭部表現を欠き、崩れた龍と推定されるもの。脚付長頸壺の胴部に線

刻を施し、岩本分類の2b類に該当する。②形状が崩れ、突起を線表現化する。壺の胴部に線刻を施し、胴部と突起部と思われる線刻の大きさが不明瞭であり、2b類と思われる。③三日月状の沈線枠内に斜沈線を充填して上部に羽状のものを線刻したものと鋸歯文を充填したもので、龍の図案を線刻したもの。ミニチュア土器に線刻を施している。④広口壺の胴部に横長の三日月形の線刻を施し、龍が崩れた可能性があるものである。

里前遺跡出土の龍は、表面に胴部と突起を複数の線で表現し、裏面にも線表現が見られる。1本線で龍を表現していないため3類ではなく2類であろう。

堀町遺跡出土の龍は、壺の体部に蛇行する胴部にコブ状の突起の表現が見られる。一部分のため分類



第50図 絵画土器実測図・位置図・一覧表 (1:4)

は不明だか、恐らく2類と思われる。

次に同一遺構内の共伴する土器から絵画土器の時期を見ていく。

六大A遺跡は、SD1出土で、弥生時代後期から古墳時代の大溝であるため共伴する土器の時期幅は広い。土器群毎で見ると、おおよそ山中式から欠山式の時期に当たる。また、脚付壺は山中式であると思われる。

里前遺跡は、SZ55出土で、1点のみ山中式の高杯が出土しているものの、出土土器の大部分は欠山式であり、欠山式或いはやや下る時期のものであると思われる。

堀町遺跡は、SZ399出土で、遺跡自体の存続は山中式までであり、この土器も山中式併行期のものであろう。

(2)まとめ

以上のように、龍の絵画土器は県内で6例出土している。

岩本氏の集成によると、龍の絵画土器の分布は奈良・大阪に集中し、次いで岡山に多い。今回の事例では、奈良・大阪に集中するものの、6例の東の三重と5例の西の岡山と出土例が多い事が注目される。

3 鉄製煮沸具について

中世の煮沸具には、土師器製、石製、鉄製のものがあるが、このうち中世鉄製煮沸具は三重県内でわずか9点余りしか出土していない(第51図)。その種類は、鍋が岩出地区内遺跡群から3点、多気遺跡群から2点、斎宮跡から1点の計7点、鍋の弦と考えられるものが三宅西条城跡から1点、羽釜と思われるものが阿形遺跡から1点である。残存状態は、残存度が良くて口縁部で1/5程度である。

まず鉄製の煮沸具が確認されている5遺跡について概観する。岩出地区遺跡群は、伊勢神宮の祭主、大中臣氏の居館に関わる遺跡である。多気遺跡群は、北畠氏の拠点が置かれた遺跡である。斎宮跡や阿形遺跡は、数多くの掘立柱建物が確認された大規模な集落遺跡である。というようにいずれも大規模な中世集落や城館が営まれていた性格の遺跡である。里前遺跡でも多数の墨書き土器が出土し、川崎志乃氏は「年賀集配に関する遺跡」としている。このような

そして、龍の絵画土器が出土する遺跡はいずれも水統的大規模集落が営まれた、それぞれの地域を代表するような遺跡が多く見られる。里前遺跡では、現在のところ、同時期の遺構は僅かで大規模な集落とは言えない。しかし、里前遺跡の龍の線刻が出土したSZ55は環濠の可能性があり、津市野田では、野田銅鐸(尖線紐式三連式銅鐸)が出土し、地理的に近い神戸から神戸銅鐸も出土している。これらに隣接することから、付近に大規模な集落が存在する可能性が高い。

また岩本氏は、龍の絵画土器は畿内で出現したと指摘し、県内の絵画土器の出現時期について、原田氏は山中併行期と指摘している。今回の検討で、県内の出土事例では初現期の頭部を意識した表現を持つ龍は見当たらなかった。そして、龍の分類はすべて岩本分類2類の時期に相当し、その前後関係は、共伴する土器から堀町遺跡出土龍が最も古く、次いで六大A遺跡、里前遺跡という結果を得た。以上の事から県内の龍の絵画土器出現時期は、概ね山中式併行期に当たり、欠山式併行期或いはやや下る時期まで存在すると思われる。

(酒井)

遺跡では、鉄製の煮沸具が用いられていたことは確実である。

しかし、鉄製の煮沸具の使用は、上記の大集落や城館などで限られた形で行われていたと断定できるのであろうか。土師器類が大量生産によるものであり、耐久性の低さから多量に消費されているのに対し、鉄製煮沸具は破損しても修繕可能であり、再利用されるため、廃棄されるものが絶対的に少ないと認識されにくうことなどが、確認例を少なくしているのかもしれない。

また、本来出土しているにもかかわらず、発掘調査報告書作成中の遺物選別時に、調査担当者の不認識により一瞥すらされずに打ち捨てられているものがある可能性がある。鉄製煮沸具に関して一定の意識のある特定の調査担当者がかかわった遺跡で、鉄製煮沸具が多く出土していることも気になることで

ある。

発掘調査によって遺跡から遺構が発見され遺物が

出土し、過去の人々が生活した痕跡を復元していく
ためにも、注意を喚起したい。
(酒井)

4 中世前期の墨書き土器について

今回の調査では41点の墨書き土器を確認した。1次調査では390点もの墨書き土器を確認し、里前遺跡からは多量の墨書き土器が出土している。各地区での出土点数は第47図の通りである。では、1次調査と2次調査でその様相が異なるのかどうかを報告書掲載遺物から探っていきたい。

(1) 墨書き土器の出土数・場所・種類

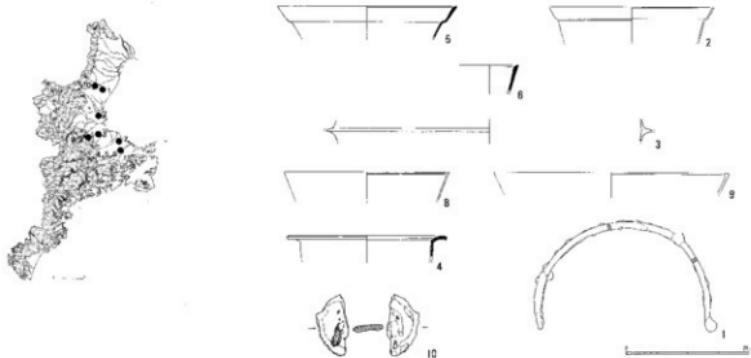
1次調査では、中世前期の墨書き土器が388点出土している。北半部からは21種類53点、南半部からは85種類335点で、南半部（南端）に集中する。

その種類は、年貢に関する語句「米」、「加」、「寺」、「大」等の文字、ドーマン、記号等92種類にものぼる（第22表）。中でもドーマン、円形・直線を呈するものが多く見られる。そして、各種類の墨書き土器（ここでは4点以上を差す）は北半部と南半部の両

方から出土するのに対して、川崎志乃氏の墨書き分類表（第22表）A2「政所」、E3「〇」、K7「×」は南半部南壁寄りから、K2「△」は北半部からのみ出土している。1次調査では、遺跡の東側にあたる三沢川沿いから最も多く墨書き土器が出土し、その出土数・場所は陶器の出土数に応じている。

2次調査では、中世前期の墨書き土器が38点出土している。A地区から2種類2点、B地区2種類2点、C地区3種類5点、D地区18種類30点で、D地区SDI21・129に集中する。

その種類は、文字、ドーマン等、判読不可能な個体を含めて約20種類である。種類は文字が多く、A4「上」、A7「よね」、A13「大」や「米」、「丸」、「丁」が見られる。また、ドーマンのC4「△」や直線を呈するものG1「|」、その他のK9「△」も見



遺跡名	所在地	遺傳	時期	器種	残存度	参考文献
1)三宅百舌鳥跡	掛田市二宅町	—	—	縦横	1/2	『三宅百舌鳥跡出土物』三宅市教育委員会 1983年
2)甲府重鎌跡	掛田市出子里前	SK1.2.8	—	縦横	1/32	—
3)阿斯遺跡	松原市阿斯町	SK7.4	16世紀前半	羽釜	—	『ヒキヤ麻財・打田遺跡・阿斯遺跡』二重県県民文化財センター 1992年
4)飯山遺跡付近地区	吉田郡三城町岩出下西り塩、成化	SK3.2	時期未詳	縦	1/5	『吉田郡吉田遺跡(成化～伊賀) 飯山文化財対比調査報告書 第4分冊』二重県県民文化財センター 1995年
5)出雲御野ケカノ辻	美波郡玉松町岩出手ヶカノ辻、舟泊、左原、右原、枕山	SE3.3.7	14世紀後半～15世紀	縦	1/8	『吉田山地内出雲御野ケカノ辻調査報告書－吉田郡吉田町所在、ケガノ辻、舟泊、左原、枕山地内の現状』三重県県民文化財センター 1996年
6)吉田山遺跡ケカノ辻	美波郡玉松町岩出手ヶカノ辻、舟泊、左原、右原、枕山	SK4.0.9	15世紀	縦	口縫鉢川	『吉田山地内吉田山遺跡ケカノ辻調査報告書－吉田郡吉田町所在、ケカノ辻、舟泊、左原、右原、枕山地内の現状』三重県県民文化財センター 1996年
7)吉田町(第100地)	多気郡吉田町	—	—	縦	—	吉田郡吉田町吉田山地内多気町の現状』三重県県民文化財センター 1996年
8)多気遺跡群	一志郡美杉村上多気宇土井井	SD1.2.8	16世紀後半～17世紀	縦	—	『多気遺跡群早期調査報告書－志郡美杉村上多気所在－』三重県県民文化財センター 1993年
9)多気遺跡群	一志郡美杉村上多気宇土井井	縦作下墻罐	16世紀後半～17世紀	縦	—	『多気遺跡群中期調査報告書－志郡美杉村上多気所在－』三重県県民文化財センター 1993年
10)阿斯跡	龜山市手野町	—	—	縦か?	—	『龜山市文化財調査調査報告』VOL. II 龜山市教育委員会 1991年

第51図 鉄製煮沸用具実測図・位置図・一覧表 (1:8)

られる。数量的には「**入**」、K9「**入**」、C4「**火**」が多い。

また、1次・2次調査で共通する墨書き器に関しては、A7「よね」は1次で4点、2次で1点、K9「**入**」は1次で1点、2次で3点（**入**が同一文字ならば10点）と出土場所によって点数が異なるのでその様相は場所によって異なっている事が窺えよう。

(2)まとめ

里前遺跡で墨書き器が出土した場所・点数は、1次調査では南半部南端に集中し、2次調査ではD地区に集中する。

1次調査で墨書き器の出土点数が多いのは、川崎氏が指摘しているようにこの場所で年貢集配に関わる作業が行なわれただけでなく、河川を輸送経路として物流の役割を担っていたためである。そのため、河川の合流点である1次調査区は圧倒的に出土点数が多くなり、いわば、遺跡内の中枢の場であったと言える。

次いで出土点数が多いD地区は、1次調査と共通する墨書き器が出土しているだけでなく、硯や用途は不明なものの中に煤の付着した山茶椀の出土と共に通する遺物が確認でき、1次調査区に類似した集落内のもう一つの核という事ができる。

まず、D地区的表層条里地割の坪塙にあたる溝（SD129）からは墨書き器が多く出土することが注目できる。坪塙に関しては、1次調査区で墨書き器が集中する地点も坪塙に面しており、里前遺跡では墨書き器は坪塙から多く出土するという傾向がある。

また、D地区SD121・129からは鉄滓が出土しており、近辺で鍛冶が行なわれていた可能性が考えられる。そして、D地区周辺には「元屋敷」の地名が残っている。

更に、地形から見ると、D地区は微高地であり、遺跡の東側を流れる三泗川は安濃川と岩田川を結び、字里前の西隣の字浜垣内は洪水が起ると最初に浸水する地区といい、D地区的すぐ北に三泗川が流れている可能性が高く、北側は旧河道と考えられる。これらのことから、旧河道に近いD地区も1次調査区ほどではないが、三泗川を利用した輸送経路として物流の役割を担っていた可能性が考えられる。

以上のことから、里前遺跡は1次調査区が中枢の場であるもののすべてが1次調査区に集中するではなく、D地区のようにそれに準じたような場所が存在する、いわば、多元的構造を持った場所（遺跡）であったと言える。

（酒井）

番号	場所	墨書き						
A1	中	1	□	火	7	△?	○	1
A2	入	1	□	火	1	△?	○	1
A3	入	1	□	火	1	△?	○	1
A4	上	2	□	火	1	△?	○	1
A5	入	1	□	火	1	△?	○	1
A6	火	1	□	火	1	△?	○	1
A7	入	4	□	火	1	△?	○	1
A8	入	1	□	火	1	△?	○	1
A9	火	1	□	火	1	△?	○	1
A10	火	1	□	火	1	△?	○	1
A11	火	1	□	火	1	△?	○	1
A12	火	1	□	火	1	△?	○	1
A13	火	1	□	火	1	△?	○	1
A14	火	2	□	火	1	△?	○	1
A15	火	1	□	火	1	△?	○	1
A16	火	1	□	火	1	△?	○	1
A17	火	2	□	火	1	△?	○	1
A18	火	1	□	火	1	△?	○	1
A19	火	1	□	火	1	△?	○	1
A20	火	2	□	火	1	△?	○	1
A21	火	1	□	火	1	△?	○	1
A22	火	1	□	火	1	△?	○	1
A23	火	1	□	火	1	△?	○	1
A24	火	1	□	火	1	△?	○	1
A25	火	2	□	火	1	△?	○	1
A26	火	1	□	火	1	△?	○	1
A27	火	1	□	火	1	△?	○	1

第22表 里前遺跡墨書き分類表

墨書き	数量	区分	墨書き	数量	区分	墨書き	数量	区分
上	1	A4	火	2	C4	火	1	G1
	24			353			581	
火	1	A7	火	1	D?	火	1	
	525			522			578	
火	1	A13	火	1	F	火	1	
	239			577			379	
火	1	K9	火	3	K9	火	1	
	521			523			548	
火	2	K9?	火	7	K9?	火	1	
	574			580			679	

第23表 墨書き分類表

[註]

- (1) 水谷豊『惣作遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- (2) 関口精一『津市地名辞典』(八雲書店、1995年)
- (3) 伊藤久嗣ほか『納所遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1980年)
- (4) 古村利男『上村遺跡発掘調査報告』(津市教育委員会、1972年)
- (5) 倉田直純・増田安生ほか「森山東遺跡」(『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木道跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- (6) 竹内英昭『松ノ木道跡』(『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木道跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1993年)
- (7) 池端清行・水橋公恵『替田遺跡(第1次)』(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報IX』三重県埋蔵文化財センター、1997年)
- 水橋公恵・筒井昭仁・西村美幸『替田遺跡(第2次)』
『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』
三重県埋蔵文化財センター、1998年)
- (8) 池端清行・西村美幸『式ノ坪遺跡』(『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X』三重県埋蔵文化財センター、1998年)
- (9) 米山浩之・宮田勝功ほか『一般国道23号中勢道路(10工区)建設事業に伴う成田遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- 00 谷本銘次『津市河辺町・亀井遺跡』(『昭和47年県営圃場整備事業埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1973年)
- 01 池端清行『一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う長道跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2000年)
- 02 中村光司・雄積裕昌『山籠遺跡』(『一般国道23号中勢道路建設事業に伴う大古曾遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1995年)
- 03 田中秀和『大城遺跡発掘調査報告書』(安濃町教育委員会、1998年)
- 04 山田猛『前田遺跡』(『昭和57年度農業基盤整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1988年)
- 05 伊藤久嗣『大ヶ瀬遺跡』(『近畿自動車道埋蔵文化財調査報告I』三重県教育委員会・日本道路公团名古屋支社、1973年)
- 06 谷本銘次『高松弥生墳丘墓発掘調査報告』(津市教育委員会、1970年)
- 07 小玉道明ほか『坂本山古墳群・坂本山中世墓群』(津市教育委員会、1970年)
- 08 米山浩之『一般国道23号中世道路建設事業に伴う位田遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、1999年)
- 09 伊藤秋男ほか『平田古墳群』(安濃町遺跡調査会、1987年)
- 10 岡田登『伊勢國市村駅所在地考』(『皇學館論叢』第13巻第16号、1980年)
- 11 中村信裕『安芸郡安濃町・浄土寺南遺跡』(『昭和55年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1981年)
- 12 早川裕己『安芸郡安濃町・浄土寺米買遺跡』(『昭和56年度県営圃場整備事業地城埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会、1982年)
- 13 仲見秀雄『奄芸・安濃・一志の条里制』(仲見秀雄・谷岡武雄編『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版、1979年)
- 14 梁山主子ほか『神戸遺跡(第2次)・替田遺跡(第3次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2001年)
- 15 川崎志乃『一般国道23号中勢道路(10工区)建設事業に伴う里前遺跡発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
- 16 山畠・山茶碗については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下山畠・山茶碗は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『山茶碗研究の現状と課題』(『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)
- 17 登窯製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下登窯製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VI』(瀬戸市歴史民俗資料館、1987年)、藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VII』

- （瀬戸市歴史民俗資料館、1988年）、藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅸ』（瀬戸市歴史民俗資料館、1989年）
- ⑩ 川崎志乃「古墳時代前期の雲出島遺跡」『『鷲抜Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター、2001年）
- ⑪ 土師器皿については、全点にわたり川崎志乃氏に実見の上、ご教示を得た。以下土師器皿は川崎志乃氏の分類により記述する。川崎志乃『一般国道23号線中勢道路（10工区）建設事業に伴う里前遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2002年）
- ⑫ 以下常滑製品の甕は中野晴久氏の編年により記述する。『常滑焼と中世社会』（小学館、1995年）
- ⑬ 古瀬戸製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下古瀬戸製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『瀬戸古窯址部II－古瀬戸後期様式の編年－』（『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館、1991年）
- ⑭ 以下南伊勢系土師器鍋・羽釜は伊藤裕偉氏の編年により記述する。伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『『Mie history』vol.1、三重歴史文化研究会、1990年）
- ⑮ 以下中北勢系土師器羽釜は伊藤裕偉氏の編年により記述する。伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する覚書」『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、1999年）
- ⑯ 大窯製品については、全点にわたり愛知学院大学藤澤良祐氏に実見の上、ご教示を得た。以下大窯製品は藤澤良祐氏の編年により記述する。藤澤良祐『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要V』（瀬戸市歴史民俗資料館、1986年）
- ⑰ 山田猛「下郡遺跡群出土の搖鉢」（『『Mie history』vol.1、三重歴史文化研究会、1990年）
- ⑱ 三重県教育委員会山田猛氏からご教示を得た。
- ⑲ 原田惠理子「三重県下出土の絵画・記号土器」『研究紀要』第8号（三重県埋蔵文化財センター、1999年）
- ⑲ 植橋裕昌『一般国道23号中勢道路（8工区）建設事業に伴う六代大遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2002年）
- ⑳ 岩本貴「角江遺跡出土の絵画土器2－竜の絵画を中心にして」（『考古学論集東海の路－平野吾郎先生還暉記念－』、『東海の路』刊行会、2002年）
- ㉑ 記述の出土例以外に『第32回特別展図録古代建物のまつり一間にみられる人々の祈り－』（静岡市立登呂博物館、2004年）にて、高賀遺跡竜文土器と報告されているが、羽を広げた水鳥とした発掘調査報告書（植橋裕昌「高賀遺跡」『平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告－第3分冊－』）の所見に従った。
- ㉒ 小濱学『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告 駿町遺跡』（三重県埋蔵文化財センター、2000年）
- ㉓ 伊藤裕偉氏の伊勢の鉄製煮沸具編年をもとに出土遺跡を加筆した。伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」（『第4回東海考古学フォーラム 精と豊そのデザイン』、東海考古学フォーラム 尾張大会実行委員会、1996年）
- ㉔ 桜本賢治『近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第4分冊－』（三重県埋蔵文化財センター、1992年）
- 伊藤裕偉『岩出地区内遺跡群発掘調査報告－度会郡玉城町所在、ケカノ辻・角垣内左郡・蚊山地区的調査』（三重県埋蔵文化財センター、1996年）
- ㉖ 伊藤裕偉『多気道跡群発掘調査報告－志郡美林村上多気所在－』（三重県埋蔵文化財センター、1993年）
- ㉗ 斎宮歴史博物館柴山主子氏からご教示を得た。
- ㉘ 本堂弘之『三宅西条城跡発掘調査報告』（三重県教育委員会、1983年）
- ㉙ 石川降郎他『ヒキタ庵寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか』（三重県埋蔵文化財センター、1992年）
- ㉚ 黒書土器の数量は、報告書掲載遺物から算出した。ただし、詳細な出土場所がわからない表土除去、範囲確認坑は除いた。

写 真 図 版



A地区調査区全景 南から



B地区調査区全景 北から

図版 2



C地区下層調査区全景 北から



SE71遺物出土状況 東から



D地区調査区全景 北から



SX152遺物出土状況 南から

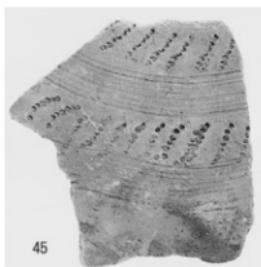
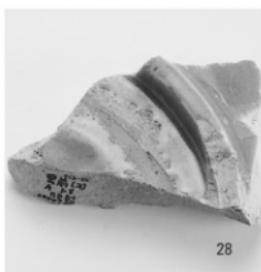
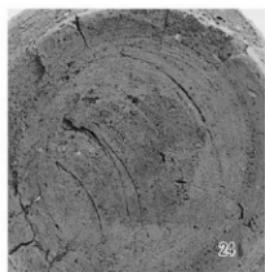
図版 4



SE126遺物出土状況



SE126断面 東から

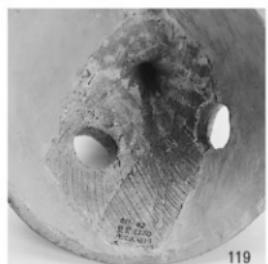
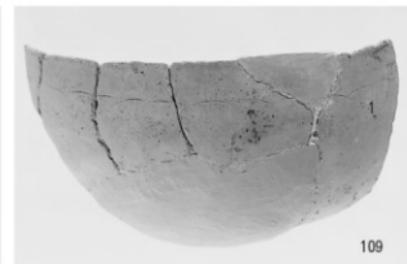
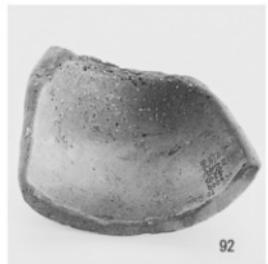


A地区出土遺物

图版 6

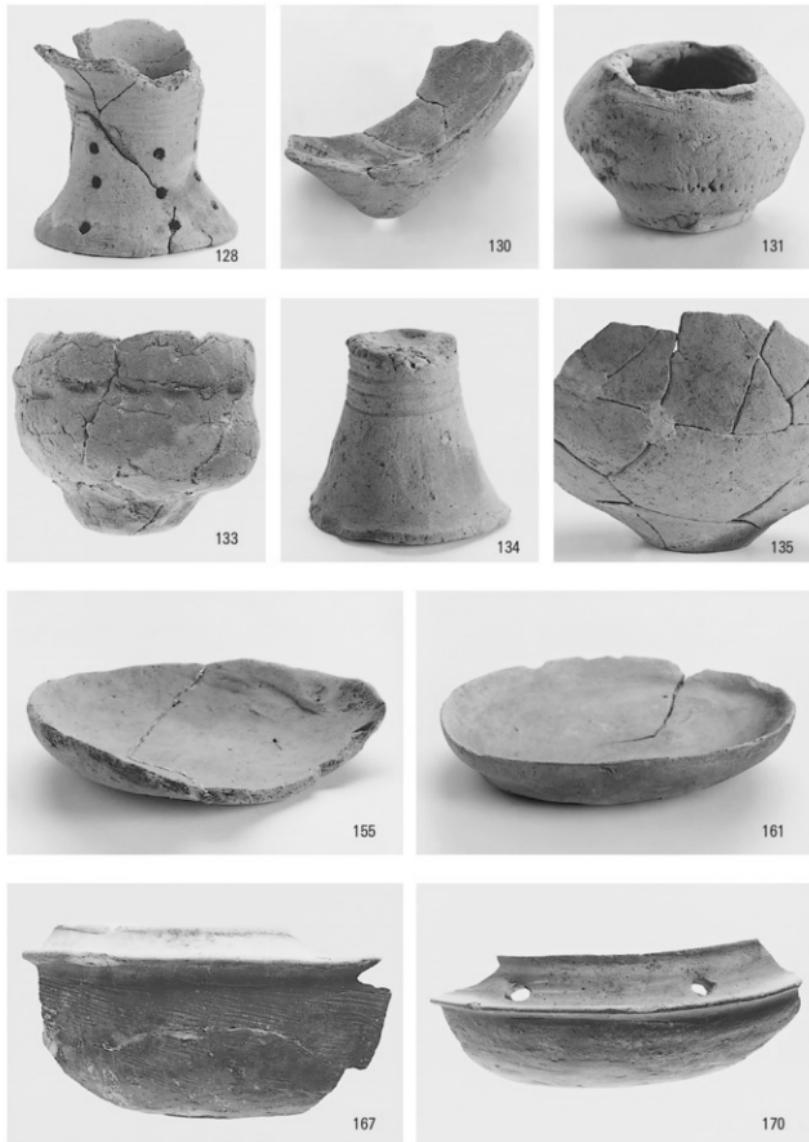


A地区出土遗物

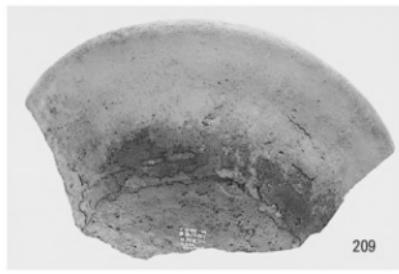
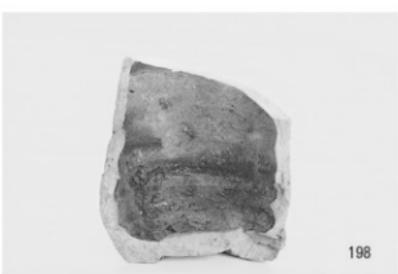
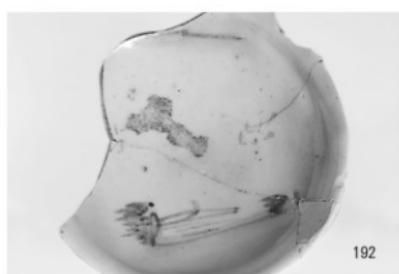
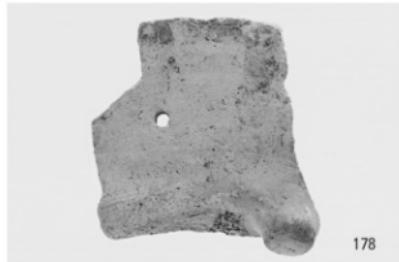


A地区出土遺物

図版 8

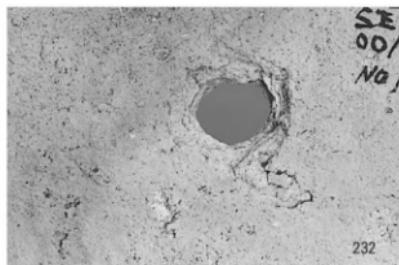


A・B地区出土遺物



B 地区出土遺物

图版10



B地区出土遗物



257



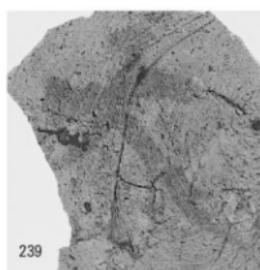
259



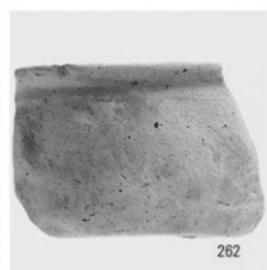
260



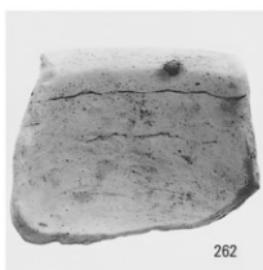
260



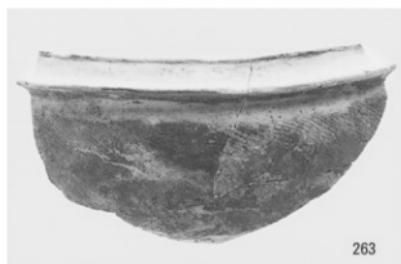
239



262



262



263



271

B地区出土遺物

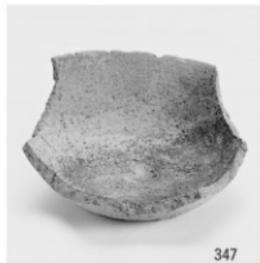
図版12



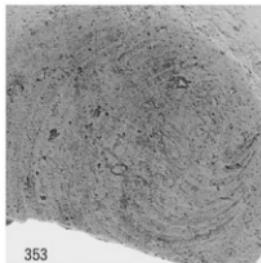
B・C地区出土遺物



335



347



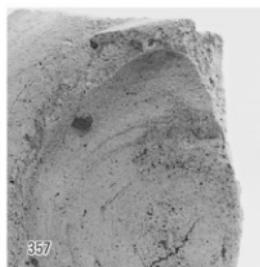
353



346



350



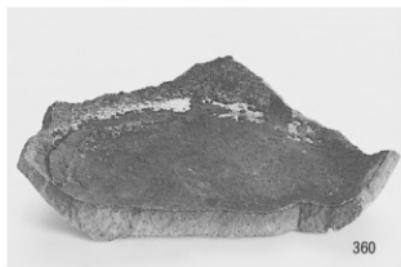
357



377



379



360



362

C地区出土遺物

图版14

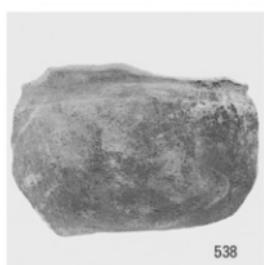
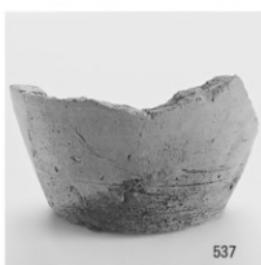
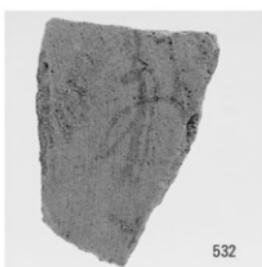
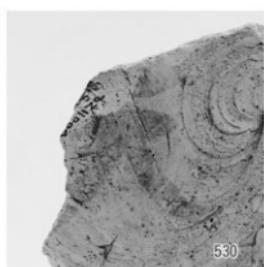
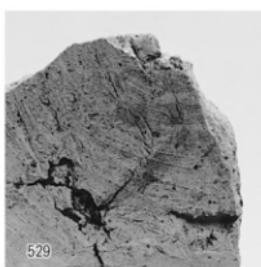
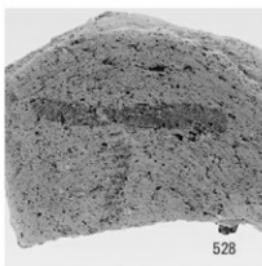
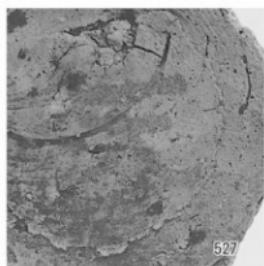
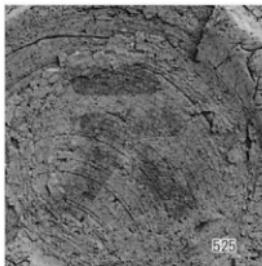
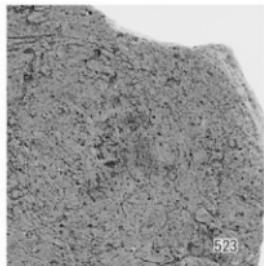
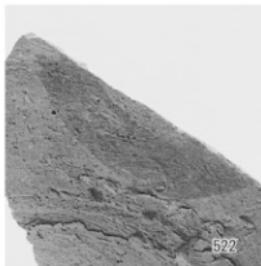


C 地区出土遗物

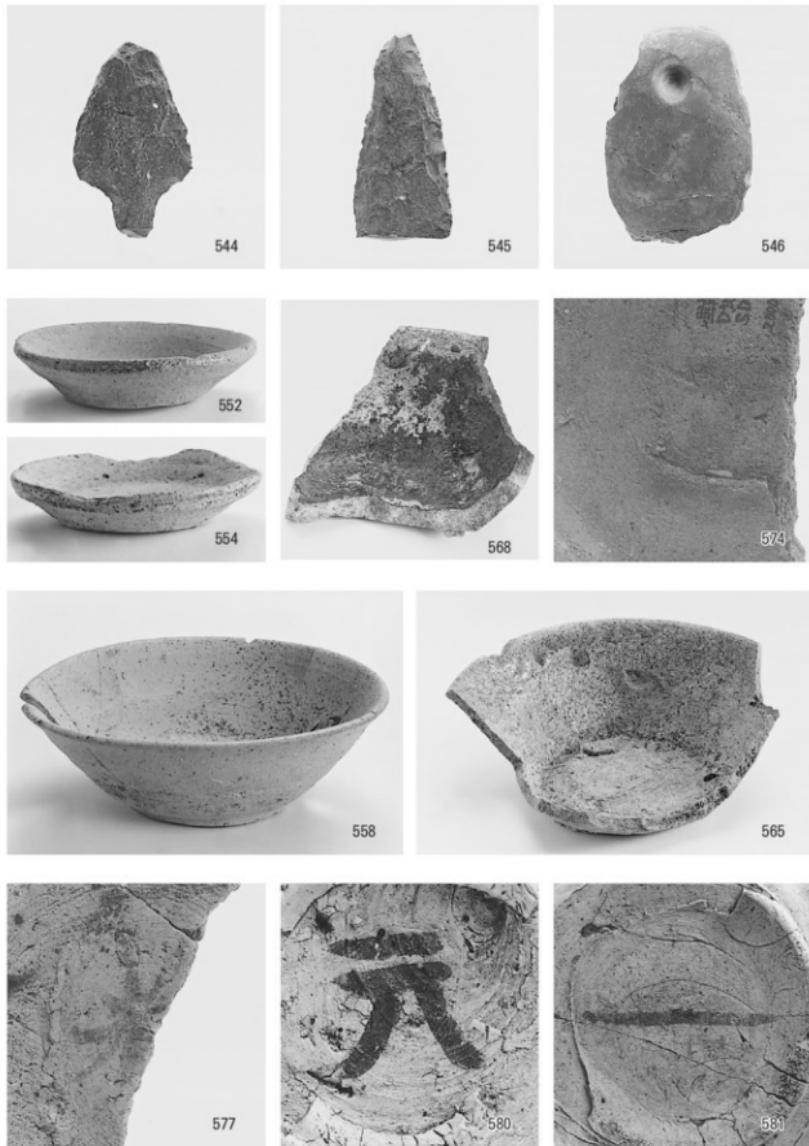


D地区出土遺物

图版16

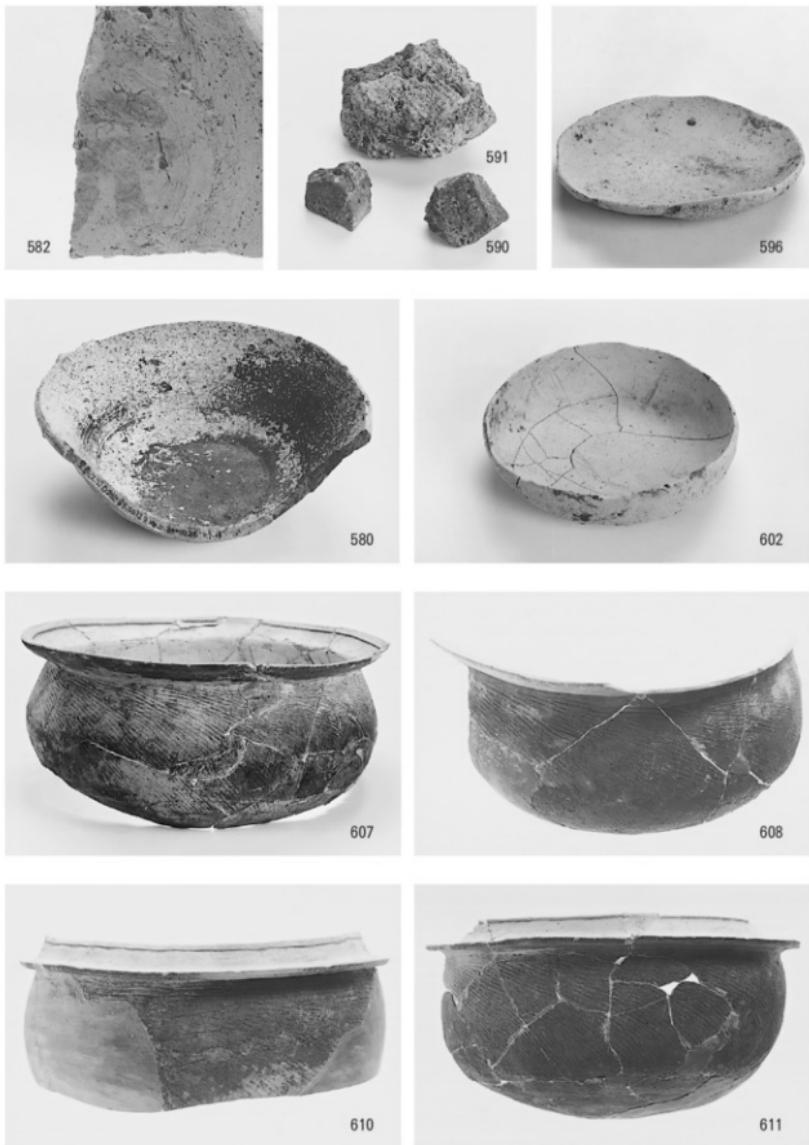


D地区出土遗物

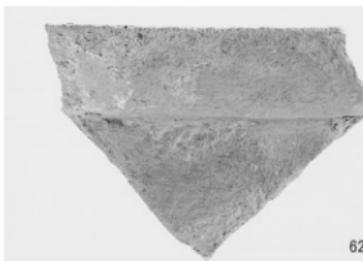
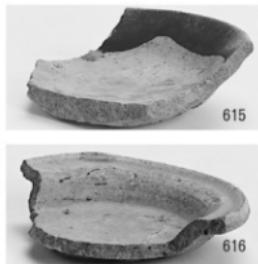
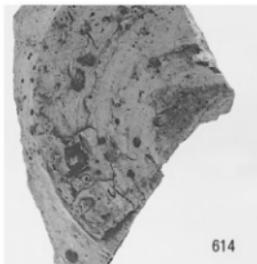


D地区出土遺物

图版18



D地区出土遗物



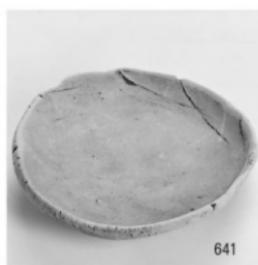
623



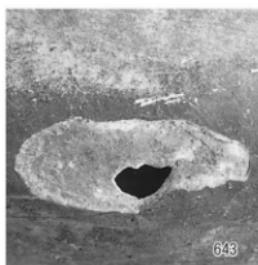
634



624



641



643



639



643

D地区出土遺物



659



660



661



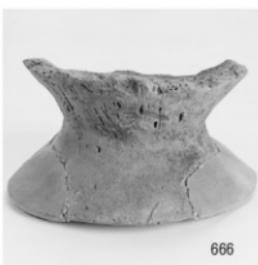
684



664



665



666



667



686



689

D地区・範囲確認調査出土遺物

報告書抄録

ふりがな	さとまえいせき（だいにじ）はっくつちょうさほうこく							
書名	里前遺跡（第2次）発掘調査報告							
副書名								
卷次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	254							
編著者名	（執筆）水谷豊・酒井巳紀子 （遺物写真）田中久生　（編集）竹田憲治							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さとまえいせき 里前遺跡	みえけんつし のだざさとまえ 三重県津市 野田字里前	24201	761	33° 29' 30"	34° 42' 49"	20000612 ～ 20001228	1300m ²	県営ほ場整備事業
里前遺跡	集落跡	弥生～江戸		井戸・溝など		土師器・陶器・磁器		
要約	<p>里前遺跡は、三重県津市野田字里前に所在する古墳時代～江戸時代の遺跡である。平成10年に中勢道路建設事業に伴って第1次調査が行われ、多量の陶器・墨書き器が出土している。</p> <p>第2次調査では、弥生時代後期～古墳時代前期と鎌倉時代～江戸時代の遺構を確認した。</p> <p>弥生時代後期～古墳時代前期は、方形周溝墓や環濠的な可能性を持つ溝を確認し、「龍」の絵画土器や古式土師器が出土した。</p> <p>鎌倉時代は、墓や井戸を確認し、墓には刀子や陶器等が埋納され、井戸からは漆椀・曲物・桶等が出土した。出土遺物は陶器が多く、墨書き器が出土していることに注目され、第1・2次調査の成果から、年貢集配に関わる作業が行われていただけでなく、河川を輸送経路として物資流通の役割を担っていたと考えられる。</p> <p>江戸時代は、井戸が減少するものの、引き続き集落が営まれる。出土遺物は、瀬戸美濃産陶器を中心に18世紀中頃まであり、この頃まで当遺跡内に集落が営まれていたと考えられる。</p>							

三重県埋蔵文化財調査報告254

里前遺跡（第2次）発掘調査報告

～三重県津市野田所在～

2005（平成17）年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印 刷 伊藤印刷株式会社
